

第十一類 社會事業 第一章 賑恤 救護

住所地町村長ヲ經テ支廳長ニ出願スヘシ
町村長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ直ニ支廳長ニ進達スヘシ

第四條 救護ヲ受クル者願書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ第一條ノ出願人又ハ之ニ代ハル者ヨリ直ニ住所地合ハ舊住所地町村長ヲ經テ救護ヲ許可シタル支廳長ニ届出ツヘシ

第五條 町村長ハ救護ノ廢止若ハ停止又ハ救護ノ程度若ハ方法變更ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ理由及意見ヲ具シ直ニ支廳長ニ報告スヘシ

第六條 町村長ハ常ニ被救護者ノ狀況ニ注意シ毎年六月、九月、十二月、三月ノ末日ヲ期トシ其ノ狀況ヲ翌月十日迄ニ支廳長ニ報告スヘシ

第七條 軍事救護法施行令第十一條ニ依リ樺太廳長官ニ審査ヲ出願スル場合ニ於テハ救護ノ拒否又ハ廢止停止ノ指令ヲ交付シタル町村長ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

軍事救護願

教ム	本籍
護ト	住所

ヲス	氏名	生年月日	職業	被救護者資格ノ種類ニ關スル希望
ケ者	何某			
ケ者	何某			
出願ノ事由	氏名	所屬部隊又ハ領守府	兵	種官等級
(法第五條列記ノ生活不能ノ原因タル事由詳記)				

右之通ニ付救護被成下度候也
年 月 日 出願人 戶主 其ノ他一家經理 何 某印
樺太廳何支廳長宛

- 備考
- 一 本様式ハ救護ヲ受ケムトスル者二人以上アル場合ノ様式ナリ故ニ救護ヲ受ケムトスル者一人ノミナル場合ハ出願人ハ本人又ハ其ノ法定代理人トス
 - 二 救護ヲ受ケムトスル者住所ヲ異ニスル場合ハ其ノ住所別ニ願書ヲ作成スルモノトス
 - 三 「被救護者資格」ノ欄ハ傷病兵ニ在リテハ兵役ヲ免セラレタル原因其ノ他ノ者ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵トノ續柄ヲ記載スルモノトス
 - 四 「所屬部隊又ハ領守府」ノ欄ハ傷病兵ニ在リテハ傷病ニ依リ兵役

〔樺法〕

(第二號様式)

軍事救護調書

ヲ免セラレタル當時ノ部隊又ハ領守府ヲ記載スルモノトス

全家族ニ關スル調書	身分	種別	氏名	資及所得ノ内譯	勞務ノ程度	法第八條ノ事項	他家ニ在ル扶養義務者ノ氏名職業ノ狀況	其ノ他ノ事項
	(戶主)	(長男)	(妻)	(何)				
團體又ハ個人名	被救護者氏名	救護ノ種類程度方法	團體又ハ個人名	備考				
一家生活ノ狀況	救護ノ種類程度方法	意見						

右之通ニ候也

年 月 日

樺太廳何支廳長宛

町 村 長印

第十一類 社會事業 第一章 賑恤 救護

(第三號様式)

埋葬費下付願

被救護者	氏名	生年月日	職業	死亡ノ原因	死亡ノ場所	死亡ノ年月日	埋葬ノ場所	埋葬ノ事由
本籍	現住所	男女ノ別						
本籍	現住所	生年月日	職業	死亡ノ原因	死亡ノ場所	死亡ノ年月日	埋葬ノ場所	埋葬ノ事由
		男女ノ別						

〔樺法〕

理葬費		内 譯	
費目	數量	單價	金額
			摘要

右之通ニ付理葬費御下付相成度候也

年 月 日 出願人 何 某印

樺太廳何支廳長宛

備考

- 一 被救護者ノ現住所欄ニハ死亡直前ノ住所ヲ記シ救護ヲ受ケタル場所ト異ナル場合ハ其ノ住所ヲ左側ニ併記スルモノトス
- 二 被救護資格欄ニハ傷病兵ニアリテハ兵役ヲ免セラレタル原因其ノ他ノ者ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵ノ氏名及其ノ續柄ヲ記載スルモノトス
- 三 埋葬者ノ欄死亡者トノ續柄ハ死亡者ト戸籍上關係ナキモノニアリテハ其ノ間柄ヲ具體的ニ記載スルモノトス
- 四 埋葬事由ノ欄ニハ扶養義務者ニ非ルモノ埋葬ヲ行ヒタル場合ニ限り記載スルモノトス
- 五 埋葬費ノ内譯ハ可成詳細ニ記載スルコト

●軍事救護法施行手續

昭和六年十二月二十九日
訓令第三百一十一號

軍事救護法施行手續左ノ通改正ス

軍事救護法施行手續

第一條 支廳長軍事救護ノ願書ヲ受理シ又ハ町村長ヨリ軍事救護ニ關スル具申アリタル場合ハ速ニ救護ヲ受ケムトスル者ノ資産及所得ノ程度、勞役ノ能否、扶養義務者及救護ヲ爲ス者ノ有無其ノ他必要ナル各種ノ狀況ヲ調査シ許可ヲ決定スヘシ

救護出願者又ハ救護ノ必要アリト認ムル者カ軍事救護法第二條、第四條、第十一條又ハ第十二條ニ該當スル者ナリヤ否ノ調査ニ關シテハ陸軍ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官、海軍ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵ノ在籍領守府ノ海軍人事部長ニ左ノ事項ヲ具シ照會スヘシ但シ傷病兵ニシテ増加恩給又ハ賑恤金ヲ受ケタル者、下士兵卒並傷病兵ノ遺族ニシテ傷疾扶助料ヲ受ケル者等其ノ傷疾若ハ疾病カ戰鬪又ハ公務ニ起因シタルコト明瞭ナル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 傷病兵又ハ其ノ家族ノ場合
傷病兵ノ元官等級氏名
傷病兵ノ本籍地及居住地
陸軍ニ在リテハ所屬部隊及入營年月日
海軍ニ在リテハ海軍入籍年月日及入籍番號

〔樺法〕

兵役免除年月日

二 下士兵卒家族ノ場合

軍人ノ官等級氏名

軍人ノ本籍地

陸軍ニ在リテハ所屬部隊及入營年月日

海軍ニ在リテハ海軍入籍年月日及入籍番號

三 下士兵卒又ハ傷病兵遺族ノ場合

故軍人ノ官等級氏名

故軍人死亡當時ノ本籍地

陸軍ニ在リテハ所屬部隊及入營年月日

海軍ニ在リテハ海軍入籍年月日及入籍番號

死歿年月日

特別賜金ヲ受ケタルコトノ有無

第二條 支廳長救護ヲ許可シタルトキハ第一號様式ニ依リ直ニ樺太廳長官ニ報告シ仍第一條第二項各號ノ事項ヲ具シ被救護者ノ氏名、救護資格、本籍地、居住地、救護ノ種類程度及救護開始ノ年月日ヲ本籍地地方長官、陸軍ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官、海軍ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵ノ在籍領守府ノ海軍人事部長ニ通知スヘシ

支廳長軍事救護法施行令第一條第二項但シ書ニ依リ救護ヲ行ヒタル場合ハ事由ヲ具シ前項ニ準シ取扱フヘシ

第三條 支廳長ハ毎年一月、四月、七月、十月ニ於テ前月迄ノ救護ノ狀況ヲ第二號様式ニ依リ其ノ月二十日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十一類 社會事業 第一章 賑恤 救護

支廳長ハ年度内ニ於ケル救護ノ狀況ヲ第三號様式ニ依リ毎年度經過後一月内ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第四條 支廳長救護ノ廢止若ハ停止又ハ救護ノ程度若ハ方法ノ變更ヲ行ヒタルトキハ其ノ旨直ニ樺太廳長官ニ報告シ仍第二條ニ依リ通知ヲ爲シタル聯隊區司令官又ハ海軍人事部長ニ通知スヘシ

第五條 支廳長軍事救護法施行令第十一條ニ依ル審查ノ願書ヲ受理シタルトキハ救護ノ不許可又ハ廢止、停止ノ理由ヲ詳具シ速ニ樺太廳長官ニ進達スヘシ

附則
本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

（第一號様式）

軍事救護報告		被救護者	
本籍	住所	氏名	住
	生年	月日	職業
被救護者資格	所得ノ	被救護者資格	内譯ノ
	勞役ノ	程度	能力程度
救護ノ種類	種類	種類	程度
	官等	官等	程度
扶養義務者	氏名	扶養ノ狀況	氏名
	職業	資	資
他家ニ在ル	氏名	扶養ノ狀況	氏名
	職業	資	資

第十一類 社會事業 第一章 賑恤 救護

ノ氏名職業 資産扶養ノ 状況	團體又ハ個 人ノ救護	被救護者氏名	救護ノ種類 程度ノ方法	團體又ハ 個人ノ名	備考

右本日救護候ニ付報告候也

年月日

支廳長印

樺太廳長官宛

(第二號様式)

種 類	種 別	軍事救護狀況報告 昭和 年 自 月 分		差 引 額	備 考
		戸數人員	金額		
種別					
生活扶助 現金給與					
醫 療					
生 業 扶 助					
助 産					
理 葬					
勅令第六 條ノ臨時 救護					
合計					

四〇

勅令第六條ノ臨時 救護	計

右報告候也

年月日

支廳長印

樺太廳長官宛

注意

- 一 戸數人員ハ當該期間内ニ於ケル被救護者總數ヲ記入シ前期ヨリノ被救護者ハ朱書ヲ以テ抽記スルコト
- 二 支出金額ハ當該期間内ニ支拂ヒタル金額ヲ記入スルコト
- 三 豫算額ハ前期ヨリノ支拂殘額及當該期間ノ救護金トシテ配付ヲ受ケタル金額記入スルコト
- 四 差引殘額ハ豫算額ヨリ支出金額ヲ差引キタル金額ヲ記入スルコト
- 五 同一人ニ對シ二種以上ノ救護ヲ爲ス場合ハ主タル方ヲ墨書トシ其ノ他ノ分ヲ朱書スルコト
- 六 金額ハ四捨五入シ圓位ニ止ムルコト
- 七 表中「戸數」トアルハ戸籍ニ依ル「戸」ノ數ナリ
- 八 備考欄ニハ前報告ノ數ト比較シテ増減アル場合等ノ如キ特ニ參考トナルヘキ事項ヲ記載スルコト

(第三號様式)

軍事救護狀況報告 昭和 年度分

〔棒法〕

種 類	種 別	軍事救護狀況報告 昭和 年 自 月 分		差 引 額	備 考
		戸數人員	金額		
種別					
生活扶助 現金給與					
醫 療					
生 業 扶 助					
助 産					
理 葬					
勅令第六 條ノ臨時 救護					
合計					

右報告候也

年月日

支廳長印

樺太廳長官宛

注意

- 一 戸數人員ハ當該年度内ニ於ケル被救護者ノ總數ヲ記入シ前年度ヨリノ被救護者ハ朱書ヲ以テ抽記スルコト
- 二 傷病兵ニシテ家族ヲ有スル場合ニ於テハ「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ニ傷病兵ノ分ヲ加ヘタルモノヲ掲ケ傷病兵ノ人員ハ更ニ朱書括弧ヲ付シ「傷病兵」ノ欄ニ掲ケタルコト

第十一類 社會事業 第一章 賑恤 救護

〔棒法〕

- 三 「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ハ下士兵卒ノ家族トヲ區分シ二行ニ(右欄ヲ下士兵卒ノ家族)掲ケタルコト「下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族」ノ欄亦同シ
- 四 同一人ニ對シ二種以上ノ救護ヲ爲ス場合ハ主タル方ヲ墨書トシ其ノ他ノ分ヲ朱書スルコト
- 五 計ノ欄ハ墨書、朱書ノ合計ヲ掲ケヘキモノナルモ重複スルモノハ合計ニ加ヘサルコト
- 六 金額ハ四捨五入シ圓位ニ止ムルコト
- 七 表中「戸數」トアルハ戸籍ニ依ル「戸」ノ數ナリ

第二章 共濟組合

樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局現業員ノ共濟組合ニ關スル件

大正八年七月二十六日
勅令第三百六十一號

改正 昭三年六月勅令一〇九號

朕樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局現業員ノ共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總大臣)

第一條 樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局所屬ノ職員以下ノ現業員ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 樺太廳長官ハ樺太廳、樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局ノ職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給給料ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

附則 本令ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第三百六十一號第一條ノ現業員指定ノ件

大正八年十月一日
勅令第五十一號

改正 大正二年九月勅令三〇號

大正八年勅令第三百六十一號第一條ノ現業員左ノ通定ム

第一條 大正八年勅令第三百六十一號第一條ノ現業員左ノ如シ

一、鐵道

鐵道事務所々屬ノ職員及備人但シ専ラ地方鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事務ニ從事スル者ヲ除ク

二、郵便局

郵便局勤務ノ職員及備人(信使ヲ除ク)

第二條 前條ノ職員又ハ備人ノ見否又ハ心得ヲ命セラレタル者ハ各其ノ本職ニ準ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則

大正八年十月一日
勅令第三百三十三號

改正 大正九年六月勅令一四四號、一〇年一〇月三九號、一二年一〇月六九號、一四年六月二二號

樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則

第一章 總則

第一條 組合ハ樺太廳鐵道事務所現業員共濟組合及樺太廳郵便局現業員共濟組合ト稱シ各別ニ之ヲ組織ス

第二條 組合ハ樺太廳長官之ヲ監督シ其ノ鐵道現業員ニ關スル事務ニ付テハ鐵道事務所長其ノ郵便局現業員ニ關スル事務ニ付テハ内務部通信課長之ヲ掌理ス

第二章 組合員

第三條 組合員ヲ分テテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ大正八年勅令第三百六十一號第一條ニ定ムル職員以下ノ現業員ヲ謂ヒ其ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム

乙種組合員トハ前項現業員以外ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第一項第五號ノ場合ニ於テ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル者ヲ謂フ

甲種組合員ハ第二項ノ職員ニ採用セラレタル時、乙種組合員ハ加入ヲ承認セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス但シ特定郵便局所屬ノ職員ハ甲種組合員トシテ指定セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

〔樺法〕

第四條 臨時ニ使用スル者給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第五條 組合員ハ左ノ場合ニ限り脱退ス

一 死亡シタルトキ

二 退官又ハ退職シタルトキ

三 休職ト爲リタルトキ

四 樺太廳鐵道事務所及郵便局以外ノ官署ニ轉勤シタルトキ

五 甲種組合員カ現業員以外ノ職務ニ轉シタルトキ但シ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

六 乙種組合員カ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

七 第四條ニ該當スルニ至リタルトキ

廢職、廢職其ノ他官署ノ都合ニ依リ又ハ兵役ニ服スル爲退職シタル者退職シ又ハ兵役ヲ終リタル日ヨリ三十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退職ノ際反對ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

鐵道及通信部外ニ於テ各其ノ臨時ノ業務ニ從事スル爲又ハ鐵道若ハ通信事務ニ關スル學術研究ヲ命セラレタル爲第一項第二號乃至第四號ニ該當スルニ至リタル者元所屬ノ官署ニ歸還シタル後六十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス

第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ本令ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

第三章 掛金

第七條 組合員ハ左ノ區分ニ依リ毎月掛金ヲ支拂フヘシ但シ特定郵便局所屬ノ組合員ノ掛金ハ選信課長ノ指定スル額ニ依ル

甲種組合員ニ在リテハ給料月額ノ百分ノ三
乙種組合員ニ在リテハ給料月額ノ百分ノ五

第八條 掛金ハ年俸ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ十二分ノ一、日給ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ給料月額ト定メ計算シ餘額未滿ハ之ヲ四捨五入ス

特別ノ加給又ハ缺勤等臨時ノ事由ニ因リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ掛金額ヲ増減セズ

第九條 掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フヘシ給料ヲ受ケサル月及給料ヲ受ケルモ其ノ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

第四章 救済

第十條 救済金ハ左ノ六種トス

- 一 公傷給與金
- 二 醫療給與金
- 三 死亡給與金
- 四 災害給與金
- 五 脫退給與金
- 六 勤績給與金

第十一條 公傷給與金ハ甲種組合員職務執行上傷疾ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキハ其ノ等級ニ依リ別表第一號ノ金額ヲ給與ス

一等 重傷死ニ至リタルトキ

二等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケタルトキ

三等 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケタルトキ

四等 自用ヲ辨シ並業務ニ就クコトヲ得ト雖身體ヲ毀損シ蓄ニ復スルコトヲ得ス因テ退官又ハ退職シタルトキ

五等 身體ヲ毀損シ蓄ニ復スルコトヲ得スト雖引續キ職務ニ服スルトキ

第十二條 甲種組合員職務執行上傷疾ヲ受ケタルモ公傷給與金ヲ受ケルニ至ラザリシモ當該傷疾ニ基因シ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ更ニ公傷給與金ヲ給與ス

公傷給與金ヲ受ケタル者ト雖當該傷疾ニ基因シ更ニ上級ノ公傷給與金ヲ支給スヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ給與ス

職務執行上傷疾ヲ受ケタル甲種組合員ニシテ脱退ノ日ヨリ一年以内ニ前二項ニ該當スルニ至リタルトキ前二項ノ規定ヲ準用ス

第十三條 甲種組合員職務執行上疾病ニ罹リタルトキハ前二條ニ準シ公傷給與金ヲ給與ス

第十四條 醫療給與ハ甲種組合員職務執行上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ治療ヲ爲シタルトキ醫療費ニ相當スル金額ヲ給與ス

組合ニ加入後一年ヲ經過シタル組合員職務ニ基因スルニ非スシテ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ十四日以上勤務スルコト能ハサルトキハ給料半額ニ相當スル醫療給與金ヲ給與スルコトヲ得但シ缺勤

〔補法〕

中給料ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ給與金ハ缺勤十四日ヲ超エタル日ヨリ之ヲ給與シ一事業年度ヲ通シ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 死亡給與金ハ甲種組合員死亡シタルトキ又ハ組合ニ加入後六月ヲ經過シタル乙種組合員死亡シタルトキ別表第二號ニ依リ之ヲ給與ス

第十六條 災害給與金ハ組合員天災其ノ他非常ノ災害ニ罹リタルトキ給料二箇月分以内ニ於テ之ヲ給與ス

第十七條 脫退給與金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ自己ノ便宜ニ因リ退官又ハ退職シ若ハ第五條第六號ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 甲種組合員第五條第二號乃至第五號及第七號ノ事由ニ因リ脱退シタル場合ハ掛金總額ニ別表第三號ノ率ヲ乘シタル金額

二 乙種組合員脱退シタル場合ハ掛金總額ニ相當スル金額但シ第五條第一項第五號但書ノ規定ニ依リ加入ヲ繼續シタル者ノ甲種組合員

タリシ期間ノ給與金ニ對シテハ前號ノ計算方法ニ準ス

第十八條 組合員第五條第六號ニ該當シ若ハ自己ノ便宜ニ因リ退官又ハ退職シタル場合ニ於テ加入後一年ヲ經過シタルトキハ前條ニ依リ算出シタル金額ノ十分ノ七ニ相當スル脱退給與金ヲ給與ス

第十九條 勤績給與金ハ組合ニ加入後五年ヲ經過シタル組合員カ脱退シタルトキ別表第四號ニ依リ之ヲ給與ス

第二十條 救済金給與ノ事由併發シタルトキハ救済金ハ之ヲ併給ス但シ死亡給與金脱退給與金ハ之ヲ併給セズ

脱退給與金ノ額カ死亡給與金ノ額ヨリ多キトキハ死亡給與金トシテ之

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

ヲ給與ス

第二十一條 救済金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ給與金ニ加ヘ又ハ之ヲ給與金ヨリ減ス

第二十二條 救済金算定ノ基本タル給料ハ救済金給與ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依ル但シ第十三條第三項ノ場合ニ於テハ脱退當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依ル

前項ノ給料及救済金ノ算定ニ付テハ第八條ノ規定ヲ準用ス

特定郵便局所屬ノ組合員ニ在リテハ掛金ヲ三分シタルモノニ百ヲ乘シタルモノヲ以テ給料月額ト看做シ前項ノ例ニ依ル

第二十三條 救済金ノ請求ハ救済金ヲ受ケヘキ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 組合員死亡シタルトキハ其ノ戸主若ハ家族又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ直ニ鐵道事務所長又ハ内務部選信課長ニ申告スヘシ

第二十五條 組合員死亡シ又ハ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ本人又ハ戸主若ハ家族ハ組合ノ指定シタル醫師ノ臨檢又ハ診察ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 組合員又ハ其ノ戸主若ハ家族前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ救済金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第二十七條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ官職ヲ免セラレタルトキ本章ノ救済金ヲ給與セズ

第二十八條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救済金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員カ死亡前特別ノ意志ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

一 配偶者
 二 直系卑屬
 三 直系尊屬
 前項第二號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ第二號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス
 第一項第二號及第三號ニ該當スル者ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス
第二十九條 前條ノ規定ニ依リ給與金ヲ受領スル者ナキトキハ受領者ヲ指定シ給與金ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得
第三十條 第十三條第三項ノ場合ニ於テハ前六條ノ規定ヲ準用ス
第五章 會計
第三十一條 組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
第三十二條 組合ノ財産又ハ利益ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ銀行ニ預入シ若ハ國債證券又ハ地方債券ヲ購入スルコトヲ得
第三十三條 組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得
第三十三條ノ二 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ事業資金ハ組合現在資金ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
第六章 審査會
第三十四條 加入及脱退ニ關スル處分並救済金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ樺太廳長官ニ申告シ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

四六

第三十五條 審査會ハ議長一名及審査委員六名ヲ以テ之ヲ組織ス
第三十六條 議長ハ樺太廳長官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ樺太廳、樺太廳鐵道事務所及郵便局高等官中ヨリ之ヲ指定ス
第三十七條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス
 議長事故アルトキハ審査委員中ノ上席高等官之ヲ代理ス
第三十八條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
第三十九條 審査委員ハ自己ニ特別ノ利害關係ヲ有スル事件ニ付テハ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
第四十條 審査會ノ決議ハ審査ヲ求メタル者ニ之ヲ通知スヘシ
第四十一條 審査會ノ決議ハ組合ヲ縛束ス
附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十四年勅令第二十二號)
 本令ハ大正十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
 大正八年十月樺太廳令第三十三號附則第二項ハ之ヲ廢止ス
 (別表)

第一號表(公傷給與金)

等	級	給與金額
一	等	給料 二年分
二	等	給料 一年一箇月分乃至一年九箇月分
三	等	給料 七箇月分乃至一年分

〔樺法〕

第二號表(死亡給與金)

四	等	給料 三箇月分乃至六箇月分
五	等	給料 一箇月分乃至三箇月分

加入期間	給與金額	加入期間	給與金額
六箇月未滿	給料 二箇月分	二年以上	給料 八箇月分
六箇月以上	給料 四箇月分	三年以上	給料 十箇月分
一年以上	給料 六箇月分	四年以上	給料 一年分

第三號表(脱退給與金)

加入年數	乘	加入年數	乘
一年	一、〇〇	二十六年	一、七六
二年	一、〇三	二十七年	一、八〇
三年	一、〇六	二十八年	一、八四
四年	一、〇九	二十九年	一、八八
五年	一一、一一	三十年	一九三
六年	一一、一四	三十一一年	一九七
七年	一一、一六	三十二年	二〇二
八年	一一、一九	三十三年	二〇六
九年	一一、二一	三十四年	二一一

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

加入年數ノ計算ニ於テ端數ノ月ヲ生シタル場合ニハ之ヲ年ニ繰上テ	加入年數	乘	加入年數	乘
十	年	一、二四	三十五年	二、一六
十一	年	一、二七	三十六年	二、二一
十二	年	一、三〇	三十七年	二、二七
十三	年	一、三二	三十八年	二、三二
十四	年	一、三五	三十九年	二、三八
十五	年	一、三八	四十年	二、四三
十六	年	一、四一	四十一年	二、四九
十七	年	一、四四	四十二年	二、五五
十八	年	一、四八	四十三年	二、六二
十九	年	一、五一	四十四年	二、六八
二十	年	一、五四	四十五年	二、七五
二十一	年	一、五八	四十六年	二、八二
二十二	年	一、六一	四十七年	二、八九
二十三	年	一、六五	四十八年	二、九六
二十四	年	一、六八	四十九年	三、〇四
二十五	年	一、七二	五十年	三、一一

備考 加入年數ノ計算ニ於テ端數ノ月ヲ生シタル場合ニハ之ヲ年ニ繰上テ

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

第四號表(勤積給與金)

勤積年數	給與金額
五年以上	甲種組合員 勤積給與金算出額ノ十分ノ五
十年未滿	乙種組合員 同上十分ノ一

備考 十年以上ハ右例ニ依ヒ五年ヲ増ス毎二十分ノ一ヲ加フ

樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則施行規程

大正十年九月二十五日 廳訓令第六十二號

改正 大正四年六月訓令一三三號

內務部 鐵道事務所 郵便局

樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則施行規程

第一章 總則

- 第一條 鐵道事務所長及逕信課長ハ各所屬組合員ニ付別表第一號様式ノ組合員原簿ヲ設クヘシ
- 第二條 逕信課長ハ特定局所屬組合員定員ヲ逕信事務員、通信夫ニ區別シ各局毎ニ指定スヘシ
- 前項定員一人ヲ以テ女子又ハ少年二人ニ換算スルコトヲ得
- 第三條 乙種組合員トシテ組合員加入セントスル者ハ別表第二號様式ノ加入申込書ヲ提出シ所屬長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ノ組合員任意ニ脱退セムトスルトキハ別表第三號様式ノ脱

退員ヲ提出スヘシ

第二章 掛金

- 第五條 掛金ハ樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則(以下規程)第八條ノ規定ニ依リ各月初ノ俸給、給料ヲ標準トシテ定ムヘシ但シ判任官以上ノ者ノ俸給ニハ加俸ヲ包含セサルモノトス
- 特定郵便局所屬組合員ノ掛金ハ第二條ノ區別ニ依リ各局毎ニ之ヲ指定ス
- 前項ノ掛金指定額ニ指定定員ヲ乘シタルモノハ特定郵便局事務費、集配費及遞送費ノ通常費令達總額ノ百分ノ三ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第六條 月ノ中途ニ於テ掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定又ハ指定スヘシ但シ組合員加入又ハ脱退シタル者ノ其ノ月分ノ掛金ハ全額ヲ支拂フヘシ

第三章 救濟

- 第七條 規則ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類ヲ添付シ所屬長ニ之ヲ請求スヘシ
 - 一 公傷給與金ニ付テハ傷病又ハ疾病ノ原因、經過及機能障害ノ程度ヲ詳記シタル診斷書又ハ病況書、死亡ノ場合ニ在リテハ死亡診斷書若ハ死體檢案書並正當請求順位者タルコトヲ證明スルニ足ル戶籍謄本
 - 二 醫療給與金ニ付テハ病名並藥價、處置料、手術料又ハ入院料毎ニ受療日數及醫療費用ヲ明ニシタル領收書若ハ證明書但シ規則第十四條第二項ニ依リ給與金ニ付テハ休業ヲ要スル旨ヲ明カニシタル診斷書又ハ證明書ヲ添付シ其ノ他ノ書類ヲ要セス

三 死亡給與金ニ付テハ死亡診斷書又ハ死體檢案書及正當請求順位者ナルコトヲ證明スルニ足ル戶籍謄本

四 脱退給與金ニ付テハ疾病ニ因ル退職ノ場合ニ限り診斷書又ハ證明書

救濟金ノ併給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ同時ニ其ノ請求書ヲ提出スヘシ
第八條 前條ニ規定シタルモノノ外救濟金ノ給與ニ付必要ト認ムル書類ハ之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第九條 規則第二十九條ニ依リ救濟金ヲ給與スヘキ場合ハ左ノ例ニ依リ
一 死亡者ノ葬祭ヲ營ミタル者アルトキハ救濟金ノ三分ノ一ヲ限度トシテ相當ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

二 救濟金ノ三分ノ二ハ左ノ順位ニ依リ之ヲ支給スルコトヲ得
第一 婚姻ノ届出ナキモ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦ト認メ且其ノ實アリト認メラルル者
第二 民法第九百七十九條第九百八十二條及第九百八十五條ノ家督相続人

第三 戸主
第四 他家ニ在ル直系卑屬
第五 他家ニ在ル直系尊屬
第六 死亡者ノ家ニ在ル兄弟姉妹
第七 死亡者ノ給養ヲ受クル者

三 前二號ノ支給ヲ爲シ尙救濟金ノ殘額アルトキハ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第十條 所屬長ハ救濟金額ヲ決定シ正當受領者ニ通知シテ支拂ノ手續ヲ
第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

爲スヘシ

第十一條 救濟金ノ受領者ハ豫メ受取地ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ救濟金請求書ニ明記スルコトヲ要ス

第四章 會計

- 第十二條 所屬長ハ毎月所屬組合員ノ掛金ヲ徵集シ遲滞ナク郵便局又ハ銀行ニ預入スヘシ
- 第十三條 政府ヨリ受クヘキ給與金ハ之ヲ月割トシ毎月其ノ前月分ノ甲種組合員給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ請求スヘシ
- 前項給與金請求ノ場合ニ於テ特定郵便局組合員ノ給料ハ掛金額ヲ三分シタルモノニ百ヲ乘シタルモノヲ以テ給料月額ト看做ス
- 第十四條 前條ノ給與金算出ノ基礎トナルヘキ給料額ハ加入脱退又ハ給料ニ異動アリタル月ニ於テハ日割計算ヲ以テ之ヲ算定スヘシ
- 第十五條 所屬長ハ別表第四號乃至第七號様式ニ依リ左ノ帳簿ヲ備ヘ各其ノ組合ノ收入及支出ヲ整理スヘシ
 - 一 資産原簿
 - 二 金錢出納簿
 - 三 掛金徵收簿
 - 四 救濟金給與簿

第十六條 所屬長ハ別表第八號様式ニ依リ毎年度ノ收入及支出決算書ヲ調製シ年度經過後二箇月内ニ長官ニ報告スヘシ

附則

本令ハ大正十年十一月一日ヨリ施行スヘシ

(別表)
第一號表 (組合員原簿)
細則附錄第一號様式ニ同シ

第二號表
共濟組合加入申込書

所屬	給官職名	原籍	氏名	生年月日

右樺太廳郵便局現業員共濟組合乙種組合員トシテ加入致度候條御承認相成度

年 月 日

逓信課長殿

右

第三號表

共濟組合脱退届

所屬	給官職名	脱退年月日	脱退事由	氏名

右樺太廳郵便局現業員共濟組合ヨリ脱退致候間及御届候也

年 月 日

逓信課長殿

右

〔樺法〕

第四號表

(資産原簿)

〔樺法〕

何年度資産月別

(本表ハ各月末ニ於ケル現在ナリ)

考	備	計	總	買金	購資	替金	振貯	座金	當預	期金	定預	月
何年度ヨリ越	何年度ヨリ越											
												4
												5
												6
												7
												8
												9
												10
												11
												12
												1
												2
												3
												計
次年度へ越	次年度へ越											

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合
附錄第三號

六〇

共濟組合員加入報告												
氏名	職名	給料額	年探	月用	日加	年入	日原	籍生	年	月	日	備考
大正 年 月 日												
選信課長殿												
局 長												

記入心得

- 一 「採用年月日」臨時者ヨリ常在者ニ移リタル者ハ常在者ニ移リタル年月日大正八年十月訓令第五十一號ニ指定セラレタル以外ノ職員ヨリ轉シタル者ハ元採用年月日ヲ記入スヘシ
- 二 「給料額」月給ヲ受クル者ハ月額、日給ヲ受クル者ハ日額ヲ記入スヘシ

附錄第四號

〔轉法〕

共濟組合員脫退報告									
氏名	職名	給料額	年脫	月退	日退	脫退事由	備考		
大正 年 月 日									
選信課長殿									
局 長									

附錄第五號

〔轉法〕

共濟組合員異動報告									
氏名	職名	異動年月日	異動事項	備考					
大正 年 月 日									
選信課長殿									
局 長									

記入心得

- 「異動事項」新所屬、改氏名、新職名、新給料等ヲ記入スヘシ

附錄第六號

共濟組合員災害報告									
氏名	職名	災害年月日	備考						
大正 年 月 日									
選信課長殿									
局 長									

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

六一

災害種類	
災害場所	
災害状況	
大正 年 月 日	
逕信課長殿	
局	
長	

記入心得

- 一 「災害種類」風水害、火災其ノ他ノ區別ヲ記入スヘシ
- 二 「災害状況」被害品名、個數、價格等ヲ記入スヘシ

附録第七號

共濟組合員傷病報告

氏名	職名	年月日	傷病種類	備
公傷、傷病各部位				
原因				
豫後状況				
大正 年 月 日				
逕信課長殿				
局				
長				

〔律法〕

記入心得

- 一 「傷病種類」公傷、職務上ノ疾病、公傷病ニアラサル傷病ノ區別ヲ記入スヘシ
- 二 「部位」傷病ヲ受ケタル部位又ハ病名ヲ記入スヘシ
- 三 「豫後状況」治療ノ見込日數ヲモ記入スヘシ

附録第八號

共濟組合員死亡報告

氏名	職名	死亡年月日	備
死亡原因			
大正 年 月 日			
逕信課長殿			
局			
長			

〔律法〕

記入心得

備考欄ニハ口頭ヲ以テ事項ヲ申告シタル者ハ其ノ申告年月日及申告者氏名、戸主、家族、及代理人ハ其ノ資格等ヲモ記入スヘシ

附録第九號 甲

公傷	給與金請求書
醫療	
災害	
〔何年何月何日何々ニ從事中何々ノ爲負傷シ何日ヨリ何月何日迄醫館ノ治療ヲ受ケ別紙何々ノ通費用ヲ要シ候〕	〔……出火シ何風ノ爲類焼シ家具搬出ノ違ナ〕
	〔ク全部焼失其ノ見積何圓ノ損害ヲ蒙リ候〕
	〔等ノ事由簡單ニ記入ノコト〕

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

ニ付組合規則ニ依リ相當救濟金給與相成度候也
大正 年 月 日

遞信課長殿

何何局 氏

名印

記入心得

災害給與金請求ノトキハ災害ノ時期並ニ被害状況及其ノ見積高ノ記載ヲ洩サハルコト

附録第九號 乙

加入	年 月 日	給與金請求書
脱退	年 月 日	脱退事由
	掛金	年 月 分迄納付済
右之通ニ付共濟組合規則ニ依リ相當救濟金給與相成度候也		
大正	年 月 日	
遞信課長殿		氏 名印

●樺太廳鐵道事務所現業員共濟組合購買部規程

昭和六年三月十四日 訓令第二十六號

鐵道事務所

樺太廳鐵道事務所現業員共濟組合購買部規程左ノ通定ム

- 樺太廳鐵道事務所現業員共濟組合購買部規程
- 第一條 樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則第三十三條ノニ基キ生計ニ必要ナル物品ヲ鐵道事務所所屬組合員ニ供給スルノ目的ヲ以テ鐵道事務所現業員共濟組合ニ購買部ヲ設ク
- 第二條 購買部ハ樺太廳鐵道事務所現業員共濟組合購買部ト稱ス
- 第三條 購買部ハ鐵道事務所長之ヲ管理ス
- 第四條 購買部ハ專ラ物品ノ購入、加工及配給ニ關スル事業ヲ行フ
- 第五條 購買部ハ必要ニ依リ組合員以外ノ職員ヲシテ物品ノ供給ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第六條 購買部ニ於ケル一人一ヶ月配給價格ハ各自ノ給料(割増ヲ含ム)月額ノ十分ノ八以内トス但シ配給物品代金支拂未済者ニ對シテハ物品ノ供給ヲ停止スルコトヲ得
- 第七條 購買部ニ於テ取扱フ物品ハ米、雜穀、薪炭、石炭、味噌、醬油、砂糖及雜貨其ノ他トス
- 第八條 取扱物品ノ配給價格ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外仕入原價ニ割掛ヲ爲シタル額トス
- 第九條 配給物品ノ代金ハ毎月ノ給料ヨリ控除徵收シ後拂ト爲スコトヲ
- 第十條 給料ノ支給ヲ受ケサルトキ又ハ支給ヲ受クルモ代金ヲ完済スルコト能ハサルトキハ翌月以後ノ給料又ハ組合ヨリ受クヘキ給付金ヨリ控除徵收スルモノトス
- 第十一條 配給物品ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス
- 第十二條 購買部ノ會計ハ組合ノ會計ニ對シ別途整理スルモノトス
- 第十三條 購買部ニ於テ取扱フ物品ノ仕入代金、賣上代金其ノ他購買部ノ事業ニ要スル現金ノ出納ハ購買部管理者(以下單ニ管理者ト稱ス)之ヲ執行ス
- 第十四條 購買部ノ所要資金ハ管理者ニ於テ鐵道事務所長ニ請求シ組合ヨリ之カ融通ヲ受クヘシ
- 第十五條 購買部資金ヲ組合ヨリ融通ヲ爲ス場合ニ於テハ年五分五厘ノ利息ヲ附スルモノトス
- 第十六條 購買部ハ配給所、巡回販賣其ノ他取扱物品ノ加工、貯蔵及配給ノ爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得配給所ニ於テハ物品ノ配給事務ノミヲ取扱フ
- 第十七條 管理者ハ水火災、盜難其ノ他重大ナル事故發生シタル場合ハ速ニ其ノ狀況並處理ノ顛末ヲ長官ニ報告スヘシ
- 第十八條 購買部ノ決算上剩餘ヲ生シタルトキハ購買部資金ヲ以テ購入シタル機械、器具其ノ他ノ固定財産ノ原價償却ニ充ツヘキ相當ノ積立金ヲ控除シ剩餘ハ之ヲ購買部ノ繰越金トシテ整理スヘシ
- 第十九條 缺損ヲ生シタルトキハ前項ノ繰越金又ハ次年度以降ノ剩餘金ヨリ之ヲ控除整理スヘシ

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

第十七條 管理者ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ一切ノ事項ヲ明瞭ニスヘシ

- 一 仕譯日記簿 (別記様式第一號)
- 二 原簿 (別記様式第二號)
- 三 物品受拂簿 (別記様式第三號)
- 四 現金出納簿 (別記様式第四號)
- 五 什器盡帳 (別記様式第五號)

仕譯日記簿ハ收入、支拂、振替ノ各傳票ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第一項ノ外必要アルトキハ適宜ノ補助簿ヲ用フルコトヲ得

第十八條 管理者ハ毎事業年度ノ終ニ於テ決算ヲ爲シ左ノ様式ニ依リ事業成績表ヲ調製シ四月末日迄ニ之ヲ長官ニ報告スヘシ

(様式)

- 一 購買部貸借對照表 (別記様式第六號)
- 二 購買部損益計算表 (別記様式第七號)
- 三 購買部物品受拂表 (別記様式第八號)

附則

本訓令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號
七寸 (仕譯日記簿)

年月日	摘要	原、 丁	借	方	貸	方

様式第二號
七寸 (原簿)

(種目)						
年月日	摘要	仕、 傳號	借	方	貸	方

〔様法〕

様式第三號

七寸 (物品受拂簿)

(縦目) 七寸

(品名)	(數量) (單位)	ニテ	繰越		受取		拂付		残高	
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
年月日	摘要	單價								

〔様法〕

様式第四號

共濟組合購買部現金出納簿

年月日	摘要	受取	拂付	残高

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

購買部物品受拂表
昭和 年度分

品名	繰上		受		拂		配		備考
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
購買物品									
米									
雜穀									
薪									
木石									
味噌									
鹽									
油									
炭									
紙									
布									
鐵器									
雜貨									
金									
原									
料									
品									
計									
金額合計									

記事 一、金額ハ配給高ノ外總テ原價ニ依リ整理シ配給高ニハ配給價格ニ依リ購買物品ノ買上高ヲ計上スヘシ
 二、物品ノ滅失毀損、差増減、棚卸過不足等ニ付テハ受及拂部ニ於テ夫々整理シ備考ニ其ノ旨ヲ明ニスヘシ

〔様式〕

樺太廳郵便局現業員共濟組合積立金貸付規程

大正十五年十一月三日
 訓令第二百八十二號

内務部 郵便局

樺太廳郵便局現業員共濟組合積立金貸付規程左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 樺太廳郵便局現業員共濟組合ハ樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合規則第三十二條ノ二ニ基キ組合員ニ對シ積立金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 貸付ハ左記各號ノ一ニ該當シ内務部選信課長（以下單ニ選信課長ト稱ス）其ノ必要アリト認メタル場合ニ限ル
 - 一、組合員又ハ其ノ家族カ傷痍疾病其ノ他不慮ノ災厄ニ罹リ生計窮迫セルトキ
 - 二、土地ノ情況又ハ其ノ他ノ事情ニ依リ生活必需品ヲ一定ノ時機ニ若ハ適當數量ヲ購入スルノ必要アルトキ
 - 三、前各號ノ外特別ノ事情アルトキ
- 第三條 選信課長ハ其ノ所屬組合員ニ對スル貸付事務ヲ執行ス
- 第四條 貸付金額ハ各組合員毎ニ其ノ掛金拂込總額ノ十分ノ八以内トシ俸給又ハ給料二箇月分ヲ超過スルコトヲ得ス但シ選信課長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ給料三箇月分迄増スコトヲ得
- 第五條 貸付金ノ利息ハ元金壹圓ニ付月五厘ノ額トシ月ヲ以テ計算ス但

第十一類 社會事業 第二章 共濟組合

〔様式〕

- シ返済額ニ對シテハ當月分ノ利息ヲ附セス
- 利息ノ計算上單位ヲ生シタルトキハ錢ニ切上ク
- 第六條 貸付元利金ハ貸付ノ翌月ヨリ一年以内ニ月賦返済スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ選信課長ニ於テ其ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得
- 貸付ヲ受ケタル者組合ヲ脱退シタルトキハ返済未了ノ金額ハ一時ニ之ヲ返済スヘシ
- 第七條 返済スヘキ月賦額並當該月分ノ利息ハ毎月分ノ俸給又ハ給料ヨリ控除受領
- 前項ノ金額ハ必要アルトキハ各種手當ヨリ控除受領スルコトヲ得
- 俸給又ハ給料ノ支給ヲ受ケサルトキ若ハ其ノ支給ヲ受クルモ第一項ノ金額ニ達セサルトキハ當該月ノ返済元利金ハ選信課長ニ於テ之ヲ翌月以後ニ順延スルコトヲ得
- 第八條 返済未了ノ貸付金ノ元利金ハ組合ヨリ受クヘキ給與金ヨリ控除受領スルコトヲ得
- 第九條 借受人貸付金ヲ完済スルコト能ハサルトキハ保證人ヲシテ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ返済セシム
- 第十條 貸付ヲ受ケントスル者ハ連帶保證人ヲ立テ借入申込書（附録第一號）正副二通ヲ所屬局長（通信職工、同工夫ニアリテハ通信技師其ノ信課長トス）ニ提出スヘシ
- 前項ノ保證人ハ借受人ト同一官署ニ勤務シ且現ニ本令ニ依ル貸付ヲ受ケサル者ニ限ル

第十二類 學事 氣象

第一章 學事

- 普通教育方針五大綱領〔大九、廳訓三六〕……………一
- 教育制度改正ニ關スル告諭〔大九、告諭三〕……………一
- 樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件〔明四一、勅四五〕……………二
- 小學校令〔明三三、勅三四四〕……………三
- 樺太ノ小學校ニ關スル件施行方〔明四一、內令六〕……………一〇
- 小學校令施行規則〔明三三、文令一四〕……………一一
- 樺太公立小學校規則〔大一一、廳令三三〕……………三八
- 樺太公立小學校設置區域ニ關スル件〔大一一、告示九九〕……………四一
- 私立小學校規則〔大九、廳令三四〕……………四一
- 私立小學校及幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止ニ關スル規程〔明四一、廳令八〕……………四三
- 勅語廳本奉置方ノ件〔大三、發應二二三通牒〕……………四四
- 小學校設備準則〔大七、告示二二〕……………四四
- 高等科及補習科設置制限ノ件〔大六、應一四七三通牒〕……………四七
- 學校醫規則〔六一〇、廳令一六〕……………四七
- 生徒兒童身體檢查規程〔六一〇、廳令一七〕……………四八
- 生徒兒童身體檢查發育概評決定標準〔昭二、訓令二二二〕……………五二
- 學校傳染病豫防規程〔昭七、廳令一九〕……………五四
- 學齡兒童就學事務ニ關スル件〔大一二、廳訓三九〕……………六二

第十二類 目次

〔續法〕

- 小學校教科用圖書採定ノ件〔昭九、告示二五〕……………六九
- 小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞樂譜ニ關スル件〔大一一、廳訓九〕……………七一
- 學校體操教授要目ニ關スル件〔大二、訓令一二二〕……………七〇
- 小學校ノ學期、休業日及教授時數ニ關スル規則〔大五、廳令三〕……………七〇
- 小學校ニ於ケル儀式舉行ノ件〔明四一、應三三通牒〕……………七一
- 小學校教員講習會規程〔大八、告示一〇三〕……………七二
- 小學校教員檢定細則〔大三、廳令一〕……………七三
- 小學校教員試驗檢定ニ於テ關クヘキ科目及普通學力ヲ有スト認ムルモノニ關スル件〔大一一、告示一〇〇〕……………七六
- 小學校教員試驗檢定受驗者參考書ノ件〔大一一、告示二四二〕……………七七
- 樺太廳中學校規則〔昭六、廳令一五〕……………八一
- 樺太廳中學校規則(抄録)〔明四五、廳令一一〕……………八一
- 戰公傷病死者、公務從軍者及下士官以下軍人ノ公務傷病死者等ノ子弟ニ對スル授業料免除規程〔昭八、廳令一九〕……………八九
- 樺太廳中學校文官任用令第六條第一號ニ依リ認定〔大三、文告示一四一〕……………八九
- 樺太廳中學校附設小學校教員講習所規則〔昭二、廳令一〕……………八九
- 樺太廳中學校附設小學校教員講習所文官任用令第六條ニ依リ認定〔大一一、文告四八八〕……………九六
- 樺太廳高等女學校規則〔大五、廳令一四〕……………九六
- 樺太公立高等女學校規則〔大二三、廳令一四〕……………一〇一

○樺太公立高等女學校職員定員規程〔大一三、廳令一三〕……………一〇五
 ○樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒卒業業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程〔大一五、文令三三〕……………一〇五
 ○樺太廳中學校並高等女學校規則中改正ニ伴フ注意事項〔昭二、訓令五〇三〕……………一〇五
 ○樺太公立實業補習學校規程〔昭四、廳令七〕……………一〇六
 ○樺太廳拓殖學校規程〔昭九、廳令九〕……………一〇九
 ○專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ト同一ノ效力ヲ有スル試驗檢定ニ關スル件〔大一五、文例五〕……………一一一
 ○專門學校入學者檢定ニ關スル規程〔大一四、廳令二八〕……………一一一
 ○專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依ル免除學科目〔大一四、告示一一五〕……………一一四
 ○樺太青年訓練所規程〔大一五、廳令一七〕……………一一四
 ○樺太公立青年訓練所ノ要旨及實施上ノ注意事項〔大一五、訓令一五九〕……………一一六
 ○青年訓練所訓練要旨〔大一五、訓令一六〇〕……………一一八
 ○樺太公立青年訓練所學科視察規程〔昭五、訓令一八五〕……………一一九
 ○視學官及視學學事視察規程〔昭六、訓令三〇〇〕……………一一九
 ○農業者教育費補助規程〔昭七、廳令三三三〕……………一二一
 ○醫學研究員規程〔昭二、廳令二八〕……………一二三
 ○醫學研究員規程〔大九、廳令三九九〕……………一二四
 ○醫學研究員規程〔昭二、廳令二九〕……………一二六
 ○醫學依託生規則〔昭二、訓令三八〇〕……………一二七

○樺太廳中等學校教員依託養成規程〔大一〇、廳令三八〕……………一二八
 ○逓信官吏練習所依託生規程〔大一、告示五七〕……………一三〇
 ○鐵道局教習所依託生規程〔大一、訓令九二〕……………一三三
 第二章 氣象
 ○天氣豫報及暴風警報規程〔大七、告示一一五〕……………一三六
 ○天氣豫報及暴風警報信號標規程〔大七、告示一一六〕……………一三六
 ○天氣豫報信號標及暴風警報信號標ヲ掲揚スヘキ場所〔大七、告示一一七〕……………一三八
 ○氣象報無線電信電送ノ件〔昭二、告示二〇一〕……………一三八
 ○報時信號ニ關スル件〔昭九、告示四八〕……………一三九

〔樺法〕

第十二類 學事 氣象

第一章 學事

●普通教育方針五大綱領

大正九年九月三日
廳訓令第三十六號

內務部 支廳 支廳出張所 中學校
高等女學校 小學校

今般小學校教育制度ノ改革實現セラレタルニ就テハ別ニ島民ニ告諭シタルモ更ニ教育關係者ニ對シ特ニ告タル所アラムトス
 抑樺太ノ普通教育ハ當事者ノ勵精ニ因リ歲ト共ニ進歩改善ノ域ニ進ミツツアリト雖モ時勢ノ進運ハ駭々トシテ止マル所ヲ知ラス各國競フテ國力ノ充實教育ノ振興ヲ企圖シツツアルノ時ナルヲ以テ苟モ職ヲ教育ニ奉スル者深ク思フ茲ニ我シ本島開發ノ根基タル教育ノ振興ニ策勵シ拓殖ノ進運ヲ促進スルノ覺悟ナカルヘカラス惟フニ樺太ニ於ケル普通教育ノ方針ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ遵據シ帝國一般ノ教育方針ニ則ルヘキハ論ヲ俟タスト雖モ特ニ本島ノ實況ニ鑑ミ其ノ將來ニ慮リ拓殖ニ適應スル有爲ノ人材ヲ育成スルヲ以テ本旨トナス而シテ其實績ヲ擧ケ其ノ目的ヲ貫徹スルハ前途頗ル遙遠ニシテ切ニ之ヲ今後ノ努力ニ俟タサルヘカラス茲ニ樺太普通教育ニ關スル大綱五箇條ヲ掲記シテ其ノ則ルヘキ大本ヲ明示ス直接教育ニ關スル者宜シク此ノ趣旨ヲ體シ地方ノ實狀ニ照ラシ民度ノ狀勢ニ稽ヘ適切ナル具體的方案ヲ考究シ協力一致一層教育ノ振興ヲ圖リ其ノ效果ヲ顯著ナラシメ以テ樺太ノ開拓帝國ノ進運ニ貢獻セムコト

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

ヲ期スヘシ

- 一 立國ノ大義國體ノ精華ヲ明カニシ國民的信念ヲ旺ナラシメ以テ愛國の住民ヲ育成スヘシ
- 二 時代思潮ノ變遷世界大勢ノ推移ヲ審カニシテ立憲自治ノ觀念ヲ樹立セシメ以テ自治の住民ヲ育成スヘシ
- 三 自衛ノ精神共同ノ理義ヲ明カニシテ相互扶助ノ良風ヲ助長シ以テ協同の住民ヲ育成スヘシ
- 四 體力ノ増進元氣ノ振作ヲ企圖シ勤儉力行ノ美風ヲ作興シ以テ奮闘の住民ヲ育成スヘシ
- 五 科學ノ研究實用ノ智識ヲ普及シ産業重視ノ精神ヲ涵養シ以テ實用の住民ヲ育成スヘシ

〔樺法〕

●教育制度改正ニ關スル告諭

大正九年九月三日
告諭第三號

樺太開拓ノ要諦ハ地ヲ拓キ民ヲ植エ業ヲ興シ產ヲ治ムルニ在リト雖拓殖ノ效果ヲ永遠ニ伸張セシメ其ノ根基ヲ確立スルハ一ニ教育ノ振興刷新ニ俟タサルヘカラス
 顧レハ本島領有以來年ヲ閱スルコト茲ニ十有五教育機關ノ分布漸ク全局ニ普及邑ニ不學ノ戸ナク家ニ不文ノ徒ナカムトス然レトモ百般ノ施設ハ之ヲ民度ニ徵シ時世ニ效ヘ以テ其ノ宜ヲ制セサルヘカラス是ニ於テカ政府ハ樺太ニ於ケル小學校ニ關スル勅令ヲ改正シテ部落小學校ヲ公立小

學校タラシメ小學校教員ノ俸給全部ヲ國庫支辨トシ以テ時代ノ進運ニ順應シテ教育ノ改善ト文化ノ發達トヲ企圖セラル是レ實ニ樺太教育史上ノ新時期ヲ劃スヘキ改革ニシテ各教員ハ之ニ依ツテ倍々忠實恪勤永ク其ノ職務ニ盡スヲ得ヘク各部落ハ之ニ依テ愈々教育ノ普及發達ヲ圖ルヲ得ヘシ

樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件

明治四十一年三月二十三日
勅令第四十五號

改正 大二年二月勅令三一七號、九年八月三三號、一二年三月一六三號、昭四年六月一七二號、七年九月二六二號

朕樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 樺太ニ於ケル小學校ニ關シテハ小學校令第一條、第二條第一項、第二項、第三條、第五條、第六條、第十四條第一項、第十五條乃至第二十四條、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十一條乃至第四十三條、第四十五條乃至第五十條、第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依ル但シ同令中第四十一條第一項ノ場合ヲ除クノ外、文部大臣ノ職務ハ拓務大臣、府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行ヒ市町村立小學校トアルハ樺太公立小學校、府縣トアルハ樺太廳トス

樺太公立小學校ト稱スルハ町村ノ經費ヲ以テ設置スルモノヲ謂フ

第一條ノ二 樺太公立小學校長及教員ノ任用及解職ハ樺太廳長官之ヲ行フ
第二條 小學校令ノ規定ニ依リ雖キ場合アルトキハ樺太廳長官ニ於テ拓務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第三條 樺太ニ於テ小學校教員タルヘキ者ハ樺太廳ノ免許狀ヲ受クヘシ但シ小學校令ニ依ル免許狀ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス
第四條 樺太公立小學校職員ノ名稱及待遇ニ關シテハ市町村立小學校長及教員名稱及待遇ニ依ル但シ同令中市町村立小學校長及教員トアルハ樺太公立小學校長及教員、市町村立小學校長及訓導トアルハ樺太公立小學校長及訓導トス

第四條ノ二 樺太公立小學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ等級配當ハ別表ニ依ル
第五條 樺太公立小學校職員ノ俸給ハ國庫ノ支辨トス
樺太公立小學校職員ノ旅費ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ國庫支辨ト爲スコトヲ得

(別表)

判任官一等待遇	判任官二等待遇	判任官三等待遇	判任官四等待遇
月俸百圓以上	月俸七十圓以上	月俸五十圓以上	月俸三十圓以上
百圓未滿	七十圓未滿	五十圓未滿	三十圓未滿

附則 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(樺法)

附則 (昭和七年勅令第二百六十二號)
本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

小學校令

明治三十三年八月二十日
勅令第三百四十四號

改正 明三六年三月勅令六三號、四月七四號、四〇年三月五二號、四四年七月二一六號、大二年七月二五八號、八年二月一〇號、一二年八月三七六號、一五年四月七三號、六月二四二號

朕樺密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(文、大臣 副署)

小學校令

第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

(樺法)

シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

第五條 小學校ニ關スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外、文部大臣之ヲ定ム

第二章 設置

第六條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條 府縣知事ハ一町村ノ實力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條 府縣知事ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト
二 其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト
府縣知事ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

府縣知事ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第八條ノ二 府縣知事ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ一部ニシテ前條各項ノ一ニ該當スル事情アル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ市又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得府縣知事ハ市ノ一部ニシテ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適當ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

第九條 市町村立尋常小學校ノ校數位置ハ府縣知事ニ於テ市町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キテ之ヲ定ムヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ府縣知事ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメムトスルトキハ組合規約ヲ定メ關係町村ノ意見ヲ聞クヘシ組合規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ組合ヲ解カシメムトスルトキ亦同シ

第八條又ハ第八條ノ二ニ依リ府縣知事ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ノ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ市町村若ハ町村學校組合ヲ分畫シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ

高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス但シ延長シテ三箇年ト爲スコトヲ得

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、國畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、國畫、手工、唱歌、體操、實業(農業、工業、商業ノ一科目又ハ數科目)トシ女兒ノ爲ニハ家事、裁縫ヲ加フ
土地ノ情況ニ依リ前項教科目ノ外外國語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得

前項ノ教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得第三學年ニ於ケル國畫、唱歌ニ付亦同シ

手工ハ實業ニ於テ工業ヲ學習スル兒童ニハ之ヲ課セサルコトヲ得
實業ノ數科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ一科目ヲ選擇セシム
實業ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得
補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除セムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ延長セム

小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得
府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條 (削除)

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ學區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得
市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置及廢止ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前三條ノ規定ハ小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス
小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス

[轉法]

トスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ
前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事ノ之ヲ探定ス

文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、國史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科用圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事ヲシテ之ヲ探定セシムルコトヲ得

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 (削除)

第二十六條 (削除)

第二十七條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ府縣知事ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

第二十八條 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十九條 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ教育兵事産業衛生慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章 就學

第三十二條 兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條 學齡兒童瘋癩白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十四條 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇備スル者ハ其ノ雇備ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ズ

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立若ハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分、高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ盲學校若ハ聾啞學校ノ初等部ハ兒童就學ニ關シテハ之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條 兒童ノ年齡就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ズ

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章 職員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目申修身、國語、算術、國史、地理、理科以外ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

〔權法〕

第四十一條

免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長又ハ市町村學校組合管理

者ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

町村立小學校長及教員ノ任用並市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ズ

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ誹責、減俸及免職ト

〔權法〕

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與

三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

第五十二條 府縣知事ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組

合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得
前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止ムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十三條 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ
二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ負擔ニ堪ヘサルトキ
三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クヘシ
第五十四條 (削除)

第五十五條 區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並學區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得
第五十六條 小學校教員檢定及免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス
特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

事之ヲ監督ス

第六十六條 私立小學校ハ府縣知事之ヲ監督ス

第九章 附則

第六十七條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第六十八條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

第六十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

第七十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ抵觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第七十一條 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備ヲ豫備ス
前項ノ場合ニ於テハ其ノ豫備ノ期間内體操科ヲ關クコトヲ得

第七十二條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ收入トス
第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ關スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合管理者ノ指揮命令ヲ受ケテ學區ニ關スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス
市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ
委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第六十三條 學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十四條 (削除)

第六十五條 市町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知

[律法]

第七十三條 明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三百十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス
附則 (明治三十六年勅令第七十四號)

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十四條第二項及第三項ハ此ノ限ニ在ラス
明治三十七年四月一日前第二十四條第二項又ハ同條第三項ニ依リ探定ヲ爲ス場合ニ於テハ審査委員會ノ審査ヲ經ルヲ要セス

本令施行前ニ於ケル審査探定及本令施行前ニ探定シタル教科用圖書ニ關シテハ從前ノ規則其ノ他ノ規程ヲ適用ス但シ使用ヲ始メタル後四箇年ヲ經タル圖書ハ探定ノ效力ヲ失フ
附則 (明治四十年勅令第五十二號)

改正 明治四十年勅令第五十二號、大八年二月一〇號、一五年四月七三號
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第三十六條第一項ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
市町村立尋常小學校ニ代用シタル私立小學校ニ關シテハ其ノ代用期間ノ滿了スルニ至ル迄仍其ノ代用ヲ存續スルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ第十八條第一項ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、私立小學校ニ有リテハ設立者ニ於テ期間ヲ定メテ府縣知事ノ認可ヲ受ケ當分ノ尋常小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ高等小學校ニ關シテモ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ニ依ル尋常小學校ノ教科目ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ關シテハ其ノ卒業スルニ
至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附則 (大正二年勅令第二百五十八號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前府縣知事ニ於テ授與シタル免許狀ハ本令ノ免許狀ト同一ノ効
力ヲ有ス明治二十五年勅令第四十號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ授與シタ
ル免許狀ニ付亦同シ

附則 (大正十二年勅令第三百七十六號)

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル私立ノ盲啞學校ニ
シテ盲學校及聾啞學校令ニ依ラサルモノハ私立學校令ニ依リ設立セラレ
タルモノト看做ス

附則 (大正十五年勅令第七十三號)

明治四十年勅令第五十二號附則第五項ヲ削ル

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ課スヘキ教科目ニ付テハ
其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附則 (大正十五年勅令第二百四十二號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當ス
ル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分其ノ他ノ行
爲ト看做ス

樺太ノ小學校ニ關スル件施行方

明治四十一年三月三十一日
內務省令第六號

改正 明治四十一年七月內務省令二號、大正二年二月一八號、九年八月閣令九號、一
年四月四號、昭和四年六月拓務省令一號

樺太ノ小學校ニ關スル件施行方左ノ通之ヲ定ム

第一條 明治四十一年勅令第四十五號第一條ニ依リ拓務大臣ニ於テ定ム
ル事項ニ付テハ小學校令施行規則中第百十七條、第百三十二條、第百
五十九條、第百七十條、第百七十二條、第百七十四條乃至第百八十五
條、第百九十二條乃至第百九十三條ヲ除キ其ノ他ノ規程ヲ準用ス

第二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ豫メ樺太廳
長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 小學校令施行規則中ニ規定スル文部大臣ノ職務ハ拓務大臣府縣
知事ノ職務ハ樺太廳長官道廳府縣內務部長ノ職務ハ樺太廳內務部長郡
長ノ職務ハ樺太廳支廳長、市町村長ノ職務ハ大正十年法律第四十七號
ヲ適用セサル地域ニ在リテハ樺太廳支廳長、道廳府縣知事ノ職務ハ
樺太廳判任官之ヲ行フ

第四條 樺太公立小學校ノ教員ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ本俸十
分ノ八以内ノ加俸ヲ給ス

第五條 樺太ニ滿五年以上勤續ノ者ニハ前項ノ加俸ノ外樺太廳長官ノ定ムル所
ニ依リ本俸十分ノ二以内ノ加俸ヲ加給ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺太〕

小學校令施行規則

明治三十三年八月二十一日
文部省令第十四號

改正 明治三十四年一月文部省令二號、三十五年二月三號、二月一五號、三十六年三月一
號、四月二二號、一月三四號、三十七年二月一號、一〇月一九號、三十八年五月
七號、四〇年三月六號、六月二〇號、八月二四號、四一年三月八號、四月一五
號、五月一八號、九月二六號、四二年四月一號、四三年三月四號、七月一五
號、四四年四月一五號、七月二四號、四五年一月三號、大正二年七月二〇號、二
一號、三年一月一號、一〇月三〇號、七年三月四號、八年三月六號、九年八月
一九號、二二號、一〇年八月三六號、一二年八月三五號、一三年八月一六號、一
四年四月一三號、一五年四月一八號、六月二七號、昭二年二月二〇號、一
二月三二號、三年七月一〇號、六年六月一七號、九月二二號、七年二月一號、
八年五月一號

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第二節 學年、休業日及式日

第三節 編制

第四節 補習科

第五節 教科用圖書

第二章 設備準則

第三章 就學

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第二節 教員ノ免許狀

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第五節 代用教員

第六章 授業料

第七章 學務委員

第八章 (削除)

第九章 小學校ニ類スル各種學校

第十章 附則

小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育ス
ルニシテ

道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ當ニ留意
シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ
應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其
ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各々適當ノ教育ヲ施サンコト

一一

ヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益
セシムコトヲ要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ德性ヲ涵養シ道
徳ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實
踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル義務
ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ氣象ヲ長シ公徳
ヲ向ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養フコトヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメ
シコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養フコトニ注意スヘシ
修身ヲ授ケルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシ
メンコトヲ務ムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思
想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ
知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習
セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文
ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ
讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別ス
ルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナ
ラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活
ニ必須ナル事項ニ取リ趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ
文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常
見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシ
テ旨趣明確ナラシムコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ楷書行書ノ二種トシ
高等小學校ニ於テハ尙草書ヲ加フ

國語ヲ授ケル際ニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシ
メンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授ケル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習及文字ノ書キ方ニ注意
セシメンコトヲ要ス

第四條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ
思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ小ナル整數ノ範圍内ニテ其ノ唱ヘ方、書キ方
及簡易ナル計算ヲ授ケ次第ニ其ノ範圍ヲ擴メテ小數、分數ニ及ホシ更
ニ其ノ程度ヲ進メ且簡易ナル比例、歩合算ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ノ程度ヲ進メ且數
ノ代數的計算及幾何圖形ニ關スル知識ノ初歩ヲ授ケ又土地ノ情況ニ依
リテハ日用簿記ノ大要ヲ課スヘシ

算術ハ筆算ヲ用フヘシ尋常小學校ニ在リテハ土地ノ情況ニ依リ球算ヲ
併セ用フルコトヲ得高等小學校ニ在リテハ球算ヲ併セ課スヘシ

〔釋法〕

〔釋法〕

ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ大要及本邦ノ政治經濟
上ノ狀態並ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授
クヘシ

地理ヲ授ケルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、標本、
寫眞等ヲ示シテ確實ナル知識ヲ得シメ特ニ歴史及理科ノ教授事項ト聯
絡セシメンコトヲ要ス

第七條 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ
其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ
自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒
童ノ目撃シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物、礦物ノ名稱、形
狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又通常ノ物理化學上ノ現象及人身生
理ノ初歩ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ特ニ重要ナル元素
及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ
兼テ植物、動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシム
ヘシ

理科ニ於テハ務メテ農事、水産、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ
特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工
品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授ケルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等
ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス

一一三

高等小學校ニ於テハ各大陸ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進

尋常小學校ニ於テハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等並ニ地
球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ且滿洲地理ノ大要ヲ授ケ兼テ本
邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ニ關スル簡單ナル知識ヲ得シム
ヘシ

第六條 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シ
メ又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメ兼テ愛國心ヲ養成ニ資スルヲ以テ要
旨トス

國史ヲ授ケルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時
ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ
要ス

第五條 國史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ
要旨トス

尋常小學校ニ於テハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢
哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以
テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ

感ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形態ニ及ホシ實物若ハ手本ニ就キ又時時自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ
高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ諸般ノ形態ヲ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得
圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシム兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ

第九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ
高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ授クヘシ又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

第十條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ體操、教練、遊戲及競技ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男兒及女兒ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ
高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜

水産ハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其ノ知識ヲ確實ナラシメンコトヲ務ムヘシ
第十三條ノ二 工業ハ工業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉綿密ニシテ且製作工夫ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
工業ハ木工、竹工、金工、塗工、染織等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ニ趣味アル事項ヲ授ケ且材料ノ性質及用法並工具ノ使用法及保存法ヲ知ラシムヘシ
工業ヲ授クルニハ地理、理科、圖畫、手工等ノ教授事項ト關聯シ又時々其ノ土地ニ於ケル工場等ヲ見學セシメ實際ノ業務ト密接ナル關係アラシムコトヲ務ムヘシ

第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ選ヒ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯シテ之ヲ授ケ且簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十五條 家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約、利用、秩序、清潔ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
家事ハ衣食住、看病、育兒其ノ他一家ノ經濟等ニ關スル事項ノ大要ヲ授クヘシ家事ヲ授クルニハ特ニ理科トノ聯絡ニ注意シ又實習ニ重キヲ置キ土地ノ情況ニ適切ナラシメンコトヲ務ムヘシ

ノ戶外運動ヲ爲サシメ又水泳ヲ授クルコトアルヘシ
體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ務ムヘシ

第十一條 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ運針法ヨリ始メ漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ又便宜裁チ方、繕ヒ方等ヲ授クヘシ
高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方ヲ授クヘシ
裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取リ之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保存方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

第十二條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ高等小學校ニ於テハ製圖及女兒ニ在リテハ手藝ヲ簡易ナル程度ニ於テ併セ授クヘシ
手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類性質等ヲ教示スヘシ

第十三條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス
農業ハ土地ノ情況ニ依リ農事若ハ水産ヲ授ケ又ハ農事、水産ヲ併セ授クヘシ

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授クヘシ

〔樺法〕

〔樺法〕

第十六條 外國語ハ日常簡易ノ英語ヲ習得セシムルヲ以テ要旨トス
外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀ミ方、話シ方、綴リ方、書キ方ヲ授クヘシ
外國語ヲ授クルニハ成ルヘク日常ノ生活ニ關聯セシメテ其ノ理會ヲ容易ニシ練習ニ重キヲ置クヘシ

第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ
手工ヲ加フルトキ又ハ第一學年、第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

第十七條ノ二 第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ教科目ノ每週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號表又ハ第六號表ニ依ルヘシ

第十八條ノ二ノ規定ニ依リ實業ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スヘシ

實業ニ於テ工業ヲ學習スル爲手工ヲ課セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得
第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第十八條ノ二 實業ハ特別ノ事情アル場合ニ限り管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十九條 土地ノ情況ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル時數ヲ増減スルコトヲ得

一 尋常小學校ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス

二 高等小學校ノ每週教授時數ハ三十二時ヲ超エ又二十七時ヲ下ルコトヲ得ス

第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ每週教授時數ハ各部十八時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ十二時マテニ減スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各々二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコトヲ兒童年表ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス
二 職員及兒童ハ
天皇陛下
皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勸告ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勸告ニ基キ聖旨ノ在所ヲ通告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜觀セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第三節 編制

第二十九條 小學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ第一項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各々十人マテヲ増スコトヲ得

第三十一條 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

ヘシ

第二十四條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ
學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節 學年、休業日及式日

第二十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

小學校ノ學期ハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ但シ第三號乃至第六號ノ休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得

- 一 一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日
二 日曜日
三 夏季休業日
四 冬季休業日
五 學年末休業日

六 其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事ノ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

〔禮法〕

〔禮法〕

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十二條 (削除)

第三十三條 修身、體操、唱歌、裁縫、手工、實業及小學校令第二十條第二項ニ依リ加ヘタル教科目ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫、手工、實業ニ就キテハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

第三十四條 土地ノ情況ニ依リ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分ナテ教授スルコトヲ得

第三十五條 尋常小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ
高等小學校ニ於テハ其ノ學級數ニ等シキ員數ノ本科正教員ヲ置クノ外教科目、教授時數、兒童數等ニ應シ必要ナル員數ノ本科正教員又ハ專科正教員ヲ置クヘシ

土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ在リテハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科正教員一人ヲ置クヲ常例トス

第三十六條 六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條 尋常小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得
 第三十七條ノ二 第三十五條第二項後段及前條ノ規定ニ依リテ置キタル
 教員ハ一校ヲ限リ他ノ小學校ノ教員ヲ兼ムルコトヲ得
 第三十八條 補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外
 トス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限
 ニアラス
 第三十九條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級
 以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス
 第四十條 (削除)
 第四十一條 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滞ナク管理
 者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第四十二條 補習科ハ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス
 尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力
 ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス
 高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力
 ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス
 第四十三條 補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意
 科目ト爲スコトヲ得
 第四十四條 補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第四十五條 補習科ノ教科ヲ授タルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項
 ヲ交フヘシ

第四十六條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村、市町村學校組
 合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第四十七條 補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ爲スコトヲ得
 第四十八條 補習科ノ教授日教授時間及每週教授時數ハ兒童ノ便宜ヲ圖
 リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第四十九條 高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコト
 ヲ得ス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ
 限ニアラス
 第五十條 補習科ノ教場ハ正教科ヲ授タル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得
 第五十一條 補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ
 之ヲ擔任スヘシ
 補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定
 ヲ適用セス
 特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
 第五十二條 第四十三條第一項、第四十四條第四十六條及第四十八條ノ
 場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 小學校教科用圖書中修身、國語、算術、國史、地理、理科、家
 事、圖書ヲ除キ其ノ他ノ圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ
 及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ府縣知事ノ之ヲ採定ス但シ體操、
 裁縫、手工及尋常小學校第四學年以下ノ唱歌ニ關シテハ兒童ニ使用セ
 シムヘキ圖書ヲ採定スルコトヲ得又國語、書キ方、算術、理科、家
 事、圖書ノ教科用圖書及小學地理附圖ハ學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用
 〔權法〕

セシメサルコトヲ得

〔權法〕

第五十三條ノ二 唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ、
 前條ニ依リ府縣知事ノ採定シタル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ及其
 ノ採用小學校ニ特ニ關係アルモノニシテ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認
 可ヲ受ケタルモノノ外採用スルコトヲ得ス
 第五十四條 小學校令第二十四條第二項又ハ本令第五十三條ニ依リ教科
 用圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日
 前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ
 特別ノ事情アルトキハ前項ノ公布期限ニ依ラサルコトヲ得
 第五十五條 文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書ノ定價ヲ增加シ
 タルトキハ其ノ採定ハ效力ヲ失フ
 第五十六條 小學校教科用圖書ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最
 下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ圖書ヲ服用セシム
 ヘシ
 第五十七條 小學校教科用圖書ノ採定ニ關シ其ノ前後ヲ問ハズ左ノ各號
 ノ一ニ該當スル所爲アル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以内ノ罰金ニ處
 ス
 一 直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ官
 吏、學校職員若ハ運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル
 者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ
 受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
 二 直接又ハ間接ニ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハズ人ヲ
 饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ

代辦シ及其ノ代辦ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受
 ケタル者
 三 官吏、學校職員又ハ其ノ關係アル學校法人等ニ對スル利害ノ關係
 ヲ利用シ直接若ハ間接ニ官吏、學校職員ヲ誘導シ又ハ威逼シタル
 者及其ノ誘導威逼ニ應シタル者
 四 官吏又ハ學校職員ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者
 五 採定ヲ妨グル目的ヲ以テ新聞紙雜誌張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テ
 スルニ拘ラス官吏又ハ學校職員ニ對シ虛偽ノ事項ヲ流布シタル者
 第五十八條乃至第六十三條 (削除)
 第二章 設備準則
 第六十四條 校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス
 校地ハ道徳上並ニ衛生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘ
 シ
 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ實朴堅牢ナランコトヲ要
 ス
 第六十五條乃至第七十四條 (削除)
 第七十五條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ
 第七十六條 校舍ヲ新築、増築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立
 小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、市町村學校
 組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
 第七十七條乃至第七十九條 (削除)
 第三章 就學
 第八十條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期

ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ毎年六月末日マテニ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ運滯ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ市町村長ハ學齡簿編製後八月三十一日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者ヲ運滯ナク學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ運滯ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ
市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ運滯ナク之ヲ抹消スヘシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ謄本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一 兒童死亡シタルトキ
二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ
三 兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ
前項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ運滯ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セサル旨ヲ通知スヘシ

常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試験ヲ行フコトヲ得

第八十七條 市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ若ハ高等學校及中學校ノ豫科又ハ盲學校及聾啞學校ノ初等部ニ入學セシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第八十九條 市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ
學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ運滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條 市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第九十一條 市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ運滯ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ運滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ
第八十二條 市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ學區ノ使用ニ係ル尋常小學校二枚以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
第八十四條 就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ掲タル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス
第二十五條第二項ノ學年ヲ置キタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ五箇月其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ七箇月トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ各五箇月以下又ハ七箇月以下トス

〔轉法〕

第九十三條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ
前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第九十四條 府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條 市町村立尋常小學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ運滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ
第九十六條 第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第九十七條 (削除)

第四章 教員檢定及免許狀
第一節 教員ノ檢定

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
一 會長
一 常任委員
一 臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣學務部長タル書記官ヲ以テ之ニ充ツ
常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス
臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百一條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第百二條 小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ職務ニ從事ス

第百三條 會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 (削除)

三 破産者

四 免許狀權奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セザル者

第百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トシ學力、性及身

體ニ就キ之ヲ行フ

第百六條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ

行フ

第百七條 無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至

第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教

員免許狀ヲ有スル者

二 高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ卒ヘタル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ

受ケテ卒業シタル者

四 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

五 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業

者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一

般ノ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

六 其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

前項第四號及第五號ニ該當スル者ニ對シ小學校本科正教員ノ檢定ヲ行

フ場合ハ卒業後二箇年以上小學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校

ノ高等科、專攻科若ハ修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ小學校教員ニ

適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニ限ル

第百八條 小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師

範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準

ズ但シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關クコトヲ得

本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科

正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百九條 小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在

リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身 道德ノ要旨

教育 教育、教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積、代數及幾何

ノ初歩

歷史 國史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

〔釋法〕

〔釋法〕

正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但

シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ酌

酌スヘシ

修身 道德ノ要旨

教育 教育、教授法及學校管理法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積

歷史 國史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 體操、遊藝及遊技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百十二條 尋常小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女

子ニ在リテハ體操ハ第百十條第一項但書ニ準シ其程度ヲ斟酌スヘシ

修身 道德ノ要旨

教育 教育、教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例

歷史 國史ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 體操、遊藝及遊技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

手工 手工ノ大要

農業 農業ノ大要

商業 商業ノ大要

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

圖畫、音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タ

ルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十條 小學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農

業、工業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目トス

府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試驗科目ノ外必要ナル科目ニ付

試驗ヲ行フコトヲ得

試驗科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度(工業ニ在リテ

ハ師範學校專攻科生徒ニ課スル手工ノ程度)ニ準ス但シ前項ノ試驗科

目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

各科目ノ試驗ハ教育ノ大要及受驗科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試驗ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、

算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

地理 日本地理及外國地理ノ大要
理科 博物、物理、化學ノ初歩
圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌
體操 體操、教練、遊戲及競技
圖畫、唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第百十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試驗ヲ關クコトヲ得

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者

二 小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 小學校教員免許狀又ハ小學師範學校卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿テタル者

五 小學校教員講習科ヲ卒リタル者

六 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

七 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受ケル資格ヲ有スル者

第百十四條 試驗檢定ヲ受ケサル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績優良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ關ク

第百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二節 教員ノ免許狀

第百十六條 (削除)

第百十七條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第百十八條 (削除)

第百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條 免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

第百二十一條 免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第百二十二條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

〔釋法〕

〔釋法〕

一 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二 學校編制ノ變更又ハ新編ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三 教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ

四 名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五 私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役トシテ服役スル者ハ此ノ限ニアラス

第百二十四條 休職ノ期間ハ第百二十二條第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ關中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月、第百二十二條第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙一箇月トス但シ第百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第百二十五條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一 不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便

宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第百二十七條 第百二十二條又ハ第百二十六條ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 休職期間滿テタルトキ

第百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀喪失ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第百三十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第百三十一條 (削除)

第百三十二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第百三十三條 學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第百三十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第百三十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ關スル事務ヲ掌ル

第百三十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第百三十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域内ニ居住スヘシ但シ學校長ニ在リテハ府縣知事、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第百三十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀撤奪

第百三十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第百四十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第百四十一條 市町村立小學校長教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣

職名	級一		級二		級三		級四		級五		級六		級七		級八		級九	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
本 科 正 教 員	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓	百六十五圓	百三十五圓
專 科 正 教 員	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓	百四十五圓	百二十五圓
准 教 員	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓	百十五圓	八十五圓
	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓	六十圓	四十五圓
	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓	五十五圓	四十五圓

〔律法〕

第百四十九條 一級上俸ヲ受ケテ功勞アル者ニハ本科正教員ニ在リテハ二百十五圓マテ專科正教員ニ在リテハ百四十五圓マテ漸次増給スルコトヲ得

第百五十條 教員ノ俸給ハ當分ノ内等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第百五十一條 第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ他ノ小學校ノ教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第百五十二條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第百五十三條 休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ特別ノ事情アル場合若ハ第百二十二條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

第百五十三條ノ二 市町村立小學校正教員ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第百五十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若ハ全部ヲ給ス但シ其ノ額ハ府縣知事ニ於テ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第百五十五條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第百五十六條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第百四十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第百四十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第百四十四條 第百三十九條乃至第百四十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀撤奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第百四十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第百四十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀撤奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第百四十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改役ノ官職著ナリト認メタル者ニハ第百四十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解除コトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第百四十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

〔律法〕

二 免許狀撤奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第百五十七條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額四箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第百五十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ但シ正教員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル學校長ヲ兼務スル者ノ旅費額ハ奏任文官ノ例ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第百五十九條 教員ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第百六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第百六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ膳料ヲ給スヘシ

第百六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第百六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第百六十四條 第百五十九條及第百六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第百六十一條乃至第百六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第百六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第百六十六條 第百四十八條ニ掲タル表ニ依リ雖モ事情アルトキハ特別

ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節 代用教員

第百六十八條 市町村立小學校代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ市町村立小學校准教員ノ例ニ依ル

第百六十九條 (削除)

第百七十條 私立小學校代用教員ノ採用解職ニ關シテハ第百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第百七十一條 小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第百七十二條 府縣知事ニ於テ私立小學校代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第百七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章 授業料

第百七十四條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十五條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十六條 特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村

學校組合ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百七十七條 小學校補習科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百七十八條 小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス

第百七十九條 他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第百七十四條及第百七十五條ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ増スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學校組合又ハ學區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第百八十條 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第百八十一條 戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ニシテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給又ハ雇員扶助令、備人扶助令ニ依リ扶助金(療治料ヲ除ク以下同シ)ヲ給セラレ又ハ給セラレ

ヘキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ管理者ハ當該事實又ハ恩給若ハ扶助金ヲ給セラレヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ授業料ヲ免除スヘシ下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラス公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給ヲ給セラレ又ハ給セラレヘキ者ノ同一戸籍内ニ在

[補法]

第百八十四條 公民ヨリ出ツル學務委員ノ任期ハ四箇年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第百八十五條 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 (削除)

第百八十六條乃至第百九十四條 (削除)

第九章 小學校ニ關スル各種學校

第百九十五條乃至第百九十八條 (削除)

第百九十九條 小學校ニ關スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條 小學校ニ關スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百十一條 小學校ニ關スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職、懲戒處分、業務停止ハ小學校教員ノ例ニ依ル

市町村立ノ小學校ニ關スル各種學校ノ學校長及教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第十章 附則

第二百十二條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章中第一節乃至第四節、第五章中第四節及第五節、第六章、(第八章)ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百十三條 小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日ヨリ五箇年間ハ三學級毎ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ抵

ル子及弟妹ニ就キ亦同シ

戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ從軍中管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第百八十一條 本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シテ之ヲ適用セス

第七章 學務委員

第百八十二條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合並學區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ十五人、大阪市ニ在リテハ二十人マテニ増スコトヲ得

第百八十三條 學務委員ハ左ニ掲グル事項ニ就キ市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管理者、區長並ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト
- 三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト
- 四 設備ニ關スルコト
- 五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト
- 六 授業料ニ關スルコト
- 七 學校基本財産ニ關スルコト
- 八 教科目ノ加除選定ニ關スルコト
- 九 修業年限ニ關スルコト
- 十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ修了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條 本令施行期府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條 本令施行期府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學簿及學籍簿ハ第三章ノ規定ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校師範學校卒業證書ハ本令ノ規定ニ依リ小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條 市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 (第八章)ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 (削除)

第二百二十三條 明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

附則 (昭和六年文部省令第十七號)

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ月俸額ヲ定ムヘシ

一 從前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受ク

第一號表乃至第三號表 (削除)

第四號表

〔譯法〕

從前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
二百四十圓以下ニシテ百八十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百八十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百六十五圓ヲ加ヘタル額但シ二百十六圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百八十圓	百六十五圓
百八十圓未滿ニシテ百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百六十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百六十圓	百四十八圓
百六十圓未滿ニシテ百四十五圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百四十五圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十六圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百四十五圓	百三十六圓
百四十五圓未滿ニシテ百三十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ニ百二十二圓ヲ加ヘタル額但シ百三十六圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百三十圓	百二十二圓
百三十圓未滿ニシテ百二十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ニ百十四圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百二十圓	百十四圓

百二十圓未滿ニシテ百十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百十圓トノ差額ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百十圓	百五圓
百十圓未滿ニシテ百圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百圓以下ニシテ九十圓ヲ超ユルモノ	九十七圓

二 前號ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額單位未滿ハ之ヲ單位ニ滿タシ

三 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓ノ俸給ヲ受クル專科正教員ハ定額ノ改正ニ拘ラス從前ノ俸給ヲ受ク

附則 (昭和八年文部省令第十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ授業料ヲ免除セラレヘキ當該事實又ハ事由ニシテ本令施行前ニ生シタルモノナルトキハ本令ノ適用ニ關シテハ其ノ事實又ハ事由ハ本令施行ノ月ヲ以テ生シタルモノト看做ス

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	授時數	每週數	授時數	每週數	授時數	每週數
理科	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一
手工	一	一	一	一	一	一
唱歌	一	一	一	一	一	一
體操	三	三	三	三	三	三
實業	二五	二五	二五	二五	二六	二六
家事	四	四	四	四	四	四
裁縫	四	四	四	四	五	五
計	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以內、女兒二時以內ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得
前項ノ外本表各教科目ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ合計ハ三十二時ヲ超ユルコトヲ得ス
實習ニ關シテハ前項ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

第六號表

教科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	授時數	每週數	授時數	每週數	授時數	每週數
修身	二	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	六	六	六
算術	四	四	四	四	四	四
國史	二	二	二	二	二	二
地理	二	二	二	二	二	二
計	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	授時數	每週數	授時數	每週數	授時數	每週數
理科	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一
手工	一	一	一	一	一	一
唱歌	一	一	一	一	一	一
體操	三	三	三	三	三	三
實業	二五	二五	二五	二五	二六	二六
家事	四	四	四	四	四	四
裁縫	四	四	四	四	五	五
計	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九	女男 三〇九

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以內、女兒二時以內ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得
前項ノ外本表各教科目ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ合計ハ三十二時ヲ超ユルコトヲ得ス
實習ニ關シテハ前項ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得
第七號表(明治四〇年文部省令第六號ニ依リ消滅)
第八號表(明治三七年文部省令第一號ニ依リ消滅)

第九號表

第六學年

備考

(備考) 學校醫ヲ置カサル學校ニ於テハ身體ノ狀況ハ之ヲ關クコトヲ得

樺太公立小學校規則

大正十一年四月十一日
廳令第三十三號

改正 大正二年五月廳令二四號、一四年五月一六號、昭四年九月三五號、八年七月二〇號

樺太公立小學校規則

- 第一條 樺太公立尋常小學校ノ校數位置ハ樺太廳支廳長ニ於テ町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 校數位置指定ノ事由
 - 二 指定ニ關スル諸圖書及答申書寫
 - 三 位置
 - 四 町村、大字、字、地番、地目、段別ヲ明記スヘシ
 - 五 別表ニ依リ調整スヘシ
 - 五 町村圖
 - 町村、大字、字ノ境界、人家、山川、原野、道路役場既設小學校

〔樺法〕

及新ニ設クヘキ小學校ノ位置、通學區域並各字ヨリ最遠距離等ヲ記スヘシ

六 土地及周圍ノ圖面縮尺二百分ノ一校地ノ區劃、校地内ニ於ケル校舍ノ位置、周圍ノ地目ヲ記入スヘシ

七 校地ノ高低、地質、飲料水ノ適否

現在ノ土地所有者買收價格又ハ賃借價格及其ノ財源

校地増減ノ場合ニ於テハ其ノ變更ノ事由、前項第二號乃至第四號並第七號ノ事項及第六號ニ準シ現校地ト増減地トノ關係ヲ明ニシタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條 樺太廳支廳長ニ於テ前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ指定スヘシ

前項ノ指定アリタルトキハ管理者ハ開校ノ期日ヲ定メ遲滯ナク之ヲ樺太廳支廳長ニ報告スヘシ其ノ期日ヲ變更シタルトキ亦同シ

樺太廳支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

〔樺法〕

ニ在リテハ一箇月二十錢以下高等小學校ニ在リテハ一箇月六十錢以下補習科ニ在リテハ一箇月八十錢以下ノ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メ前項ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條 前條ニ依リ授業料徵收ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ金額ヲ定メ徵收ノ必要トスル事情ヲ具シ樺太廳長官ニ申請スヘシ

第十三條ノ二 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理一者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料ヲ減スルコトヲ得

第十三條ノ三 戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ニシテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並傷

病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給又ハ雇員扶助令、傭人扶助令ニ依リ扶助金(療治料ヲ除ク以下同シ)ヲ給セラレ又ハ給セラレヘキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ管理者ハ當該事實又ハ恩給若ハ扶助金ヲ給セラレヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ授業料ヲ免除スヘシ下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラス公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給ヲ給セラレ又ハ給セラレヘキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ就キ亦同シ

戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ從軍中管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第三條 樺太公立尋常小學校ノ名稱ハ管理者之ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四條 樺太廳支廳長ニ於テ樺太公立尋常小學校分校數場ノ位置ヲ指定セムトスルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第五條 (削除)

第六條 (削除)

第七條 樺太公立高等小學校ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ樺太公立尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置セムトスルトキ亦同シ

一 設置ノ事由

二 名稱

三 第一條第一項第三號乃至第七號ノ事項及其ノ町村内尋常小學校ノ設備並其ノ施設情況ノ調査

四 修業年限

五 完成ニ至ル迄ノ各學年度學級編制見込圖

六 當該年度收支豫算書並高等小學校費細目

七 開校ノ豫定期日

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 町村長ハ町村ニ屬スル圖ノ教育事務ヲ管掌シ樺太公立小學校ヲ管理ス

第十一條 (削除)

第十二條 樺太公立小學校ニ於テハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ尋常小學校

第十四條 町村ハ教育事務ノ爲樺太町村制施行令第八十條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

學務委員ノ定員ハ之ヲ十五人以下トス

學務委員ニハ樺太公立小學校長ヲ加フヘシ

前項ノ學務委員ハ之ヲ定員外トス

第十五條 公民ヨリ出ツル學務委員ノ任期ハ四箇年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十六條 學務委員ニシテ資格要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第十七條 學務委員ハ左ニ掲クル事項ニ就キ學校管理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シ意見ヲ陳述ス

一 就學者督促ニ關スルコト

二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト

三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト

四 設備ニ關スルコト

五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト

六 授業料ニ關スルコト

七 學校基本財産ニ關スルコト

八 教科目ノ加除及小學校令第二十條第二項及第三項ノ教科目選定ニ關スルコト

九 修業年限ニ關スルコト

十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

附則

一 設置區域ハ設置費用負擔ノ區域ニ依リテ掲記スヘシ

二 位置

三 學則

四 校地

五 一年ノ收支豫算

六 維持方法但シ基本財産、寄附金ニ付テハ證書類ヲ添附スヘシ

七 設立者ノ履歷書

八 變更セムトスルキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ第二號、第三號又ハ第五號ノ事項ヲ變更シタルトキハ樺太廳長官ニ届出ツヘシ但シ設立者ノ變更ニ付テハ履歷書ヲ添附スヘシ

九 私立學校設立ノ認可ヲ受ケ六月内ニ開校セサルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條 私立學校ノ開校又ハ廢止ハ設立者ニ於テ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十一條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 修業年限、教科目、教科課程及每週教授時數ニ關スル事項

二 生徒ノ定數

三 學年學期及休業日ニ關スル事項

四 入學者ノ資格及入學退學ニ關スル事項

五 授業料ニ關スル事項

六 前各號ノ外學校ニ於テ必要ト認ムル事項

第六條 私立學校ニハ學校長ヲ置クヘシ

學校長ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スルコトヲ要ス

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

●私立學校規則

大正九年九月三十日
廳令第三十四號

私立學校規則

第一條 私立學校ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 目的
二 名稱

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

●樺太公立小學校設置區域ニ關スル件

大正十一年五月三十一日
告示第九十九號

樺太公立小學校設置區域ニ關スル件

學校設置區域ノ經費ヲ以テ設置スル樺太公立小學校ノ設置區域ハ大正十一年四月樺太廳告示第七十二號部務總代ヲ置クヘキ部務トス

二 戶數、人口及學齡兒童ハ前年十二月末現在ニ依リ記入スヘシ若シ一設置區域内ニ數校(分教場ヲ含ム)ヲ新設セムトスルトキハ通學區域毎ニ之ヲ掲クヘシ

三 一設置區域内ニ既設學校數校アルトキハ本表ニ準シ別ニ學事情況ヲ調製スヘシ

本令ハ大正十一年勅令第六十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前設置ノ認可ヲ受ケタル樺太公立小學校ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス

樺太公立小學校規則及大正九年十月樺太廳告示第五百四十四號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和四年廳令第三十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太町村制附則第二項ニ依ル町村ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル學務委員ハ之ヲ新規定ニ依ル學務委員ト看做ス但シ新規定ニ依リ學務委員ヲ定メラレタルトキハ其ノ職ヲ失フ

附則 (昭和八年廳令第二十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條ノ三ニ依リ授業料ヲ免除セラルヘキ當該事實又ハ事由ニシテ本令施行前ニ生シタルモノナルトキハ本令ノ適用ニ關シテハ其ノ事實又ハ事由ハ本令ノ施行ノ月ヲ以テ生シタルモノト看做ス

町村學事情況

設置區域	戶數	人口	男	女	學齡兒童計	學級概數	備考

一 設置區域ハ設置費用負擔ノ區域ニ依リテ掲記スヘシ

第七條 私立學校ノ教科用圖書ハ文部省ノ編纂シタルモノ又ハ文部省ノ檢定ヲ經タルモノタルヘシ但シ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ他ノ圖書ヲ用ウルコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テ前條ノ教科用圖書ヲ用キタルトキハ其ノ圖書ノ名稱、冊數、使用スル學年著譯者及發行者ノ氏名、發行年月日並檢定年月日ヲ具シ樺太廳長官ニ届出テヘシ

第九條 私立學校ニ於テ第七條但書ノ圖書ヲ用キムトスルトキハ其ノ圖書ノ名稱、冊數、使用セムトスル學年、著譯者及發行者ノ氏名、發行年月日ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 私立學校ニ於テ相當學校ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員トシテ採用セムトスル場合ハ其ノ學力ニ通達スルコトヲ證明シ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ設立者學校長又ハ教員トナルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ特赦、復權セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二年ヲ經過セサル者但シ懲戒ヲ免除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

四 教員免許狀奪奪ノ處分ヲ受ケ二年ヲ經過セサル者

五 性行不良ト認めヘキ者

七十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前設立ノ認可ヲ受ケタル私立學校ハ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

●私立小學校及幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止ニ關スル規程

明治四十一年四月二十一日
廳令第八號

私立小學校及幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止ニ關スル規程

第一條 私立小學校及幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ヲ設置セムトスルトキハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

一 目的(私立小學校ニ在リテハ之ヲ要セス)

二 名稱

三 位置

四 校地及其ノ附近ノ情況

道徳上、衛生上ニ關スル情況、飲料水ノ供給及水質ノ良否等ヲ記

第十二編 學事 第一章 學事

キハ設立ノ認可ヲ取消シ學校長又ハ教員前條各號ノ一ニ該當シタルトキハ設立者ニ對シ其ノ解職ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 私立學校ノ設備、授業其ノ他ノ事項ニシテ不適當ナリト認めタルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ樺太廳長官ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトアルヘシ
一 法令ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキ

三 第十三條ノ命令ニ違反シタルトキ

第十五條 私立學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フヘシ
一 學籍簿
二 出席簿
三 職員名簿
四 職員履歷書
五 教科用圖書配置表
六 校地校舎ノ圖面

第十六條 私立學校長ハ毎年四月末日現在ニ依リ職員氏名並擔當教科目學年別在籍者數出席者數及卒業者ノ狀況ヲ翌月中ニ樺太廳長官ニ届出ヘシ

第十七條 樺太廳長官ハ學校ノ事業ヲ爲ス者ト認めタルトキハ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ據ラシムルコトアルヘシ

第十八條 第十七條ノ通告ヲ受ケタルニ拘ラス第一條ノ認可ヲ受ケスシテ學校ノ事業ヲ爲ス者又ハ第十二條及第十四條ノ處分ニ從ハサル者ハ

〔樺法〕

スヘシ

五 男女兒童、幼兒又ハ生徒收容豫定數

六 校地ノ圖面(縮尺六百分ノ一、用紙美濃紙)

方位、校地ノ區域及坪數、屋外體操場ノ區域及坪數(私立小學校ニ限ル)、隣接セル土地、道路、山川等地理ノ概況ヲ表示スヘシ

七 建物ノ平面圖及側面圖(縮尺二百分ノ一、用紙美濃紙)

方位、建物ノ各部室ノ名稱、區劃及坪數、窓、出入口、及教壇ノ位置、建物構造ノ要領等ヲ表示スヘシ

八 保育室又ハ教室ニ關スル事項

床ノ高さ、牀面ト天井トノ距離、窓ノ構造、牀面ヨリ窓ノ下緣及上緣マテノ距離、各室ノ採光室ノ面積、壁色等ヲ記スヘシ

(私立小學校ニ在リテハ之ヲ要セス)

九 修業年限(私立小學校ニ限ル)

十 入學、退學及授業料ニ關スル事項(私立小學校ニ限ル)

十一 保育規則又ハ學則

保育規則ニハ保育年限、休日、毎週保育時數、入園、退園、保育料、職員ノ職務等ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

學則ニハ修業年限、休日、教科目、課程、毎週教授時數、教科用圖書、入學、退學、授業料、賞罰、職員ノ職務等ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

十二 經費豫算及維持法

前項第一號第三號及第五號乃至第十一號ノ變更ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ第二號及第十二號ノ變更ハ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

四三

第二條 私立小學校及幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ廢止又ハ設立者ノ變更ハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ届出ツヘシ但シ設立者變更ノ場合ニ於テハ連署ヲ要ス

附則

第三條 本令ハ明治四十一年四月一日ニ溯リ之ヲ施行ス

勅語謄本奉置方ノ件

大正三年十月
發應第百三十三號

支那長官

教育ニ關シテシ給ヒタル勅語謄本今般私立小學校（御下附相成候ニ付……中略……其ノ奉置方ニ關シテハ左記ノ通心得候様示連相成度依命此段及通譯候也

記

- 一 勅語謄本ハ事務室又ハ教室内ニ於テ戸籍アル戸欄ニ奉置シ其ノ前戸ニハ錠ヲ付シ鑰ハ學校長之ヲ管守スヘシ但シ宿直ヲ置キタル場合ハ開校時間外ハ宿直員ヲシテ管守セシムヘシ
- 二 勅語謄本ノ奉置ハ學校管理者、學校長共ニ其ノ責ニ任スルモノトス

小學校設備準則

大正七年四月六日
告示第二十二號

改正 大正四年一月告示四號

小學校設備準則

- 第一條 校地ハ開闢乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ
- 第二條 校地ノ面積ハ學校ノ規模ニ適應シ尙相當擴張ノ餘地ヲ存スルコトヲ要ス
- 第三條 校地ハ火葬場、避病院、監獄、鐵道線路、有害ナル瓦斯煤煙塵埃等ヲ發散スル場所、劇場寄席娯樂店其ノ他喧嘩ナル場所又ハ瘴氣發生ノ虞アル沼池等ニ接近セサルコトヲ要ス
- 第四條 校地内ニハ屋外體操場ヲ設クヘシ
- 第五條 屋外體操場ハ校舎ノ南方、西南方若ハ東南方ノ平坦ナル地ヲ選ヒ方形又ハ之ニ類スル形狀ト爲シ其ノ面積ハ兒童百人未満ハ二百坪以上、兒童百人以上ハ一人ニ付三坪以上ノ割合ト爲スヘシ
- 第六條 屋外體操場ハ特別ノ事情アル場合ニ限り校地外ニ之ヲ設クルコトヲ得但シ成ルヘク校舎ニ接近シタル位置ヲ選フヘシ
- 第七條 校地内ニハ井又ハ水道等ニ依リ良質ノ飲料水ヲ供給スル設備ヲ爲スヘシ但シ附近便利ノ地ニ於テ之ヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 校地内ニハ相當下水ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第九條 校地ノ周圍ニハ採光通風ヲ妨ケサルヲ度トシ適宜樹木ヲ栽植スヘシ

〔釋法〕

第六條 校舎ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ヲ旨トスヘシ

校舎ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

二棟以上ノ建物ヲ並列シテ建築スルトキハ其ノ相互ノ距離ハ兩建物ノ高サヲ合シタルト同一以上タルコトヲ要ス

第七條 校舎ニハ各學級ニ應スル教室、教員室、湯呑所、昇降口、便所及物置ヲ設クヘシ

第八條 校舎ニハ成ルヘク非常口ヲ設クヘシ

一 教室ハ幅四間長五間ヲ常例トス但シ特別ノ事情アルトキハ幅三間長四間迄之ヲ縮少シ又ハ幅四間長五間半迄擴大スルコトヲ得

二 天井ハ床面ヨリ八尺以上タルヘシ

三 牀ノ高ハ二尺以上タルヘシ

四 採光窓ノ總面積ハ床面積ノ八分ノ一以上トシ其ノ下縁ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ト爲スコトヲ得

五 主ナル採光窓ハ兒童座席ノ左側ニ之ヲ設ケ南方又ハ東南方ヨリ採光スルヲ常例トス

六 窓ハ兒童座席ノ前面及前面ヨリ三尺以内ノ左右側ニ之ヲ設クルコトヲ得

七 採光窓ニハ日光ノ直射ヲ遮斷スル爲成ルヘク日覆ヲ備フヘシ

八 各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設ケ又便宜隣教室ニ通スル出入口

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

ヲ設クヘシ但シ戸ハ引違戸又ハ引戸ト爲スヘシ

第九條 廊下ハ片廊下ヲ常例トス但シ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ

第十條 二階造ノ校舎ニハ二箇以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス

階段ハ幅四尺五寸以上、蹴上五寸乃至六寸、踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第十一條 昇降口ハ冬季常風ノ方向ヲ避クヘシ

第十二條 昇降口ノ面積ハ一學級ニ付二坪以上ノ割合トスヘシ

第十三條 便所ハ別棟トシ井ヲ距ルコト四間以上校舎ヲ距ルコト二間以上ノ位置ニ之ヲ設ケ廊下ヲ以テ校舎ニ接續スヘシ

第十四條 便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二箇以上小便所四箇以上、女兒百人ニ付大便所五箇以上ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

第十五條 屋内體操場ヲ設置スヘシ但シ其ノ位置ハ教室ト相當ノ距離ヲ存セシムヘシ

第十六條 屋内體操場ハ三十坪以上トシ二學級以上ナルトキハ一學級ヲ増ス毎ニ凡十坪ノ割合ヲ以テ増加スルヲ常例トス

第十七條 兒童用機懸掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十八條 兒童用機懸掛ハ尋常小學校ニ於テハ一號乃至三號ノ三種、高等小學校ニ於テハ三號乃至五號ノ三種、尋常高等小學校ニ於テハ一號乃至五號ノ五種ヲ備フルヲ常例トス

第十九條 土地ノ狀況其ノ他特別ノ事情ニ依リ本則ニ依リ雖キモノアルトキハ適宜斟酌スルコトヲ得

第二十條 本則ハ補習科ノ設備ニ關シテハ之ヲ適用セス

四五

既設ノ小學校ハ其ノ校舍ノ新築改築又ハ校具新調ノ時ヨリ本則ニ依ル
別表

項目	番號	一	二	三	四	五
身長		一〇〇以上 (三三、〇〇以上未滿)	一一〇以上 (三六、三〇以上未滿)	一二〇以上 (三九、六〇以上未滿)	一三〇以上 (四二、九〇以上未滿)	一四〇以上 (四六、二〇以上未滿)
机ノ高		一五、五〇	一七、〇〇	一八、五〇	二〇、〇〇	二一、五〇
机ノ幅		一一、〇〇	"	"	"	"
机ノ長 (二人掛)		三〇、〇〇乃至 三六、〇〇	"	三六、〇〇	"	"
腰掛ノ高		八、六〇	九、四〇	一〇、二〇	一〇、六〇	一一、八〇
腰掛ノ幅		八、二〇	九、〇〇	九、八〇	一〇、六〇	一一、四〇
腰掛ノ長 (二人掛)		二六、〇〇乃至 三二、〇〇	"	三二、〇〇	"	"
倚用男兒 横木ノ高		五、〇〇	五、四〇	五、八〇	六、二〇	六、六〇
倚用女兒 横木ノ高		四、〇〇	四、四〇	四、八〇	五、二〇	五、六〇
算用 横木ノ高		一〇、〇〇	一〇、八〇	一一、六〇	一二、四〇	一三、二〇

本表中身長欄ハ「センチメートル」其ノ括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

〔樺法〕

高等科及補習科設置制限ノ件

大正六年八月
庶部第四百七十三號

支那長官

高等科又ハ補習科設置ニ關シ左ノ通決定セラレ候ニ付之ニ依リ取扱相成
度依命此段及通牒候也

記

- 一 高等科又ハ正教科ノ教授時間内ニ教授スル尋常小學校補習科ノ設置ハ尋常小學校ノ設備相當完備シタル後ニアラサレハ認可セザルコト
- 二 特別ノ事情アルトキハ尋常科兒童ト高等科兒童又ハ補習科兒童トヲ合シ同一學級ニ編制教授スルモ差支ナシ但シ單級編制ノ尋常小學校ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

學校醫規則

大正十年四月十日
勅令第十六號

改正 大正四年一月勅令三號

學校醫規則

- 第一條 樺太廳ノ設置ニ係ル學校、樺太公立高等女學校並樺太公立小學校ニ學校醫ヲ置ク
- 第二條 學校醫ハ醫師法ニ依ル醫師タルコトヲ要ス但シ樺太公立小學校
第十二類 學事 氣象 第一章 學事

ニ在リテハ樺太廳長官ノ假免許ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三條 學校醫ハ樺太廳設置ノ學校ニ在リテハ樺太廳長官、樺太公立高等女學校、樺太公立小學校ニ在リテハ管理者之ヲ囑託ス

第四條 學校醫ハ少クとも毎月二回(樺太公立小學校ニ在リテハ毎月一回)教授時間内ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ必要ニ應ジ調査事項ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 校地、建物並設備ノ衛生ニ關スル事項
 - 二 校具ノ衛生ニ關スル事項
 - 三 教授衛生ニ關スル事項
 - 四 運動ニ關スル事項
 - 五 職員生徒兒童ノ健康狀態
 - 六 病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督、養護ニ關スル事項
 - 七 清潔ニ關スル事項
 - 八 飲料水並食物ニ關スル事項
 - 九 其ノ他衛生上必要ナル事項
- 臨時必要アル場合ニ於テ管理者又ハ學校長ノ請求アリタルトキハ學校醫ハ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ
- 第五條 學校醫ハ生徒、兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 前項ノ異狀アル生徒兒童中就學猶豫、就學免除、休學、退學等ヲ要セ

四七

サレ者ニ對シ學校醫ハ繼續的ニ之ヲ監察スヘシ

第六條 學校醫ハ學校職員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校醫ハ生徒、兒童身體檢查規程ニ依リ生徒、兒童ノ身體檢查ヲ爲スヘシ

第八條 學校醫ハ學校附近又ハ學校内ニ於テ傳染病發生シタルトキハ學校ニ到リ必要ナル豫防及消毒方法ヲ講シ尙其ノ狀況ニ依リ學校全部又ハ一部ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ學校長ニ申告スヘシ

第九條 學校醫ハ第五條、第六條及第八條ニ掲ケタル場合ノ外學校衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ管理者又ハ學校長ニ申告スヘシ

第十條 學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ述フヘシ

第十一條 學校醫ハ學校長ノ請求ニ應ジ生徒、兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講話ヲナスヘシ

第十二條 學校醫ハ其ノ調査シタル事項、職務ノ狀況ヲ申告若ハ建議セラル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫職務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第十三條 學校醫ハ本令ニ掲ケタルモノノ外學校衛生ニ關スル諸般ノ職務ニ從事スヘシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太公立小學校ニ在リテハ當分ノ内樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ學校醫ヲ置カサルコトヲ得

生徒兒童身體檢查規程

大正十年四月十日
廳令第十七號

改正 昭二年四月廳令一七號

生徒兒童身體檢查規程

第一條 生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合又ハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナル者ヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 發 育 (身長、體重、胸圍、概評)
- 二 榮 養
- 三 脊 柱
- 四 視力及屈折狀態

〔樺法〕

〔樺法〕

五色 神

六眼 疾

七聽 力

八耳 疾

九齒 牙

十其ノ他ノ疾病及異常

十一 監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得
色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得
尋常小學校第四學年以下ノ兒童ニ在リテハ視力及屈折狀態色神並聽力ノ檢查ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハセンチメートル、衝ハキログラムヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ夫々單位ノ下一位ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬚アル者ハ小桿ヲ鬚下ニ水平ニ挿入シテ測定スヘシ
- 三 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ乳房ノ下垂セル女子ニ在リテハ乳線上第四肋間ノ水平線ニ於テ測定スルモノトス
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス

六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス

七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス

八 視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ檢查シ探眼視力ヲ記入スヘシ探眼視力ヲ一、〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニ就キ各別ニ記入スヘシ

九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ檢查スヘシ

十 齒牙ハ齶齒ニ就キ檢查スヘシ

十一 其ノ他ノ疾病及異常ハ檢查ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大(ヘルニヤ)神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ

十二 監察ノ要否ハ檢查ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第十三條 第一條第一項ノ身體檢查ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體檢查票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ

第一條第二項ノ臨時身體檢查ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體檢查票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

- 一 用紙ノ大サハ幅二十六センチメートル長サ三十八センチメートルトス
- 一 本表ハ男女別ニ調製スヘシ
- 一 年齢ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ス
- 一 身長、胸圍ニ係ル總長、體重ニ係ル總重ノ各欄ハ孰レモ同一年齡ニ於ケル各検査人員ノ身長胸圍又ハ體重ノ各合計ヲ掲ケ平均ノ各欄ニハ其ノ検査人員ヲ以テ總長又ハ總重ヲ除シタル商ヲ掲ケヘシ
- 一 視力及屈折狀態ニ就テハ兩眼トモ正視、遠視、近視若ハ亂視及其ノ他ノ者ノ人員ヲ掲ケヘシ
- 一 色辨ニ就テハ異常者ノ數及検査人員ヲ記スヘシ
- 一 尋常小學校第四學年以下ノ兒童ニ在リテハ視力及屈折狀態、色辨並聽力ハ之ヲ本表ニ計入スルヲ要セス
- 一 其ノ他ノ疾病異常欄ニ不足ヲ生シタルトキハ附箋ヲ以テ之ヲ補フヘシ
- 一 前項ノ外本表ニ記入スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ記入スヘカラス
- 一 外國人ニ係ルモノハ計入スヘカラス
- 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ
- 一 本表ノ成績ニ關シ學校醫ニ於テ學校衛生上意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

生徒兒童身體検査發育概評決定

昭和二年四月十三日
訓令第二百二十一號

内務部 中等學校 支廳 小學校

大正十年四月廳令第十七號生徒兒童身體検査規程第四條第五號ニ依リ發育概評決定標準左ノ通定ム

發育概評決定標準
生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス
一 七年ヨリ十八年マテノ男子、七年ヨリ十六年マテノ女子ニ在リテ

ハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

表中ニ掲ケサル年少者ニ關シテハ右ニ準シテ推定スルモノトス

二 十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇・六センチメートル、體重五三・六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三三四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七・〇センチメートル、體重四八・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三二一

〔補法〕

一 以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

十七年以上ノ女子ニ在リテハ身長一四八・五センチメートル、體重四六・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三一五以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一四三・九センチメートル、

體重三九・四キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・二七四以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

四 以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

三 前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

〔補法〕

發育概評決定標準表

年	齡	男			女		
		身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商	身長	體重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十	九	一〇二・七	一六・〇	〇・一五六	一〇一・五	一五・四	〇・一五二
十	八	一〇一・二	一五・七	〇・一六四	一〇〇・七	一五・二	〇・一六〇
十	七	一〇〇・三	一五・五	〇・一七三	九九・九	一四・九	〇・一六八
十	六	九九・八	一五・二	〇・一八二	九九・四	一四・八	〇・一七七
十	五	九九・三	一四・九	〇・一九一	九九・〇	一四・七	〇・一八六
十	四	九八・九	一四・六	〇・二〇〇	九八・六	一四・六	〇・一九五
十	三	九八・四	一四・三	〇・二〇九	九八・一	一四・五	〇・二〇四
十	二	九七・九	一四・〇	〇・二一八	九七・六	一四・四	〇・二一三
十	一	九七・四	一三・七	〇・二二七	九七・一	一四・三	〇・二二二
九	一	九六・九	一三・四	〇・二三六	九六・六	一四・二	〇・二三一
八	一	九六・四	一三・一	〇・二四五	九六・一	一四・一	〇・二三〇
七	一	九五・九	一二・八	〇・二五四	九五・六	一四・〇	〇・二三九
六	一	九五・四	一二・五	〇・二六三	九五・一	一三・九	〇・二四八
五	一	九四・九	一二・二	〇・二七二	九四・六	一三・八	〇・二五七
四	一	九四・四	一二・〇	〇・二八一	九四・一	一三・七	〇・二六六
三	一	九三・九	一一・七	〇・二九〇	九三・六	一三・六	〇・二七五
二	一	九三・四	一一・四	〇・二九九	九三・一	一三・五	〇・二八四
一	一	九二・九	一一・一	〇・三〇三	九二・六	一三・四	〇・二九三
十	一	九二・四	一〇・八	〇・三一二	九二・一	一三・三	〇・三〇二
九	一	九一・九	一〇・五	〇・三二一	九一・六	一三・二	〇・三一五
八	一	九一・四	一〇・二	〇・三三〇	九一・一	一三・一	〇・三二四
七	一	九〇・九	九九・九	〇・三三九	九〇・六	一三・〇	〇・三三三
六	一	九〇・四	九九・六	〇・三四八	九〇・一	一二・九	〇・三四二
五	一	八九・九	九九・三	〇・三五七	八九・六	一二・八	〇・三五五
四	一	八九・四	九九・〇	〇・三六六	八九・一	一二・七	〇・三六四
三	一	八八・九	九八・七	〇・三七五	八八・六	一二・六	〇・三七三
二	一	八八・四	九八・四	〇・三八四	八八・一	一二・五	〇・三八二
一	一	八七・九	九八・一	〇・三九三	八七・六	一二・四	〇・三九一

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校傳染病豫防規程

昭和七年七月三十日
廳令第十九號

學校傳染病豫防規程

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類 「コレラ」、赤痢(疫痢ヲ含ム)、腸「チフス」、「パラチフス」、猩紅熱、「チフテリヤ」、流行性腦脊髄膜炎、「ペスト」

第二類 百日咳、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、風疹、水痘

第三類 肺喉頭其ノ他ノ器官ノ開放結核、癩

第四類 「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚病

「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ「コレラ」及「ペスト」ト看做ス

樺太廳長官ハ傳染病豫防法第二條第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ適用スルトキ其ノ他學校傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ本令中其ノ傳染病ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ適用ス

第一類ノ傳染病ノ病原體保有者ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ其ノ傳染病ノ患者ト看做ス

第二條 學校長ハ兒童又ハ未成年ノ生徒カ入學シタル場合ニ於テハ其ノ法定ノ種痘ヲ完了セシヤ否ヲ調査シ未了者ニハ之ヲ受ケシメ又保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ第二期種痘定期ニ在ル在學中ノ生徒兒童ニ關シ亦同シ

喉ノ粘液トス
第五條 第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒兒童等ハ左記ニ該當スルニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ病況ニ依リ學校醫ニ於テ其ノ傳染病ノ豫防上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 百日咳ニ在リテハ特有ノ咳嗽消失シタルモノ
二 麻疹ニ在リテハ主要症狀消退後七日ヲ經過シタルモノ
三 流行性感冒ニ在リテハ主要症狀消退後三日ヲ經過シタルモノ
四 流行性耳下腺炎ニ在リテハ耳下腺ノ腫脹消失シタルモノ
五 風疹ニ在リテハ主要症狀消退後五日ヲ經過シタルモノ
六 水痘ニ在リテハ痂皮全部脱落シタルモノ

第六條 第三類又ハ第四類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒兒童等ハ治療シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタルトキ又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第七條 職員生徒兒童等ニシテ第一類又ハ第二類ノ傳染病患者アル家ニ居住スルモノ又ハ該病毒ニ感染ノ疑アルモノハ豫防處置施行ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ學校醫ニ於テ傳染ノ虞ナシト認メタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第八條 職員等ハ學校内ニ於テ第一條ニ掲タル傳染病ノ患者又ハ其ノ疑アル者若ハ其ノ死者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ
學校長ハ必要ト認ムルトキハ當該學校醫ヲシテ診斷セシメ左ニ掲タル處置ヲ爲スヘシ

尋常小學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ卒業證書、盲學校及聾啞學校ノ初等部ノ修了證書ニハ當該兒童カ法定ノ種痘ヲ完了セシヤ否ヲ記入スヘシ

第三條 第一類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒兒童等ハ治療シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第一類ノ傳染病病原體保有者ハ其ノ病原體消失シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ左記各號ノ一ニ該當シ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 罹患後ノ病原體保有者ニシテ其ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過シタルモノ

イ 赤痢 十四日

ロ 腸「チフス」、「パラチフス」 二十一日

ハ 「チフテリヤ」、流行性腦脊髄膜炎 七日

二 健康病原體保有者

「コレラ」ノ病原體保有者及樺太廳長官ニ於テ特別ノ必要アリト認メタル者ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第四條 「コレラ」、「チフテリヤ」及流行性腦脊髄膜炎ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル検査材料ニ付細菌學的検査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セザル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ検査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ尿、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ尿尿、「チフテリヤ」及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ鼻咽

〔棒法〕
一 第一類ノ傳染病ニ在リテハ速ニ其ノ地ノ警察官吏又ハ町村長ニ通報シ消毒、隔離其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ
二 第二類ノ傳染病ニ在リテハ第五條各號ノ一ニ該當スル者及學校醫ニ於テ豫防上支障ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ
三 第三類ノ傳染病ニ在リテハ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ノ患者ニシテ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ
四 第四類ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止スヘシ

學校内ニ第一條ニ掲タル傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件アル時ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ
第九條 第三條第二項但書又ハ第六條但書ニ依リ昇校スル職員生徒兒童等アル場合ニ於テ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ必要ト認ムルトキハ左ニ準據シ豫防處置ヲ爲スヘシ
一 病原體保有者又ハ患者ノ座席ヲ健康者ノ座席ト隔ツルコト
二 病原體保有者又ハ患者ノ使用スル器具、書籍等ヲ専用スルコト
三 病原體保有者又ハ患者ノ座席、器具、書籍等ヲ時々消毒スルコト
四 病原體保有者又ハ患者ノ使用シタル衣類、器具、寝具、書籍其ノ他ノ物ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシムル場合ハ之ヲ消毒スルコト
五 「チフテリヤ」、腦脊髄膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ前各號ニ掲

クル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト
 イ 咳嗽、噴嚏ノ際ハ布片、紙片等ヲ以テ口鼻ヲ覆フコト
 ロ 鼻汁、唾痰ノ附着シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタル物ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
 六 赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ掲グル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト
 イ 便所ハ專用トシ上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト
 ロ 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ヒ上圖ノ都度消毒スルコト
 ハ 屎尿ニ汚サレタル物ハ之ヲ消毒スルコト
 七 「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎ノ患者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ掲グル豫防處置ヲ爲スノ外眼脂ヲ拭フニ清潔ナル專用ノ布片類ヲ使用セシムルコト
 第十條 學校内、學校所在地及其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外學校長ニ於テ學校醫ノ意見ヲ徵シ學校ノ全部若ハ其ノ一部ノ閉鎖又ハ休業ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ學校長ハ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ
 第十一條 學校所在地若ハ其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ適當ナル清潔方法ヲ施行スヘシ
 第十二條 傳染病ノ爲閉鎖シタル學校若ハ其ノ舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先テ十分ナル清潔方法ヲ施行スヘシ
 第十三條 生徒兒童ノ通學區域内若ハ職員等ノ居住地ニ於テ第一類又ハ

〔權法〕

第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ其ノ地域ヨリ通學スル生徒兒童及職員等ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ第一類又ハ第二類ノ傳染病流行地ニ滞在シタル生徒兒童及職員等ニ對シ之ヲ準用ス
 第十四條 學校ノ寄宿舎ニ於テ第一類ノ傳染病發生シタルトキハ學校長ハ左ノ各號ニ依リ棟太監長官ニ報告スヘシ
 一 初發ノ場合ニハ病名、發病ノ日(發病ノ日不明ノト)、患者數、疾病ノ經過、感染経路、發病以來ノ處置、將來執ラムトスル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付連帶ナク報告スヘシ
 二 續發セル場合ニハ病名、發病ノ日(發病ノ日不明ノト)、患者數、初發報告以外特ニ執リタル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付報告スヘシ但シ多數ノ患者連續發生スルトキハ即時報告スヘシ
 三 前二號ノ患者ノ轉歸ハ治癒、死亡其ノ他(休學退學等)ニ分チ報告スヘシ
 第十五條 學校長ハ學校ノ設備ニ關シ第三類及第四類ノ傳染病豫防ノ爲左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 手洗水ハ流出裝置ト爲スコト
 二 共同手拭ヲ備ヘサルコト
 三 生徒兒童ノ數ニ應シ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置シ唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄スルコト
 四 宿直其ノ他ノ爲ニ使用スル共同ノ寢具ハ之ヲ各自專用ノ白布又ハ

〔權法〕

使用者ヲ改ムル毎ニ洗濯シタル白布ヲ以テ被包スルコト
 第十六條 本令中學校醫ノ職務ハ學校醫ナキトキ若ハ止ムヲ得サル場合ニ於テハ適宜他ノ醫師ヲシテ行ハシムヘシ
 第十七條 本令ニ依リ行フ清潔方法ノ要項左ノ如シ
 一 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、糞所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ付不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸浚ヲ爲シ且繩ノ驅除及繩ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト
 二 痘瘡、猩紅熱、「チフテリヤ」及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ衣類、寢具、器具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト
 三 發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト
 四 「ペスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト
 五 第二類、第三類及第四類ノ傳染病ニ付テハ衣類、寢具、書籍、器具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト
 六 前各號ノ外必要ニ應シ左ノ清潔方法ヲ行フコト
 イ 土地及建物ノ内外ヲ掃除スルコト
 ロ 室内ノ採光及換氣ヲ十分ニスルコト
 ハ 疊、敷物等ヲ日光ニ曬スコト
 ニ 床下ハ換氣ヲ十分ニシ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ十分ニスルコト

第一類及第二類ノ傳染病ニ對スル清潔方法ハ鼠族、昆虫等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ
 清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ蓋ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス
 傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ假製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚深スヘシ
 清潔方法ノ施行ニ依リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ焼却スヘシ
 第十八條 消毒方法ノ要項左ノ如シ
 一 消毒方法ハ左ノ五種トス
 イ 燒却
 ロ 蒸氣消毒
 ハ 煮沸消毒
 ニ 藥物消毒
 ホ 日光消毒
 二 蒸氣消毒ニハ流通蒸氣ヲ用キ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ
 蒸氣消毒ヲ施行セムトスル時ハ左ノ事項ニ注意スヘシ
 イ 消毒ニ依リ褪色ノ虞アル物ハ蒸氣消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アル物ハ他物ト混シ蒸氣消毒ヲ行ハサルコト
 ロ 衣類ハ襟メ袖又ハ衣囊ヲ檢案シ熨發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト
 三 煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分間以上

煮沸スヘシ

煮沸消毒ノ施行ニ關シテハ前號イヲ準用ス

四 藥物消毒ニ用ウヘキ藥品並其ノ製法及用法左ノ如シ

イ 石炭酸水 防疫用石炭酸三分

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加

ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ

石炭酸水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

ロ 「クレゾール」水 九十七分

「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼液ニ定量

ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ

ハ 昇汞水 昇汞一分 普通食鹽一分

昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又

ハ昇汞錠(一錠中昇汞〇、五「グラム」ヲ含ム)ヲ一錠ニ付水約

五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ

昇汞水ハ金屬製ニアラサル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用ヒサ

ルモノハ「スカレット」、「フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ

著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス

ニ 煨製石灰 少量ノ水ヲ注ケ熱

ヲ發シ崩壊スルモノ

煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ

煨製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末

ト爲スヘシ

石灰乳 煨製石灰二分

石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煨製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ十分

攪拌スヘシ

石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度攪拌スヘシ

煨製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り倍量ノ普通石灰ヲ以テ之

ニ代フルコトヲ得

ホ 「クローラ」石灰水 「クローラ」石灰五分

「クローラ」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル

「フオルマリン」水 三十四分

「フオルマリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フオルマリン」

ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

ト 「フオルムアルデヒド」

「フオルムアルデヒド」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ

又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ「フオルムアルデヒ

ド」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

(一) 消毒室内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フオルマリン」四十

「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フオルムアルデヒド」瓦

斯十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上

ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉

シ置クヘシ

(二) 物件ノ内部ニ至ルマテ消毒スル必要アルモノニハ真空裝置ニ

依ルニアラサレハ之ヲ使用スヘカラス

真空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ

(三) 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒室内又ハ土蔵造、洋風建物等ニシテ

戸扉、筒孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニアラサレハ之ヲ使用スヘカ

ラス

五 日光消毒ハ日光ニ曝露スルト共ニ十分ニ空氣ノ流通ヲ計ルヘシ

日光ノ強度、消毒物件ノ性質ニ依リ數時間乃至數日間繼續スヘシ

六 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付消毒方法

ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ 尿尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等

ロ 死體

ハ 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

ニ 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具

等

ホ 患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ食物殘渣等

ヘ 病室ノ疊、敷物等

ト 便所、便池、手洗鉢等

チ 臺所、臺所器具、井戸、水槽等

リ 芥溜、下水溝等

七 痘瘡、猩紅熱、麻疹、風疹及水痘ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トス

ルモノ概ネ左ノ如シ

イ 鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用キタル器具、布

片、紙片等

ロ 死體

ハ 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

ニ 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具

等

ホ 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等

ヘ 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

八 發疹、「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ

如シ

イ 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等

ロ 死體

ハ 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

ニ 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用ニ供シタル衣類、

寢具等

ホ 病室ノ疊、敷物等

九 「デフテリア」、流行性腦脊髄膜炎、百日咳、流行性感冒及流行

性耳下腺炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等

ロ 患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等

ハ 看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等

ニ 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等

ホ 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

十 「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

イ 血液、鼻汁、唾痰、膿汁及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙

片等

ロ 死體

ハ 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
ニ 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

ホ 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
ヘ 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

ト 鼠ノ棲息、交通スル場所

十一 消毒方法ノ應用概ネ左ノ如シ

イ 患者
患者ハ治癒シタル時入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス

入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ本號中汚水ノ消毒ニ依ル

ロ 死體
死體ヲ棺ニ敷ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ十分撒布シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石灰ヲ填ツ

ハ 尿管、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
尿管、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煨製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クローラ」石灰水ヲ加ヘ十分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ

昇汞水及「フォルマリン」水ハ尿管、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ノ消毒ニ適セシ

ニ付テハ蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ飲食器具、玩具、金屬製品等ノ消毒ニハ昇汞水ヲ使用スヘカラス
リ 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護膜製品、「セルロイド」製品、護膜製品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、龜甲、角等

石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ
蒸汽消毒及煮沸消毒ハ以上ノ物件ノ消毒ニ適セシ

又 校舍、寄宿舎其ノ他ノ室内各部
石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スルコトヲ得

消毒後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス
ル 便所、芥溜、溝渠等

便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クローラ」石灰水ヲ注キ十分攪拌スヘシ但シ尿尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニアラサレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス

芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クローラ」石灰水ヲ、溝渠ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クローラ」石灰水ヲ注キ階芥ハ之ヲ燒却スヘシ

煨製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セシ
ヲ 井戸、水槽、汚水等

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

毒ニ適セシ

ニ 病者ニ接觸シタル者
看護人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病者ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ

手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水、又ハ昇汞水ヲ使用スヘシ

ホ 衣類、寢具、敷物、布片等
蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

網布、毛織物、綿、綿入蒲團、羽蒲團等ハ成ルヘク蒸汽消毒ヲ行ヒ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

患者、死體、病者汚染物件ノ運搬器具
患者、死體又ハ病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ

ト 圖書、書類等
「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

チ 硝子器、陶器、磁器、鑲製品、竹木製品等
石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フォルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノ

ヲ 船舶
船室ノ消毒ハ本號ニ準スヘシ
船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ煨製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クローラ」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ汲出スヘシ

カ 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ

ヨ 衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ燒却、蒸汽消毒、煮沸消毒、藥物消毒ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光消毒ヲ行フヘシ

第十九條 本令ハ之ヲ幼稚園ニ適用ス
附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔釋法〕
井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煨製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五百分ノ一ノ「クローラ」石灰水ヲ投入シ十分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ
昇汞水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

〔釋法〕
井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煨製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五百分ノ一ノ「クローラ」石灰水ヲ投入シ十分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ
昇汞水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

● 學齡兒童就學事務ニ關スル件

大正十二年十二月七日
廳訓令第三十九號

內務部 支廳 町村役場 小學校

學齡兒童就學事務ニ關スル件左ノ通定ム

- 第一條 學齡簿ノ編製ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - 一 學齡簿用紙ハ美濃紙半載一葉ヲ一人ニ充テ男女ヲ區分シ生年月日ノ順序ニ依リ年次毎ニ登載スヘシ但シ町村ノ事情ニ依リ大字、字又ハ通學區域等ニ分級スルコトヲ得
 - 二 學齡簿ヲ抹消若ハ訂正シタルトキハ其ノ年月日及事由ヲ備考欄ニ朱書スヘシ
 - 三 尋常小學校兒童ノ卒業報告ヲ受ケタルトキハ其ノ年ノ四月二十日迄ニ相當欄ニ記入スヘシ
- 第二條 學齡兒童ノ調査ハ學齡簿編製期限現住兒童ノ實地調査ヲ行ヒタル上之ヲ爲スヘシ
- 第三條 學齡兒童ニシテ他町村ニ轉住シタル者アルトキハ當該兒童ノ學齡簿原本(第一號様式)ヲ轉住地町村長ニ送付シ其ノ旨學齡簿ノ備考欄ニ記入スヘシ
- 第四條 町村長ハ入學ノ期日及學校名ヲ其ノ年ノ四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ニ付テハ毎年二月末日迄ニ其ノ他ノ兒童ニ付テハ就學セシムヘキ事由ノ生シタル都度保護者ニ通知(第二號様式)スヘシ
- 第五條 町村長ニ於テ小學校令第三十三條ニ依リ就學義務ノ免除又ハ就學猶豫ニ關シ認可ヲ受ケムトスルトキハ調査表(第三號様式)ヲ添ヘ其

ノ年四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ニ付テハ毎年三月十日迄ニ其ノ他ノ兒童ニ付テハ其ノ事由ノ生シタル都度支廳長ニ申請スヘシ

- 第六條 町村長ハ就學免除若ハ猶豫中ノ兒童ニシテ其ノ事故止ミ就學シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ
- 第七條 町村長ハ其ノ年四月ニ於テ就學セシムヘキ入學兒童ニ關シテハ毎年三月二十日迄ニ其ノ後ノ入學兒童ニ關シテハ其ノ都度調査表(第四號様式)ヲ添ヘ關係學校長ニ通知スヘシ
- 第八條 町村長ニ於テ小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ家庭其ノ他ニ於ケル修學ヲ認可シタルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ直ニ支廳長ニ報告スヘシ
 - 一 兒童及保護者ノ住所氏名
 - 二 認可ノ年月日並其ノ事由
 - 三 教授ノ場所並教授者ノ履歷
 - 四 一箇年間ノ教授日數及各教科目ノ每週教授時數
- 町村長前項ノ認可ヲ取消シタルトキハ又ハ第三號及第四號ノ事項ニ變更アリタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ
- 第九條 公立尋常小學校長ハ小學校令施行規則第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ報告シタル後入學又ハ出席シタル者アルトキハ直ニ其ノ月日ヲ町村長ニ報告スヘシ
- 町村長ハ前項ノ報告ヲ受ケタル者ノ中小學校令施行規則第九十三條第二項ノ規定ニ依リ報告シタル兒童アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支廳長ニ報告スヘシ
- 第十條 公立尋常小學校長又ハ町村長ハ小學校令施行規則第九十二條又

〔轉法〕

ハ第九十三條第二項ノ規定ニ依リ缺席兒童ノ報告ヲ爲ストキハ缺席兒童報告用紙(第五號様式)ヲ用フヘシ

- 公立尋常小學校長ハ小學校令施行規則第九十二條ノ規定ニ依リ兒童出席ニ關シ通知ヲ爲シタルトキハ通知簿(第六號様式)ニ其ノ要領ヲ記入スヘシ
- 町村長ハ小學校令施行規則第九十三條第一項ノ規定ニ依リ就學又ハ出席ノ督促ヲ爲シタルトキハ督促簿(第六號様式)ニ其ノ要領ヲ記入スヘシ
- 第十一條 小學校令施行規則第九十三條第二項ノ規定ニ依リ報告ハ町村長ニ於テ學校長ヨリ報告ヲ受ケタル日ヨリ四十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
- 支廳長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ就學又ハ出席ノ督促ヲ爲シ督促簿(第六號様式)ニ其ノ要領ヲ記入スヘシ
- 第十二條 支廳長ニ於テ前項ノ督促ニ應セサル者ニ對シ行政執行法第五條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ報告スヘシ
- 第十三條 公立小學校長ハ小學校令第三十八條ノ規定ニ依リ出席ヲ停止シタル兒童アルトキハ直ニ其ノ兒童ノ氏名、學年及事由ヲ具シ支廳長官ニ町村長ニ報告スヘシ其ノ停止ヲ解キタルトキ亦同シ
- 第十四條 學籍簿ノ編製ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - 一 學籍簿用紙ハ美濃紙半載一葉ヲ一人ニ充テ男女ヲ區分シ年次順ニ登載スヘシ但シ學校ノ事情ニ依リ學級又ハ學年別ト爲スコトヲ得
 - 二 學籍簿ハ町村長ヨリ就學兒童ノ異動通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ抹消又ハ訂正スルコトヲ得
 - 三 學籍簿ヲ抹消又ハ訂正シタルトキハ其ノ年月日及事由ヲ備考欄ニ

記入スヘシ

第十五條 公立尋常小學校長ハ小學校令施行規則第九十條ノ規定ニ依リ出席簿(第七號様式)ヲ調製スヘシ

第十六條 公立小學校長ハ月計表(第八號様式)ヲ調製シ毎月兒童出席ノ狀況ヲ翌月十日限支廳長ニ報告スヘシ

支廳長ハ出席調査表(第九號様式)ニ依リ兒童出席ノ狀況ヲ翌月末日限樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十七條 公立高等小學校長ハ本規程ニ準據シ學籍簿及出席簿ヲ調製スヘシ

附則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年五月樺太廳訓令第三十五號在學兒童出席簿様式ノ件ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

就	兒 童 氏 名			住 所	保 護 者 氏 名
	年 月 日	生 年 月 日	學 齡 終 止 年 月 日		
入學シタル學校又ハ教授者氏名					
就學シタル年月日					

考 備	學 就 不 學	尋常小學校ノ教科ヲ了リタル年月日
	豫 猶 年 月 日	
	期 事 由 間	
	除 年 月 日	
	事 由	

右兒童ハ貴部内へ轉住候ニ付學齡簿原本及送付候也

何町(村)長 氏

名印

年月日

町(村)長宛

第二號様式

入學通知書

學齡兒童 氏 名

右本年四月 日何々小學校ニ入學セシムヘシ

何町(村)長 氏 名印

年月日

兒童保護者宛

第三號様式

不 就 學 兒 童 氏 名		不 就 學 兒 童 調 査 表 (緊 豫 又 ハ 免 除 兒 童)		保 護 者 氏 名		免 除 又 ハ 緊 豫 事 由 期 間		從 前 ノ 教 育 ノ 經 歴	
生 年 月 日	住 所	住 所	職 業	兒 童 ト 關 係	氏 名	事 由	期 間	從 前 ノ 教 育 ノ 經 歴	

第四號様式

就學兒童調查表 (一學校毎ニ調査スヘシ)

〔補法〕

第五號様式

入 學 期 日	就 學 兒 童 氏 名	生 年 月 日	住 所	從 前 教 育 經 歴	住 所	保 護 者 氏 名	同 上 住 所
缺 席 セ シ 最 初 年 月 日	缺 席 事 由	年 兒 童 氏 名	保 護 者 氏 名	業 兒 童 ト 關 係	氏 名		

缺席報告書

右及報告候也

年 月 日

何町村(小學校)長 氏

名印

〔補法〕

第六號様式

兒 童 氏 名	學 年	保 護 者 氏 名
報 告 ヲ 受 ケ タ ル 年 月 日	缺 席 セ シ 最 初 ノ 年 月 日 又 ハ 入 學 期 日	缺 席 又 ハ 不 就 學 事 由
督 促 (通 知) 年 月 日		
督 促 (通 知) 始 末		

備考 町村長ヨリ支廳長宛報告書ニハ學年ノ欄ニ學校名ヲ附記スヘシ

支廳(町村)長宛

科	等	高	科		合計	合計	授業日數	其他日數
			第 五 學 年	第 六 學 年				
科	第 一 學 年	第 二 學 年						
合計								
考								
備								

右及報告候也

年 月 日

支 廳 長 宛

梅太公立 小學校長 氏

名印

備考

- 一 三月分報告ニハ卒業兒童及修業兒童ハ卒業又ハ修業セサルモノト看做シ記載スルコト
- 二 臨時休業ヲナシタルトキ又ハ日缺席者ノ著シク多數ナル場合ハ其事由ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 三 補習科ハ別欄ヲ設ケテ記入シ正教科ト區別スルコト

第九號様式

小學校兒童出席月末調査表

月分

〔釋法〕

學 校 名	在籍兒童數		全月缺席兒童數		出席兒童總數		缺席兒童總數		兒童出席歩合		入學兒童數		退學兒童數	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
總 計														

右及報告候也

年 月 日

長 官 宛

何支廳長 氏

名印

備考

- 一 高等科併置ノ學校ニ在リテハ尋常科ノ分ヲ欄ノ右側ニ高等科ノ分ヲ欄左側ニ記入シ總計ノ欄ニ於テモ同様ニスルコト
- 二 補習科ノ分ハ朱書スルコト

●小學校教科用圖書採定ノ件

昭和九年二月二十四日
告示第二十五號

昭和九年四月一日ヨリ使用スベキ小學校教科用圖書左ノ通採定ス
大正四年十月樺太廳告示第百二號ハ昭和九年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

尋常小學修身書

同

同

同

尋常小學修身掛圖

教 師 用

兒 童 用

複式編制學校

複式編制學校

兒童用

甲、乙

同

- 五 學校長御幕ヲ奉揚ス
- 六 職員兒童並參列員一同 天皇陛下
- 七 學校長御幕ヲ奉垂ス
- 八 學校長ハ教育ニ關スル勸語ヲ奉讀ス 此間一同敬肅ノ意ヲ表シ終リニ最敬禮ヲ行フ
- 九 學校長ハ教育ニ關スル勸語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ對告ス
- 十 唱歌(式日相當ノ唱歌)
- 十一 學校長ハ儀式終了ノ旨ヲ告ク
- 十二 修禮
- 十三 參列員並職員兒童退席

●小學校教員講習會規程

大正八年七月十九日 告示第百三號

- 第一條 小學校教員講習會規程 小學校教員及教育所教員ノ學力ヲ補習セシムル爲本規程ニ依リ講習會ヲ開催ス
- 第二條 講習會ニ監督、講師及書記ヲ置ク
- 第三條 講習會開催ノ場所、期間、講習科目、講師、講習員ノ資格、人員其ノ他講習ニ關シ必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ公告ス
- 第四條 講習員ハ所轄樺太廳支廳長ノ推薦ニ依リ樺太廳長官之ヲ選定ス

- 第五條 講習員講習會開催地ニ到着シタルトキハ直ニ其ノ宿所ヲ講習會監督ニ届出ツヘシ
- 第六條 講習員病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ講習會監督ニ届出ツヘシ但シ開會前ナルトキハ所轄樺太廳支廳長ヲ經由スヘシ
- 第七條 講習員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ除名ス
一 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ講習開始ノ日ヨリ七日ヲ經テ仍出席セサルトキ
- 二 正當ノ事由ナクシテ缺席三日以上ニ互リタルトキ
- 三 時時缺席若ハ遅刻シ講習ノ意思切實ナラスト認ムルトキ
- 四 不良ノ行爲アリタルトキ
- 第八條 講習終了シタルトキハ講習科目ニ就キ試験ヲ行ヒ學業成績ヲ考查シ其ノ合格者ニ對シ第一號様式ノ證書ヲ授與ス但シ特別ノ事由アルトキハ試験ヲ行ハサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ講習員ニ對シ第二號様式ノ證書ヲ授與ス
- 第九條 學業成績ハ百點ヲ以テ滿點トシ六十點以上ヲ以テ合格トス
- 第十條 講習員ニハ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

〔樺法〕

番 號	講習證書
「學 科 目」	氏 名
小學校教員講習會ニ於テ前記學科ヲ講習シ學業成績ノ考查ニ合	

格シタルコトヲ證ス

年 月 日	樺 太 廳
-------	-------

第二號様式

番 號	講習證書
「學 科 目」	氏 名
小學校教員講習會ニ於テ前記學科ヲ講習シタルコトヲ證ス	
年 月 日	樺 太 廳

〔樺法〕

- 告示スヘシ但シ臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ
- 樺太廳中學校附設小學校教員講習所ヲ卒業シタル者又ハ樺太廳高等女學校補習科師範部ヲ修業シタル者ニシテ卒業後又ハ修業後直ニ無試験檢定ヲ出願スル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
- 第二條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書、第三號書式ノ身體檢査書、戶籍抄本及小學校令施行規則第百四條第一號及第三號ニ關スル原籍市町村長(市ノ區長カ戶籍事務ヲ行フ場合ニ於テハ區長、市町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村長ニ準スヘキ職務ヲ行フ者)ノ身元證明書ヲ添附シ樺太廳長官ニ提出スヘシ但シ現ニ管内官公立學校教員ノ職ニ在ル者ハ戶籍抄本及身元證明書ヲ添附ヲ要セス
- 第三條 試驗科目中小學校本科正教員ニ在リテハ手工、農業、商業、英語、小學校准教員ニ在リテハ手工、農業、商業、小學校准教員ニ在リテハ唱歌ヲ省ク
- 第四條 小學校專科正教員ノ試験ハ尋常小學校准教員ノ試験程度ニ依リ修身、國語、算術ノ學力ヲ試験シタル上之ヲ行フ但シ小學校教員檢定委員會ニ於テ履歷ニ依リ本文ノ學科ニ就キ普通ノ學力ヲ有スト認定シタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ行ハス
- 第五條 試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與ス
- 第五條ノ二 檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ
小學校本科正教員 三 圓

●小學校教員檢定細則

大正三年二月六日 廳令第一號

改正 大正七年三月廳令第四號、一〇年三月九號、一二月四號、一一年五月四九號

- 小學校教員檢定細則
- 第一條 無試験檢定ハ其ノ出願アル毎ニ之ヲ行フ
- 試驗檢定ハ毎年八月之ヲ行ヒ出願ノ期限試驗ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 尋常小學校本科正教員 三 圓
- 小學校專科正教員 三 圓
- 小學校准教員 二 圓
- 尋常小學校准教員 二 圓

第六條 免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金一圓ヲ納ムヘシ
第七條 前二條ノ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既
ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號書式)

小學校教員試驗(無試驗)檢定願

本籍族籍

住所

職名(現ニ小學校教員ノ職ニ在ル者ニ限ル)

氏名

生年月日

檢定ノ種類

筆記試驗受驗希望地

私儀小學校教員志望ニ候間前記ノ資格ニ就キ何科(專科ニ)試驗(無試
驗)檢定相受ケ度別紙履歷書、身體検査書、戶籍抄本及身元證明書相
添(此段相願候也)

年月日

右

七四

氏名印

樺太廳長官氏名殿

(第二號書式)

履歷書

本籍地

住所

氏名印

生年月日

一 免許狀及卒業證書(寫ヲ添附スヘシ)

一 學業

一 業務

一 賞罰(賞罰ノ事由種類ヲ記載スヘシ)

右之通候也

年月日

(第三號書式)

身體検査書

族籍

何

生年月日

一 體格

一 身長

一 體重

一 胸圍

〔轉法〕

〔轉法〕

一 視力

一 色盲

一 眼疾

一 聽力

一 耳疾

一 呼吸器

一 神經系

一 皮膚

一 言語

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年月日検査

住所

醫師何

某印

一 身體検査書記載方心得

一 検査ノ表記及身長、體重、胸圍、聽力等ノ検査方法ハ明治三十三

年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ但シ検査器械

ハメートル式ニ從ヒ衡ハキログラム度ハセンチメートルヲ以テ單

位トシ以下四捨五入法ヲ用キ小數一位ヲ作ルヘシ

一 體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長セン

チメートルヲ以テ體重キログラムヲ除シタル商〇、三二以上且無

病健全ノ者ヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長センチメートル

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

ヲ以テ體重キログラムヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指
ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不充分ナルカ或ハ身長センチメー
トルヲ以テ體重キログラムヲ除シタル商〇、二六未満ナルカ或ハ強

度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル

慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一 視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ兩眼ニ就キ中心視力ヲ檢

査シ〇(メ)ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニ在リテハ二十尺ノ距離

ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

一 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色目ト記載スヘシ

一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一 皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現

ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一 言語ハ明瞭、吃、嚔聲等ヲ記載スヘシ

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、

肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ特ニ

肺結核ノ有無ハ必之ヲ記載シ必要ノ場合ニハ咯痰検査及ビルケー

氏皮膚反應試驗ヲ用キテ參考ニ資スルヲ要ス

七五

● 小學校教員試驗檢定ニ於テ闕ク ヘキ科目及普通學力ヲ有スト認 ムルモノニ關スル件

大正十一年五月三十一日
告示第百號

改正 昭四年五月告示一〇二號
小學校教員試驗檢定ニ於テ闕クヘキ科目及普通ノ學力ヲ有スト認ムルモノニ關シ左ノ通定ム

- 第一條 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ所持スル者ニ付テハ該免許狀記載ノ科目ノ試驗ハ各種ノ試驗檢定ニ於テ之ヲ闕ク
- 第二條 小學校令施行規則第百四十四條ニ依ル證明書ヲ所持スル者ニ付テハ該證明書記載ノ科目ノ試驗ハ同種類ノ試驗檢定ニ於テ之ヲ闕ク
- 第三條 小學校教員講習會規程ニ依ル講習會終了試驗ニ於テ成績佳良ト認メタルモノニ付テハ該科目ノ試驗ハ小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員及尋常小學校准教員試驗檢定ノ場合ニ於テ之ヲ闕ク
- 第四條 中學校、高等女學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者ニ付テハ左ノ通之ヲ闕ク
 - 一 小學校本科正教員試驗檢定ノ場合
中學校卒業者 修身、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟(其ノ校ニ於テ學習シタルトキニ限ル) 習字、圖畫、

體操

高等女學校卒業者 修身、歷史、地理、圖畫、音樂、體操、家事、

裁縫

實科高等女學校卒業者 修身、體操、家事、裁縫

農業學校卒業者 修身、數學、博物、物理及化學、法制及經濟

水產學校卒業者 同上

工業學校卒業者 修身、數學、物理及化學、法制及經濟

商業學校卒業者 修身、數學、法制及經濟

商船學校卒業者 修身、數學、物理及化學ノ内物理

尋常小學校本科正教員試驗檢定ノ場合

中學校卒業者 修身、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、體操

高等女學校卒業者 修身、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、音樂、體操、裁縫

實科高等女學校卒業者 修身、國語、理科、體操、裁縫

農業學校卒業者 修身、算術、理科

水產學校卒業者 同上

工業學校卒業者 修身、算術、理科ノ内物理及化學

商業學校卒業者 修身、算術

商船學校卒業者 修身、算術、理科ノ内物理

尋常小學校准教員試驗檢定ノ場合

中學校卒業者 修身、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、體操

高等女學校卒業者 同上

實科高等女學校卒業者ヲ含ム

〔釋法〕

樺太ニ於ケル小學校教員試驗檢定受験者ノ參考トスヘキ書目概ネ左ノ如シ
大正五年二月樺太廳告示第九號ハ之ヲ廢止ス

小學校教員試驗檢定受験者參考書目

小學校本科正教員ノ部

科目	書名	卷册	著者	發行所
修身	最新教育學	一册	小西 重直	京都 金港堂
	最新各科教授法	同	小西 重直	同
	最新論理學	同	長田 新	同
	最新近世教育史	同	勝部 謙三	同
	最新心理學	同	小西 重直	同
	最新心理學	同	野上 俊夫	同
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
教育	最新各科教授法	同	小西 重直	同
	最新論理學	同	長田 新	同
	最新近世教育史	同	勝部 謙三	同
	最新心理學	同	小西 重直	同
	最新心理學	同	野上 俊夫	同
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
國語及漢文	最新各科教授法	同	小西 重直	同
	最新論理學	同	長田 新	同
	最新近世教育史	同	勝部 謙三	同
	最新心理學	同	小西 重直	同
	最新心理學	同	野上 俊夫	同
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館
	最新心理學	同	乙竹 岩造	培風館

● 小學校教員試驗檢定受験者參考

書ノ件 大正十五年十二月十五日
告示第百四十一號

- 第五條 專科正教員ノ試驗檢定ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力アル者ト認定ス
- 一 尋常小學校准教員以上ノ免許狀ヲ有スル者
- 二 修業年限三箇年ノ高等小學校卒業者及中等程度以上ノ學校卒業者
- 三 前年以前ノ專科正教員試驗檢定ニ於テ修身、國語、算術ノ試驗ヲ爲シ普通ノ學力ヲ有スト認メラレタル者

改正 昭四年四月告示七二號、五年六月一〇五號、六年五月九八號

國語	修身	教育	體操			音樂	圖畫	
			學校體操	學校體操	學校體操		大成圖畫	新定畫帳
高等小學書方手本甲種	高等小學讀本	新教育教授法	學校體操	學校體操	學校體操	小學校本科正教員ニ同シ	大成圖畫	新定畫帳
同	同	同	同	同	同	同	師範用	全部
同	同	同	陸軍省	野口源三郎	大谷武一	永井道明	阿部七三吉	文部省
同	同	同	武揚堂	同	目黒書店	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	國定教科書共同販賣所

裁縫	圖畫	理科	算術	地理	歷史	體操	
						學校體操	學校體操
小學校本科正教員ニ同シ	新定畫帳	尋常小學理科書教師用	尋常小學算術書	尋常小學地理書	尋常小學國史	學校體操	學校體操
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同

音樂	商業	圖畫	手工
小學校本科正教員ニ同シ	訂正新選商業要項 實用商業簿記教科書	小學校本科正教員ニ同シ	改訂新手工教科教材及教授法
一冊	一冊	一冊	一冊
武田英一	森富次郎	岡山秀吉	岡山秀吉
三松堂	同	培風館	培風館

樺太廳中學校規則

昭和六年五月十九日
廳令第十五號

改正 昭和六年八月廳令二十九號、八年四月二號
樺太廳中學校規則左ノ通改正ス

- 第一章 目的及修業年限
- 第二章 生徒教養ノ要旨
- 第三章 學科及其ノ程度
- 第四章 學年、學期、教授日數及休業日並式日
- 第五章 編制

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒
- 第七章 授業科
- 第八章 小學校教員講習所
- 樺太廳中學校規則
- 第一章 目的及修業年限
- 第一條 樺太廳中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力メ兼テ拓殖ニ適應スル人材ノ育成ニ留意スルモノトス
- 第二條 修業年限ハ五年トス
- 第二章 生徒教養ノ要旨
- 第三條 生徒教養ノ要旨ハ昭和六年文部省令第二號中學校令施行規則第一條ニ準スルモノトス
- 第三章 學科及其ノ程度
- 第四條 學科目ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、外國語、數學、理科、實業、圖畫、音樂、作業科、體操トス
- 第四學年以上ニ在リテハ第一種及第二種ノ課程ヲ編制シ生徒ヲシテ其一ノ課程ヲ選修セシム第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ増課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ増課シ之ヲ編制スヘシ
- 前項ノ規定ハ第三學年以上ヨリ之ヲ適用スルコトヲ得但シ第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、作業科、

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ増課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ増課シ之ヲ編制スヘシ
特別ノ事情アルトキハ學校長ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ第一種課程及第二種課程ノ中共ノ一ヲ缺クコトヲ得
實業ニ於テ農業又ハ工業ヲ課スル場合ニ在リテハ作業科ヲ缺クコトヲ得

外國語ハ英語トシ獨語、佛語又ハ支那語ヲ課スルコトヲ得

第五條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ第四學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ甲號表、第三學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ乙號表ニ依

甲號表

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
公民科					
國語漢文	七	六	六	四	二
歷史					
地理	三	三	三	三	四
外國語	五	五	六	三	三

〔編法〕

ルヘシ
學校長ハ必要アルトキハ甲號表又ハ乙號表ノ每週教授時數ノ合計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得
甲號表ノ第三學年ニ於ケル音樂ハ之ヲ缺クコトヲ得
前條第五項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタルトキハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
實業、作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得
甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ノ外每週二時以內ヲ課程外ノ指導ニ充ツルコトヲ得

目 科										目 科									
增					課					科					目				
國語漢文	外國語	數學	理科	實業	圖畫	音樂	增課科目ニ充ツヘキ總時數	合計	國語漢文	外國語	數學	理科	實業	圖畫	音樂	體操	作業科	基本科目總時數	合計
第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	一一一	三〇	第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	第一種 五	第一種 一	三〇	三〇
第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	一一一	三〇	第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一四	第二種 一一四	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 五	第二種 一	三〇	三〇
第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	一一一	三三	第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	第一種 五	第一種 一	三三	三三
第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	一一一	三三	第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一四	第二種 一一四	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 五	第二種 一	三三	三三
第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	一一一	三三	第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	第一種 五	第一種 一	三三	三三
第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	一一一	三三	第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一四	第二種 一一四	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 五	第二種 一	三三	三三
第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	一一一	三三	第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	第一種 五	第一種 一	三三	三三
第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	一一一	三三	第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一四	第二種 一一四	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 五	第二種 一	三三	三三
第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	一一一	三三	第一種 一一三	第一種 一一三	第一種 二一五	第一種 一一四	第一種 一一四	第一種 一一二	第一種 一一二	第一種 五	第一種 一	三三	三三
第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 一一二	一一一	三三	第二種 一一三	第二種 一一三	第二種 二一五	第二種 一一四	第二種 一一四	第二種 一一二	第二種 一一二	第二種 五	第二種 一	三三	三三

〔編法〕

乙號表

科目	基 本 科 目											學年	
	修 身	公 民 科	國 語 漢 文	歷 史	地 理	外 國 語	數 學	理 科	圖 畫	音 樂	作 業 科		體 操
第一學年	一		七		三		五	三	二	一	二	五	三〇
第二學年	一		六		三		五	三	一	一	三	五	三〇
第三學年	一		四		三		三	三			三	五	二〇
第四學年	一		二		三		三	四			四	五	二〇
第五學年	一		二		三		三	四			四	五	二〇
第一種													
第二種													
第一種													
第二種													

〔釋法〕

課 目	基 本 科 目					合 計
	數 學	理 科	實 業 科	圖 畫	音 樂	
第一學年	一	二	二	二	一	三〇
第二學年	一	二	二	二	一	三〇
第三學年	一	二	二	二	一	三〇
第四學年	一	二	二	二	一	三〇
第五學年	一	二	二	二	一	三〇
第一種						
第二種						
第一種						
第二種						

〔釋法〕

第六條 各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第七條 各學科目ノ教授ノ要旨及程度ハ昭和六年文部省令第二號中學校令施行規則第五條乃至第十七條ニ準スルモノトス

第八條 生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第九條 教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ付學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢査ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ學校長ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ一時之ヲ使用スルコトヲ得

第四章 學年、學期教授日數及休業日數並式日

第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十一條 各學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十二條 休業日左ノ如シ

- 一 大祭日及日曜日
- 二 樺太廳開廳記念日
- 三 官幣大社樺太神社大祭日
- 四 夏季休業八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ル
- 五 冬季休業十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
- 六 學年末休業三月二十五日ヨリ四月七日ニ至ル

前項ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ臨時休業スルコトヲ得

第十三條 教授日數ハ第一學年乃至第三學年ニ在リテハ每學年二百二十日以上トシ第四學年及第五學年ニ在リテハ二百日以上トス但シ第十二

條第二項及第十四條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十四條 傳染病預防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業スルコトヲ得

第十五條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第五章 編制

第十六條 樺太廳中學校ノ生徒數左ノ如シ

一 樺太廳大泊中學校 九百五十人以下

二 樺太廳豐原中學校 九百五十人以下

三 樺太廳真岡中學校 七百人以下

第十七條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スルモノトス

一 學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第十八條 作業科、音楽、體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得實業ニ於ケル實習ノ場合亦同シ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第十九條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除ク外新ニ生徒ノ入學ヲ許サス

第二十條 學校長生徒募集ヲ爲サントスルトキハ募集人員、募集期限、其ノ他必要ナル事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一 尋常小學校ヲ卒業シタル者

二 他ノ中學校ノ豫科又ハ高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者

三 國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業程度ニ依ル檢定ニ合格シタル者

前項第三號ノ試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ノ者タルヘシ但シ尋常小學校第五學年ノ課程ヲ修了シ學業優秀且身體ノ發育十分ニシテ中學校ノ課程ヲ修ムルニ足ルコトヲ當該校長ニ於テ證明シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定ス

第二十三條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一年以内ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第二十四條 他ノ中學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ缺員アル場合ニ限リ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第二十五條 他ノ中學校ニ轉校ヲ願出タル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ヘ送附スヘシ

第二十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科目ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

〔釋法〕

第二十七條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル者ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第二十八條 學校長ハ全學科目ヲ卒業セリト認メタル者ニ對シテハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十九條 學校長ハ兵役ニ服スル生徒ニ對シテハ其ノ期間休學ヲ許可スヘシ

第三十條 前條ノ外休學ヲ願出タル者アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル者ニ限リ休學期間一年以内ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第三十一條 休學日數ハ總テ之ヲ缺席日數ニ通算セサルモノトス

第三十二條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第三十三條 生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ハ誹責、停學、放校ノ三種トス

第七條 授業料

第三十五條 授業料ハ月額三圓トス

第三十六條 授業料ハ毎月二十五日迄ニ之ヲ徵收ス但シ納付期限後ニ至

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

〔釋法〕

リ出席又ハ入學シタル場合ニハ其ノ當日之ヲ納メシム

休學又ハ缺席全月ニ互ルトキ及全月休業ノ場合ハ其ノ月ノ授業料ハ之ヲ徵收セス但シ無額缺席ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條ノ二 生徒授業料ノ納付ヲ怠リ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ未納中出席ヲ停止スルコトヲ得

第八章 小學校教員講習所

第三十七條 小學校教員講習所ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

實業、作業科ハ本令施行後五年以内之ヲ缺クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ實業、作業ヲ缺キタル學校ニシテ之ヲ置クニ至リタル際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第三項ノ例ニ依ル

第四項ノ規定ニ依リ實業、作業科ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ教授時數ハ適宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スヘシ

樺太廳中學校規則(抄録)

明治四十五年四月十七日
廳令第十一號

改正 省略

第二章 教科目及其ノ程度

第三條 學科目ハ修身、國語及漢文、英語、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、體操トス

前項ノ學科目ノ外學校長ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ他ノ學科ヲ加フルコトヲ得

第四條 各學科目教授ノ要旨及程度ハ明治三十四年文部省令第三號中學校令施行規則第二條乃至第十三條ニ準ズルモノトス

第五條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身		一	一	一	一	一
國語及漢文		八	八	七	六	一
英語		六	七	七	七	五
地理、歴史		三	三	三	三	三
數學		五	五	五	四	四
博物		二	二	二	二	二
物理		一	一	一	一	一
化學		一	一	一	一	一
經濟		一	一	一	一	一
法制		一	一	一	一	一

圖畫	體操	計
一	五	三
一	五	三
一	五	三
一	五	三
一	五	三

第三條第二項ニ依ル隨意科目ノ每週教授時數ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

第四學年及第五學年ニ於テハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ生徒ノ全部又ハ一部ニ對シ修身及體操ヲ除キ第一項各學科目ノ每週教授時數ヲ彼此増減シテ之ヲ課スルコトヲ得

學校長ハ季節ニ依リ各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得

第三項ニ依ル變更時間數ハ一學科目ニ就キ二時以内第四項ニ依ル變更時間數ハ一學科目ニ就キ二時以内、總計六時以内トス

體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜増加シテ課スルコトヲ得

第五條ノ二 生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第六條 教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ學校長ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ一時之ヲ使用スルコトヲ得

〔樺法〕

● 戰公傷病死者、公務從軍者及下士官以下軍人ノ公務傷病死者等ノ子弟ニ對スル授業料免除規程

昭和八年七月八日
廳令第十九號

戰公傷病死者、公務從軍者及下士官以下軍人ノ公務傷病死者等ノ子弟ニ對スル授業料免除規程左ノ通定ム

第一條 戰公傷病死者、公務從軍者及下士官以下軍人ノ公務傷病死者等ノ子弟ニ對スル授業料免除規程

シテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給又ハ雇員扶助令、傭人扶助令ニ依ル扶助金(療治料ヲ除ク)ヲ給セラレ又ハ給セラルヘキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ樺太廳中學校及樺太廳高等女學校ノ授業料ヲ免除ス下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラス公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者並傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレ又ハ給セラルヘキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シ亦同シ

第二條 戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ從軍中樺太廳中學校及樺太廳高等女學校ノ授業料ヲ全部又ハ一部免除スルコトヲ得

第三條 本令ニ依ル授業料ハ當該事實又ハ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

之ヲ免除シ其ノ事實又ハ事由ノ止ミタルトキハ其ノ翌月ヨリ徵收ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ授業料ヲ免除セラルヘキ當該事實又ハ事由ニシテ本令施行前ニ生シタルモノナルトキハ本令ノ適用ニ關シテハ其ノ事實又ハ事由ハ本令施行ノ月ヲ以テ生シタルモノト看做ス

● 樺太廳中學校文官任用令第六條 第一號ニ依リ認定

大正三年十月
文部省告示第四百一十一號

樺太廳中學校

右ハ文官任用令第六條第一號ニ依リ認可ス

● 樺太廳中學校附設小學校教員講習所規則

昭和二年二月二十三日
廳令第一號

改正 昭和四年一月廳令四〇號
大正十一年四月樺太廳令第二十七號樺太廳中學校附設小學校教員講習所規則左ノ通改正ス

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

樟太廳中學校附設小學校教員講習所規則

第一章 目的及生徒教育ノ要旨

第一條 本所ハ男子ニシテ小學校教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 第二條 本所ニ於テハ師範學校規程第一條ニ準シテ生徒ヲ教育スヘシ

第二章 修業年限

第三條 本所ノ修業年限ハ之ヲ一年トシ本科及研究科ノ二科ニ分ツ

第三章 學科及其ノ程度

第四條 本科ノ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、國畫、手工、音樂、體操、農業又ハ商業トス
 第五條 本科ノ學科目ノ程度ハ師範學校規程第三十條乃至第三十六條、第三十八條及第三十九條ノ規定ニ依ル

第六條 本科ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

學科目	每週教授時間數
修身	二
教育	八
國語及漢文	三

學科目	每週教授時間數
歷史	二
地理	二
數學	二
博物	二
物理及化學	二
法制及經濟	二
農 業	三
商 業	三
國 畫	三
手 工	三
音 樂	一
體 操	三
計	三四

體操及技能ノ實習ハ前表教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

教育實習ハ卒業ニ近キ時期ニ於テ約八週專ラ課スヘシ

第七條 研究科ハ本科ノ學科目又ハ之ニ關聯スル科目ニ付精深ナル程度ニ於テ學修ヲナサシムルヲ以テ目的トス

第八條 研究科ノ學科目ハ修身、哲學、教育、國語及漢文、農業又ハ商

〔釋法〕

〔釋法〕

業、體操トス

前項學科目ノ外英語、歷史及地理、數學、博物、物理及化學、國畫及手工、音樂ノ中ヨリ其ノ數科目ヲ選修セシム

第九條 研究科ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	每週教授時間數
修身	二
哲學	三
教育	四
國語及漢文	四
農 業	五
商 業	五
體 操	二
選擇科目	八一—一二
計	二八一—三三二

選擇科目

英語 四 讀方及譯解

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

學科目	每週教授時間數
歷史及地理	四
數 學	四
博 物	四
物理及化學	四
國畫及手工	四
音 樂	四

學校長ハ選擇科目ヲ適宜組合セ其ノ中ニ就キ生徒ヲシテ選修セシムルコトヲ得

第四章 學年、學期、休業日及式日

第十條 學年、學期、休業日及式日ニ關シテハ樟太廳中學校規則ノ定ムル所ニ依ル

第五章 生徒定員及編制

第十一條 本所ノ學級ヲ定ムルコト左ノ如シ

本 科 一學級

研究科 一學級

第十二條 前條學級ノ生徒數ハ本科四十名研究科二十名トス

第六章 入學、卒業、退學、懲戒

第十三條 學校長生徒募集ヲ爲サントスルコトキハ募集人員、募集期限其ノ他必要ナル事項ヲ具シ樟太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條ノ二 本科ニ入學シ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ年齢二十五
 年未滿ノ者ニシテ入學檢定ニ合格シタルモノトス

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 二 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五箇年ノ實業
 學校若ハ之ト同等以上ノ實業學校ヲ卒業シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者
- 四 學校在學者ニシテ入學期ニ於テ第一號又ハ第二號ニ該當スヘキ見
 込ノ者
- 五 尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ所持シ樺太ニ於テ二ヶ年以上小
 學校教育又ハ教育事務ニ從事シタル者ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者
 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ樺太廳管内ニ
 於テ一ヶ年以上小學校教育又ハ教育事務ニ從事シタル者ニシテ現ニ其
 ノ職ニアリ學校長ニ於テ適當ト認ムル者トス但シ時宜ニ依リ入學檢定
 ヲ行フコトアルヘシ

- 一 講習所本科卒業者
- 二 師範學校本科卒業者
- 三 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十三條ノ三 入學志願者ノ檢定ニ關スル方法ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經
 テ學校長之ヲ定ム

第十四條 本科入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)身
 體檢査書(第三號書式)戶籍抄本、學業成績證明書(第四號書式)又ハ專
 門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格證明書(第五號書式)及寫眞
 ヲ添ヘ學校長ニ出願スヘシ但シ現ニ樺太廳管内ニ於テ小學校教育又ハ

教育事務ニ從事スル者ハ身體檢査書、戶籍抄本、學業成績證明書又ハ
 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格證明書及寫眞ノ添附ヲ樺
 太廳中學校ヲ卒業シタル者ハ學業成績證明書及寫眞ノ添附ヲ要セス研
 究科入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)身體檢査書
 (第三號書式)ヲ添ヘ學校長ニ出願スヘシ

現ニ樺太廳管内ニ於テ小學校教育又ハ教育事務ニ從事スル者ハ樺太廳
 長官ノ承認書ヲ添附スヘシ

第十五條 入學ヲ許可セラレタル者ハ本人ノ身上ニ關シ一切ノ事件ヲ引
 受クルニ足ルヘキ保證人ヲ定メ誓約書(第六號書式甲、乙)ヲ差出スヘ
 シ

前項ノ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十六條 保證人死亡シタルトキハ本人ハ遲滞ナク新ニ保證人ヲ定メ連
 署ノ上願書ヲ差出スヘシ

第十七條 學校長ハ全學科ヲ修了シタル者ニ卒業證書(第七號書式)ヲ授
 與ス

第十八條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ樺太廳長官ノ認可ヲ
 經テ退學ヲ命スヘシ

- 一、疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘサル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
- 三、性行不良ニシテ本所教育ノ趣旨ニ適セサル者

第十九條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サ
 ル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 生徒ニシテ第十八條第三號ニ依リ退學ヲ命セラレタル者又ハ

〔樺法〕

〔樺法〕

自己ノ便宜ニ依リ退學シタル者ニハ在學中給與シタル學費ノ全部又ハ

一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第二十一條 學校長ハ教育上必要ト認ムルトキハ生徒ニ對シ左ノ懲戒ヲ
 加フルコトヲ得

- 一、誹責
- 二、謹慎
- 三、停學
- 四、放校

第七章 學費及卒業後ノ服務

第二十二條 生徒ニハ在學中學費ヲ支給ス其ノ種類金額及支給方法ハ別
 ニ之ヲ定ム

第二十三條 卒業シタル者ハ卒業後左ノ期間樺太廳長官ノ指定スル職務
 ニ從事スルノ義務ヲ有ス

- 本科卒業者 二年
- 研究科卒業者 二年

一年現役兵トシテ服役スル期間ハ前項ノ服務年數ニ算入セス

第二十四條 卒業者ニシテ服務義務ヲ盡スコト能ハサル事由ヲ生シタル
 者アルトキハ樺太廳長官ハ義務ヲ免除シ又ハ必要ト認ムル期間内義務
 ヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項ノ猶豫期間ハ之ヲ服務年數ニ算入セス

第二十五條 卒業後左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ在學中給與シタル學費
 ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム

- 一、第二十三條ノ義務ヲ履行セサル者

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

二、服務年限中懲戒免職ニ處セラレ又ハ教員免許狀ヲ褫奪セラレタル
 者

第八章 宿舎

第二十六條 生徒中本科ニアリテハ之ヲ寄宿舍ニ入ラシム但シ已ムヲ得
 サル事情アルトキハ學校長ニ於テ期間ヲ定メテ外泊ヲ許可スルコトヲ
 得

第九章 位置

第二十七條 本所ハ樺太廳大泊中學校ニ附設ス

附則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
 第一號書式

入學願書(用紙美濃紙)

本籍	本籍
現住所	現住所
族籍	族籍
受信地	受信地
電報受信地	電報受信地
私儀小學校教員志願ニ付御校附設小學校教員講習所本科(又ハ研究科)	年月日生
ハ入學仕度候條御許可被下度別紙關係書類相添ヘ此段奉願候也	何(部)
年月日	右
氏	氏
名	名
印	印

樺太廳大泊中學校長宛

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第二號書式

履歷書(用紙美濃紙)

本籍 現住所 族稱 戶主某ノ何男職業
(假名ヲ附スヘシ)

- 一 學業
 - 一 職業
 - 一 賞罰
 - 一 兵役
- 右ノ通相違無之候也

右

第三號書式

身體檢查書(用紙美濃紙)

本籍現住所族稱職業

- 一 體格 (強健、中等、薄弱)
- 一 身長 (尺寸分)
- 一 體重 (貫、百、匁)
- 一 胸圍 (尺寸分)

學年	學科	身修	國語	總平均	同中	備考
第 學年	第 學年	第 學年	第 學年	第 學年	第 學年	第 學年
本人ノ人物ニ關スル學長ノ所見						
年月日						

注意 上學年三箇年分ノ成績ヲ記入スルモノトス
最終學年在學中ノ者ニ有リテハ其ノ學年ノ欄ニハ最近ノ學期成績ヲ記入スルモノトス

第五號書式

試驗檢定合格證明書

府縣族稱 氏 名 印
年月日生

右專門學校入學者檢定規程ニ依リ本校ニ於テ施行シタル試驗檢定ニ左ノ成績ヲ以テ合格ニ付何年月何日附合格證書ヲ交付シタル者ナルコトヲ證ス

修身	國語	總平均	備考

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 一 視力 常時 盈虛ノ差
 - 一 聽力 疾盲
 - 一 呼吸器 疾
 - 一 神經系 疾
 - 一 皮膚 疾
 - 一 言語 疾
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
右檢查候處相違無之候也

第四號書式

學業成績證明書

現住所 醫師 氏 名 印
年月日生

〔禱法〕

第六號書式(甲)

三錢收 入印紙 誓約書 (用紙美濃紙)

〔氏名〕儀今般御校附設小學校教員講習所本科(研究科)ニ入學御許可相候ニ付テハ御規則堅ク遵守スヘキハ勿論在學中「氏名」一身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受け處辨致スヘク候仍テ誓約書差出候也

本籍族稱 戶主某續柄 本人 氏 名 印
住所職業本人トノ續柄 保證人 氏 名 印

第六號書式(乙)

三錢收 入印紙 誓約書 (用紙美濃紙)

〔氏名〕儀今般御校附設小學校教員講習所本科(研究科)ニ入學御許可相候ニ付テハ卒業ノ上ハ成規ノ通服務致スヘク萬一在學中ノ學資辨償ヲ命セラレタル場合ニハ保證人連帶ヲ以テ其ノ義務ヲ履行致スヘク候仍テ誓約書差出候也

年月、日

本籍族籍戶主某禮稱

本人 氏

住所職業本人トノ禮稱

保證人 氏

名印

名印

樺太廳長官宛

第七號書式

校印 卒業證書

族籍

氏

名

年月日生

右者當校附設小學校教員講習所本科(研究科)ノ課程ヲ履修シ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證書
年月日

學校長 位勳 氏

名 印校長

番號

樺太廳中學校附設小學校教員講習所文官任用令第六條ニ依リ認定

大正十一年七月十日
文部省告示第四百八十八號

樺太廳中學校附設小學校教員講習所

右ハ文官任用令第六條ニ依リ認定ス但シ效力ハ別科生ニ及ハス

樺太廳高等女學校規則

大正五年四月八日
廳令第十四號

改正 大八年八月廳令二三號、九年三月四號、一〇年三月四號、五月二九號、一一年四月四號、一二年六月三〇號、一四年三月八號、昭二年三月二號、三號、四月一〇號、一八號、十一月三五號、一月三九號、三年四月一三號、四年四月一五號、五年四月一八號、六年五月一三號、八月三〇號、七年三月七號、四月九號、八年四月六號

樺太廳高等女學校規則

第一章 目的及修業年限

第一條 本校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德養成ト婦徳ノ涵養トニ力メ兼テ拓殖ニ適應スル女子ノ育成ニ留意スルモノトス

第二條 修業年限ハ四年又ハ五年トス

第二條ノ二 本校ニ補習科ヲ置キ其ノ修業年限ヲ一年トス
第二章 學科目及其ノ程度

〔補法〕

第三條 學科目ハ修身、公民科、國語、英語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音楽、體操、教育トス
第三條ノ二 補習科ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音楽、體操、教育トス
第三條及前項ノ學科目ノ外學校長ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ他ノ學科目ヲ加フルコトヲ得
第四條 各學科目教授ノ要旨及程度ハ明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則第二條乃至第十四條ニ準スルモノトス
補習科終了後小學校教員タラントスル者ニ課スル教育科教授ノ要旨、程度及時數ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム
第五條 各學年並補習科ニ於ケル學科目ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ

甲號表

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身		二	二	二	一	一
公民科					一	一
國語		六	六	六	五	五
外國語				六	五	五
英語				三	三	三
歴史		三	三	二	二	二
地理		三	三	二	二	二
數學		三	三	三	三	四

乙號表

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
理科		二	二	三	三
圖畫		一	一	一	一
家事				三	二
裁縫		五	五	五	三
音楽		二	二	二	一
體操		三	三	三	三
教育		三〇	三〇	三〇	三〇
計		三〇	三〇	三〇	三〇

〔補法〕

圖畫	家事	裁縫	音樂	體育	教育	計
一	二	三	一	三	三	三〇
一	三	五	一	三	三	三〇
一	三	五	一	三	三	三〇
一	三	五	一	三	三	三〇

丙號表

學科目	學年	補	習	科
修身	一	一	一	一
公民科	一	一	一	一
國語	四	四	四	四
歷史、地理	二	二	二	二
數學	三	三	三	三
理科	三	三	三	三
圖畫	二	二	二	二
家事	二	二	二	二

裁縫	音樂	體育	教育	計
四	二	二	三	二九

第三條ノ二第二項ニ依ル隨意科目ノ每週教授時數ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

學校長ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ各學年補習科ニ於ケル各學科目毎週教授時數ヲ變更スルコトヲ得

學校長ハ季節ニ依リ各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得

前項ニ依ル變更時間數ハ一學科目ニ就キ二時以內總計六時以內トス

家事ノ實習及音樂ノ樂器使用法ハ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

第六條 教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ學校長ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ一時之ヲ使用スルコトヲ得

第三章 學年、學期及休業日並式日

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 各學年ヲ左ノ三期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第九條 休業日左ノ如シ

一 大祭祝日及日曜日

二 皇后陛下御誕辰 六月二十五日

三 官幣大社樺太神社例祭 八月二十三日

四 開校記念日

五 夏季休業 七月二十一日ヨリ八月二十日ニ至ル

六 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

七 春季休業 三月二十五日ヨリ四月七日ニ至ル

第十條 前條ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

天災事變其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テ前項ノ認可ヲ受クルノ暇ナキトキハ學校長限臨時休業ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ハ直ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十條ノ二 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ前條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十一條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第四章 編制

第十二條 樺太廳高等女學校ノ生徒定員左ノ如シ

一 樺太廳豊原高等女學校 八百人

二 樺太廳大泊高等女學校 五百五十人

三 樺太廳眞岡高等女學校 四百人

四 樺太廳泊居高等女學校 二百人

第十三條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スルモノトス

一 學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第十四條 修身、音楽、體操及隨意科目ニ關シテハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第五章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第十五條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得最高學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除ク外新ニ生徒ノ入學ヲ許サス

第十六條 學校長生徒募集ヲ爲サムトスルトキハ募集人員、募集期限其ノ他必要ナル事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十二年以上ニシテ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ檢定ニ合格シタル者トス

補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者トス但シ高等女學校ヲ卒業セサル者ニ對シテハ高等女學校卒業ノ程度ヲ以テ檢定ニ依リ入學セシム

第十八條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定ス

- 第十八條 本校生徒ニシテ退學シタル者退學ノトキヨリ一年內ニ於テ本校ニ入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得
- 第十九條 他ノ女學校ヨリ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ缺員アル場合ニ限リ同一學年ニ編入スルコトヲ得
- 第二十條 他ノ女學校ニ轉學ヲ願出タル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ承認ヲ與ヘ其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ヘ送付スヘシ
- 第二十一條 各學年ノ課程ヲ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定ム
- 第二十二條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル者ノ學年ヲ進ムルコトヲ得
- 第二十三條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ全學科目ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ
- 補習科ノ全學科ヲ修了セリト認メタル者ニハ終了證書ヲ授與スヘシ
- 第二十四條 休學ヲ願出タル者アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル者ニ限リ休學期間一年內ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第二十五條 休學日數ハ總テ之ヲ缺席日數ニ通算セサルモノトス
- 第二十六條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ退學ヲ命スヘシ
 - 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
 - 三 引續キ一年以上缺席シタル者
 - 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一年以上缺席シタル者

- 五 出席常ナラサル者
- 第二十七條 生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
- 懲戒ハ誹責、停學、退學ノ三種トス
- 第六章 授業料
- 第二十九條 授業料ハ月額金二圓五十錢トス
- 第三十條 授業料ハ毎月二十五日迄ニ之ヲ徵收ス但シ納付期限後ニ至リ出席又ハ入學シタル場合ニハ其ノ當日之ヲ徵收ス
- 休學又ハ缺席全月ニ互ルトキ及全月休業ノ場合ハ其ノ月ノ授業料ハ之ヲ徵收セス但シ無固缺席ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十條ノ二 生徒授業料ノ納付ヲ怠リ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ未納中出席ヲ停止スルコトヲ得
- 第七章 待待生
- 第三十一條 本校生徒中學術品行共ニ優秀ニシテ他ノ生徒ノ模範タルヘキ者ヲ選ヒ之ヲ待待生ト爲スコトヲ得
- 第三十二條 待待生タルノ期間ハ一年トシ其ノ人員ハ八百人中ニ就キ五人以內トス
- 第三十三條 待待生ニシテ其ノ體面ヲ汚スト認メタル者アルトキハ學校長ハ其ノ待遇ヲ停止スルコトヲ得
- 第三十四條 待待生ハ授業料ヲ徵收セス
- 第三十五條 本章ノ規定ハ補習科生徒ニ之ヲ適用セス

〔樺法〕

附則

本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ樺太廳長官ノ認可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

十六條中文部大臣トアルハ樺太廳長官トス

〔樺法〕

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十五條ノ二及第十六條ノ規定ノ改正ニ關シテハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

●樺太公立高等女學校規程

大正十三年四月
廳令第十四號

改正 昭二年一月廳令三六號
樺太公立高等女學校規程

第一章 總則

- 第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ目的トシ特ニ國民道德養成ト婦徳ノ涵養トニ力メ兼テ拓殖ニ適應スル女子ノ育成ニ留意スヘキモノトス
- 第二條 高等女學校ニ就テハ高等女學校令第一條乃至第三條、第六條乃至第八條、第十三條、第十七條第二項及第十九條ノ規程ヲ除キ其ノ他ノ規程ニ依ル但同令第十條、第十條ノ五、第十條ノ六、第十二條及第

第二章 設立及廢止

- 第一 名稱 位置
- 第二 各學科ノ生徒定員 學級數
- 第三 學則
- 第四 授業料額及入學受験料並寄宿舍費ヲ徵收スルトキハ其ノ額
- 五 開校年月日
- 六 校地校舍寄宿舍ノ平面圖及飲料水ノ定性分析表、校地ノ地番段別及附近ノ情況ヲ記載シ建物ハ新築増築又ハ改築ノ場合ハ設計圖及設計仕様書ヲ添付スヘシ
- 七 一年ノ收支概算
- 八 維持ノ方法
- 前項第一號乃至第六號ニ付變更セムトスルトキハ設立者ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 - 一 學科、修業年限、學科課程及教授時數ニ關スル事項
 - 二 學期休業日ニ關スル事項
 - 三 入退學生徒懲戒ニ關スル事項
 - 四 卒業修業認定ニ關スル事項

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 五 授業料及入學受驗料ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 七 前各號ノ外學校ニ於テ必要ト認ムル事項
- 第六條 高等女學校ヲ廢止セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 廢止ノ事由
 - 二 生徒ノ處分
 - 三 廢止期日
- 第三章 學科目及其ノ程度教科書
- 第七條 學科目ハ高等女學校令施行規則第一條ニ實科高等女學校ノ學科目ハ同第十七條ニ準據ス
- 第八條 前條各學科目ノ教授ノ要旨及程度並教授時數ハ高等女學校令施行規則ニ準據スヘシ
- 第九條 高等科專攻科ノ學科目並其ノ程度ハ設立者ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ
- 第十條 補習科ニ關シテハ高等女學校令施行規則第二十一條ニ依ル但シ學科目ハ第七條ニ規定シタル學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ
- 第十一條 教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四章 學年、授業日數及式日
- 第十二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル學年ヲ分テ左ノ三學期トス

- 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ
- 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ
- 第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ
- 第十三條 毎日ノ教授終始ノ時限ハ學校長之ヲ定ム
- 第十四條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 傳染病豫防ノ爲ニ必要ナルトキ其ノ他非常變災ノ場合ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲナスコトヲ得但シ認可ヲ受ケタル限ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運備ナク之ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第十六條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集シ拜賀ノ式ヲ行フヘシ
- 第五章 編制
- 第十七條 高等女學校ノ生徒數ハ八百人以内トス但シ特別ノ事情アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ増スコトヲ得
- 高等科ノ生徒數ハ百二十人以下トス
- 高等科專攻科及補習科ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス
- 第十八條 學級ハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ但シ實科ニアリテハ此ノ限リニ在ラス
- 一學級ノ生徒數ハ五十人以内トス但シ高等科及專攻科ニ在リテハ四十人以内トス
- 第十九條 音楽、體操、家事裁縫、隨意科目及選擇科目ハ教授上支障ナ

〔樺法〕

キ場合ニ限リ學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之レヲ教授スルコトヲ得

第六章 設備

- 第二十條 高等女學校ニ於テ其ノ規模ニ適應スル校地校舍、體操場、校具、寄宿舎及職員宿舍ヲ備フヘシ農業ヲ授クル學校ニ在リテハ實習地ヲ備フヘシ
- 第二十一條 校地ハ衛生ニ適シ道徳上及教授上ニ害ナク且危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス
- 第二十二條 校舍ハ教授上管理上並衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラムコトヲ要ス
- 第二十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿トス
- 第二十四條 高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ
 - 一 學則日課表教科書配當表及學校醫視察簿
 - 二 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並擔任學科目及時間表
 - 三 生徒ノ學籍簿、出席簿及身體檢査ニ關スル表
 - 四 試驗ノ問題、答案及成績表
 - 五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄
 - 六 往復書類
- 前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十ヶ年以上其ノ他ノ表簿ハ五ヶ年以上之ヲ保存スヘシ
- 第七章 入學、休學、退學及懲戒
- 第二十五條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 但シ職員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得
- 第二十六條 年齡十二年以上ニシテ國語算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ高等女學校ニ於テ行フ試驗ニ合格シタル者ハ第一學年ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
- 第二十七條 高等小學校第一學年修了以上ノ程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル高等女學校ノ入學ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス、但シ實科ニ在リテハ前條ノ試驗學科目ノ外裁縫ヲ加フ
- 第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限三ヶ年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限四ヶ年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
 - 一 修業年限五ヶ年ノ高等女學校第四學年ヲ修了シタル者及修業年限三ヶ年ノ高等女學校第二學年ヲ修了シタル者
 - 二 專門學校入學者檢定規定明治三十六年文部省令第十四號又ハ大正十年五月廳令第二十二號ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
 - 三 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限二ヶ年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限五ヶ年又ハ三ヶ年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
 - 一 修業年限三ヶ年ノ高等科第一學年ヲ修了シタル者
 - 二 高等女學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

- 三 文部大臣ニ於テ指定シタル者
- 前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ大正十年四月八日文部省令第二十四號
高等女學校高等科入學資格試驗規程ヲ適用ス
- 第三十條 專攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
タル可シ
- 第三十一條 第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ相當
ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
- 前項ノ學力ハ試験ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ
- 第三十二條 高等女學校生徒ニシテ退學シタル者一ケ年以内ニ其ノ高等
女學校若ハ他ノ高等女學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ試験ニ依ラズ原
學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得
- 第三十三條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志願スル生徒アルトキハ學校長ハ
正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書成績表及
其ノ學校ノ學科課程表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ
- 移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコ
トヲ得
- 轉學スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得但シ學
科課程ニ差異アルトキハ其學科目ニ就キ試験ヲ行フヘシ
- 第三十四條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業ヲ考
査シテ之ヲ定メ又ハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ
- 第三十五條 補習科ニ入學スルコトヲ得ルモノハ高等女學校ヲ卒業シタ
ル者タルヘシ
- 但シ補習科ノ學科目ニ付既修ノ課程ニ差異アルトキハ試験ヲ行フコト

〔轉法〕

樺太公立高等女學校職員定員規程

大正十三年四月六日
廳令第十三號

- 樺太公立高等女學校職員定員規程
- 第一條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ
五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増加ス但
シ高等科ニ在リテハ一學級毎ニ二人以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又他ノ職ヨリ兼ネ
サルコトヲ要ス
- 書記ノ定員ハ專任一人トス
- 第二條 特別ノ事情アルトキハ支廳長ノ申請ニ依リ前條ノ規程ニ拘ラス
定員ヲ増減スルコトアルヘシ

附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程

大正十五年十月十六日
文部省令第三十二號

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學
第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

ヲ得

- 第三十六條 實科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ學修セムトスル者ハ選
科生トシテ入學セシムルコトヲ得
- 第三十七條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコ
トヲ得ス
- 第三十八條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリ
ト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ
- 第三十九條 學校長ハ生徒疾病三月以上ニ互ルトキハ一年內休學ヲ許ス
コトヲ得
- 第四十條 學校長ハ生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命
スヘシ
- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサルモノ
- 第四十一條 學校長教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコ
トヲ得

附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔轉法〕

ニ關スル規程左ノ通定ム

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業生ノ他ノ學校へ
入學轉學ニ關スル規程

- 第一條 樺太廳ノ設置セル中學校ノ生徒並卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學
ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業生ト同一
ノ取扱ヲ受ク
- 第二條 樺太廳ノ設置セル高等女學校及樺太公立高等女學校規程ニ依リ
設置シタル高等女學校ノ生徒並卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ
就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒並卒業生ト同一
ノ取扱ヲ受ク
- 附則
- 第三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第四條 大正十三年十月三日 文部省令第三十一號大正八年六月五日 文部省令第二
十二號及大正十三年十一月二日 文部省令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

樺太廳中學校並高等女學校規程 則中改正ニ伴フ注意要項

昭和二年十二月七日
訓令第五百三號

今般樺太廳令第三十八號及第三十九號ヲ以テ樺太廳中學校並高等女學校
內務部 支廳 支廳出張所 中學校
高等女學校 小學校

規則中ニ改正ヲ加ヘタリ左ニ其ノ要旨ヲ學ケ且實施上注意スヘキ事項ノ大要ヲ示サン現行制度ニ於テ中學校並高等女學校第一學年入學志願者ノ數入學セシムヘキ人員ヲ超過スル場合ニハ試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘキコトヲ規定シ多年ノ間入學者選抜試驗ヲ實施シ來リタレトモ之ニ伴フ弊害少カラス

抑々小學校教育ハ兒童ニ對シ道德教育及國民教育ノ基礎ヲ授クルト共ニ其ノ身體ノ發達ニ深ク留意スヘキハ多言ヲ要セス然ルニ其ノ卒業後中等學校ニ入學セントスル者ヲ觀ルニ小學校在學中ヨリヒタスラ之カ準備ニ役頭シ知ラス識ラズノ間ニ其ノ心身ノ發達ニ惡影響ヲ及ホスハ國民ノ將來ニ對シ洵ニ寒心ニ勝ヘサルナリ加之コレカ爲ニ國民教育ノ精神ニ背戾シ小學校教育ノ本旨ヲ没却スルニ至リテハ最モ深ク憂フヘキ所ナリ入學試驗實施ニ伴フ弊害前述ノ如シトセハ其ノ制度ニ對シ改正ヲ加フルハ刻下ノ急務ナリトス

今回ノ改正ハ中等學校ノ入學者ヲ選抜スルニ從來ノ如キ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ以テ本體トシ中學校規則第十六條中第三項ヲ高等女學校規則第十六條中第二項ヲ削除セリ而シテ之カ選抜ニ當リテハ出身小學校ニ於ケル成績等ニ據リ更ニ人物考查並身體検査ヲ用ヒテ入學者ヲ決定スヘキモノトセリ尙ホ之カ實施ノ細目ニ至リテハ別ニ示ス所アルヘク各學校ニ於テハ之ニ基キ實施上遺憾ナキヲ期セラルヘシ尤モ其ノ示ス所ハ選抜方法ニ關スル準則ニシテ各學校ノ情況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニ於テハ改正ノ本旨ニ反セサル限り事情ヲ斟酌シ適當ナル選抜方法ヲ探ルヲ妨ケサルモノトス又中等學校ニ於ケル教育ノ旨趣ヲ貫徹セシメントスルニハ生徒ヲシテ一

意専心所定ノ課程ヲ學習セシメサルヘカラサルニモ拘ラス從來學期及學年ノ試驗ヲ實施スルカ爲ニ動モスレハ生徒ヲシテ一ニ試驗ノ爲ニ勉學セシムルカ如キ弊モ少シトセス依テ自今生徒ノ成績ハ平素ノ修學ニ重キヲ置キテ之ヲ考查シ又之ニ依リテ修了若ハ卒業ヲ定メ一層自學自習ノ氣風ヲ養成セシムル旨趣ヲ以テ中學校並高等女學校規則第二十一條ヲ改正セリ

● 樺太公立實業補習學校規程

昭和四年四月五日
廳令第七號

改正 昭六年一月廳令四六號、八年五月九號
樺太公立實業補習學校規程左ノ通定ム

樺太公立實業補習學校規程

第一章 總則

第一條 實業補習學校ハ小學校ノ教科ヲ卒ヘ職業ニ從事スル者ニ對シ職業ニ關スル智識技能ヲ授クルト共ニ國民生活ニ必要ナル教育ヲ爲シ兼テ拓殖ニ適應セシムルヲ以テ本旨トス

第二條 實業補習學校ノ修業年限ハ二ケ年トス

〔樺法〕

第三條 實業補習學校ノ種類ハ農業、工業、商業及水産業其他ノ職業ニ就キ土地ノ情況ニ應ジ適切ナルモノヲ選フヘシ必要アルトキハ他ノ學科ヲ設ケ又ハ其ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章 設置及廢止

第四條 町村ハ實業補習學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 實業補習學校ヲ設置セムトスルトキハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 學校ノ名稱(實業ノ種類ヲ現ハスヘシ)

二 位置

三 郡町村大字字地番ヲ記スヘシ但シ小學校ニ併置スル場合ハ其ノ校名ヲ記スヘシ

四 學級數

五 授業開始期日

六 校地、校舍、寄宿舎ノ平面圖及飲料水ノ定性分析表、校地ニ付テハ地番段別及附近ノ情況ヲ記載シ建物ハ新築、増築又ハ改築ノ場合ハ設計圖及設計仕様書ヲ添附スヘシ

七 實習地又ハ實習場ニ關スル事項

八 一年ノ收支概算

前項第一號乃至第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ設立者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 實業補習學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

〔樺法〕

一 學校ノ目的

二 修業年限、學科、學科課程及教授時數

三 教授ノ時刻及學期ニ關スル事項

四 休業日ニ關スル事項

五 科程ノ修了及卒業ニ關スル事項

六 入學、退學及賞罰ニ關スル事項

七 授業料ニ關スル事項

八 寄宿舎ニ關スル事項

第七條 實業補習學校ヲ廢止セムトスルトキハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 事由

二 廢止期日

三 生徒ノ處分方法

第八條 實業補習學校ハ小學校ニ併置スルコトヲ得

第九條 實業補習學校ノ學科目ハ修身、國語、數學、理科及職業ニ關スル學科目トス但シ理科ハ之ヲ缺クコトヲ得

女子ニ付テハ修身、國語、數學、家事、裁縫及職業ニ關スル學科目トス但シ國語又ハ家事ハ之ヲ缺クコトヲ得

前二項ノ學科目ノ外必要ニ應ジ歴史、地理、體操、法制經濟、簿記、外國語其他ノ學科目中ヨリ適宜選擇シテ之ヲ加設スルコトヲ得

第十條 數學年ノ生徒ヲ一學級ニ編成スルトキハ或學科目ニ限リ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ生徒ヲ同一程度ニ依リ教授スルコトヲ

得

- 第十一條 一學科目又ハ其ノ一部ヲ他ノ學科目又ハ其ノ一部ニ併セテ之ヲ一學科目ト爲スコトヲ得
- 第十二條 第九條ノ加設科目及職業ニ關スル科目中ノ或事項ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得
- 第十三條 教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ學校長ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ一時之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十四條 實業補習學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十五條 實業補習學校ニ於テハ土地ノ情況並職業ノ種類及繁閑等ニ依リ生徒ノ修業ニ最便宜ナル季節及時刻ヲ選ヒテ教授ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 實業補習學校ノ休業日ハ左ノ如シ
 - 一 祝日、祭日及日曜日
 - 一 樺太神社例祭日、始政記念日
 - 一 設立者ニ於テ定ムル休業日
- 第十七條 前條ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ非常變災其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク之ヲ樺太廳長官ニ届出ツヘシ
- 第十八條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集

シ拜賀ノ式ヲ行フヘシ

- 第十九條 一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス
- 第二十條 共通ノ學科目ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
- 第二十一條 (削除)
- 第二十二條 實業補習學校ノ教員數ハ一學級ニ付一名ヲ置クヘシ
- 第二十三條 實業補習學校ノ校長ノ職務ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム
- 第二十四條 實業補習學校ニ於テハ校地、校舍、校具及職員宿舍ヲ備フヘシ
- 第二十五條 實業補習學校ニハ學籍簿、出席簿其ノ他必要ナル諸簿ヲ備フヘシ
- 第二十六條 實業補習學校ニ入學スルコトヲ得ル者ノ資格ハ高等小學校卒業程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十七條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若クハ其ノ虞アル生徒又ハ性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨アリト認メタル生徒ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

〔樺法〕

〔樺法〕

- 第二十八條 學校長ハ生徒疾病三ヶ月以上ニ互ルトキハ一年以内休學ヲ許スコトヲ得
 - 第二十九條 學校長ハ生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ退學ヲ命スルコトヲ得
 - 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者
 - 第三十條 生徒卒業ノ後當該學校ニ於テ特ニ既修ノ事項ヲ履修セムトスルトキハ學校長ハ練習生トシテ在學セシムルコトヲ得
 - 第三十一條 實業補習學校ニ於テ授業料ヲ徵收スル時ハ一學年九圓以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 附則
本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●樺太廳拓殖學校規程

昭和九年五月十二日
廳令第九號

樺太廳拓殖學校規程

- 第一章 目的及修業年限
- 第一條 樺太廳拓殖學校ハ樺太ニ於ケル農業經營上必須ナル知識技能ヲ授クルト共ニ徳性ノ涵養ニ力メ確固タル信念ヲ有スル堅實ナル人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本校ニ第一部及第二部ヲ置ク
- 第十二類 學事 氣象 第一章 學事

- 第三條 修業年限ハ第一部二年第二部一年トス
- 第二章 學科課程及每週教授時數
- 第四條 學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル但シ學校長ハ季節ニ依リ一學年間ニ於ケル總教授時數第一部一千時第二部九百時ヲ下ラザル範圍ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

學科	第一部		第二部	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
學科	國語	算術、代數	國語	算術、代數
公民	二 國民道徳	二 國史	二 國史	二 國史
地理	四 地理	四 地理	四 地理	四 地理
歷史	四 算術、代數	四 算術、代數	四 算術、代數	四 算術、代數
理科	三 博物	三 物理、化學	三 物理、化學	三 物理、化學
農業	八 農業綱要	八 同	八 同	八 同
體操及武道	三 體操、武道	三 同	三 同	三 同
計	二 四	二 六	二 四	二 四
農業實習	不定時	不定時	不定時	不定時

前表ノ外第一節ニ在リテハ每週第一學年四時以內第二學年二時以內ニ於テ隨意科目トシテ英語ヲ課スルコトヲ得

第三章 學年、休業日及式日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 休業日左ノ如シ

- 一 大祭祝日及日曜日
- 二 官幣大社神太神例祭日

前項ノ外學校長ハ授業及實習上支障ナキ限り一箇年ヲ通ジ三十日以内ノ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第七條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第八條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フベシ

第四章 編制

第九條 生徒ノ定員ハ第一部六十人以下、第二部三十人以下トス

第十條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スルモノトス

一 學級ノ生徒數ハ第一部三十人以下、第二部三十人以下トス

第十一條 共通ノ學科目ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第五章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第十二條 生徒ヲ入學セシムベキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第十三條 學校長生徒募集ヲ爲サントスルトキハ募集人員、募集期限其ノ他必要ナル事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 第一部第一學年ニ入學ヲ許スベキ者ハ身體強健、志操堅實ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ入學檢定ニ合格シタル者トス

一 修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學

カヲ有スル者

二 修業年限二年ノ高等小學校卒業程度ニ於テ國語、算術、國史、地理及理科ニ就キ其ノ學力ヲ檢定シ之ニ合格シタル者

第十五條 第二部ニ入學ヲ許スベキ者ハ身體強健、志操堅實ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ入學檢定ニ合格シタル者

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校ヲ卒業シタル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

四 小學校教員ノ免許狀ヲ所持シ樺太ニ於テ一年以上小學校教育ニ從事シタル者ニシテ現ニ其ノ職ニ在リ所轄支廳長ノ推薦シタル者

第十六條 本校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一年以内ニ於テ本校ニ入學ヲ志願シタルトキハ學校長ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 各學年ノ課程ノ終了又ハ全學科目ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ終了セザル者ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ズ

第十九條 學校長ハ全學科目ヲ卒業セリト認メタル者ニ對シテハ卒業證書ヲ授與スベシ

第二十條 學校長ハ兵役ニ服スル生徒ニ對シテハ其ノ期間休學ヲ許可スベシ

第二十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ成業ノ見込ナシト認メタル

者ニハ退學ヲ命ズベシ

一、性行不良ナル者

二、成績劣等ナル者

三、身體薄弱ナル者

第二十二條 生徒退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ學校長ノ許可ヲ受クベシ

第二十三條 學校長ハ教育上必要ナリト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ハ誹責、放校ノ二種トス

第六節 寄宿舎

第二十四條 生徒ハ總テ之ヲ寄宿舎ニ收容ス

第七節 雜則

第二十五條 本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ樺太廳長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔轉法〕

〔轉法〕

● 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ト同一ノ效力ヲ有スル試驗檢定ニ關スル件

大正十五年一月二十七日

文部省令第五號

大正十年文部省令第二十六號左ノ通改正ス

朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ關東長官ノ定メタル專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依リ行フ試驗檢定ハ大正十三年文部省令第二十二號ニ依ル試驗檢定ト同一ノ效力ヲ有ス朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於ケル官立公立ノ中學校、高等普通學校、修業年限四年以上ノ高等女學校若ハ女子高等普通學校ニ於テ專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依リ行ヒタル試驗檢定ニ付亦同シ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 專門學校入學者檢定ニ關スル規程

大正十四年七月二十二日

附則第二十八號

專門學校入學者檢定ニ關スル規程左ノ通改正ス

專門學校入學者檢定ニ關スル規程

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セムトスル者ニシテ中學校若ハ修業年限

四年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ本令ニ依リ學力ノ檢定ヲ受ク
ヘシ

第二條 檢定ハ試験ニ依リ之ヲ行フ

試験檢定ノ出願期限、試験ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ告示ス

第三條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四年ノ高等
女學校ノ各學科目及其ノ卒業程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於
テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第四條 試験檢定ヲ受ケムトスルモノハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書
類ヲ添ヘ樺太廳長官ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)

二 戸籍抄本

三 寫眞 手札形トシテ出願前三月以内ニ脱帽ニテ撮影シタル
モノニシテ裏面ニ撮影年月日本籍氏名ヲ記載スヘシ

四 第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ大正七年文部省令第三號第六
條第二項ニ依ル證明書ノ寫

五 第七條ノ資格ヲ證明スル書面

第五條 試験檢定ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ金七圓ヲ納付スヘシ

第六條 試験檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ交付ス

試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受験學科目中合格點ヲ
得タルモノアルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付ス

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試験檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科
目ノ試験ヲ免除ス

前項ノ規定ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有
スル者ニ付之ヲ準用ス

第七條 試験檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ニ就キ中學校若ハ修業年
限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認ムル者
ニ對シテハ當該學科ノ試験ヲ免除ス

第八條 合格證書ヲ有スル者其ノ氏名本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失
毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得
前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金
一圓ヲ納付スヘシ

第九條 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ停止ス
試験後發覺シタルトキハ合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付
スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙半紙)

受験願書

本籍

現住所

收入
印紙

外國語ノ種類

免除學科目

私儀專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験相受度書類ヲ具シ此段相願候
也

〔補法〕

年月日

右

氏

名印

樺太廳長官宛

(記載注意)

一 外國語受験ノ場合ハ其ノ種類(英語獨語又ハ佛語)ヲ明記スヘシ

二 免除學科目アル場合ハ其ノ學科目名ヲ記載スヘシ

三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スヘシ

第二號書式(用紙半紙)

履歷書

本籍

氏

名

年月日生

學業

一年月 何學校何科何學年ニ入學年月卒業(目下在學中)

一年月 何年度施行專門學校入學者試験檢定ニ於テ何學科目證明書受
領

一年月 何政員免許狀受領

業務

一年月 何官職拜命若ハ何業ニ従事年月何事由ニ依リ退官職若ハ廢業

賞罰

一年月 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク身上ニ關スル事項

一年月 何事由ニ依リ何ト改氏名等

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

樺太 廳印

〔補法〕

(記載注意)

一 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ

二 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ

三 身上ニ關スル事項ハ本籍氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

大正 年 第 號

合格證書

本籍

氏

名

年月日生

右ハ專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

年月日

樺太 廳印

氏

名

年月日生

本籍

氏

名

年月日生

右ハ專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定ニ於テ左記學科目ニ就キ
合格點ヲ得タルコトヲ證明ス

年月日

樺太 廳印

一一三

試驗檢定施行年月 合格點ヲ得タル學科目

●專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依ル免除學科目

大正十四年七月二十二日
告示第百二十五號

專門學校入學者檢定ニ關スル規程第七條ニ依リ左記學科目ノ試驗ヲ免除ス

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 資格 | 試驗免除學科目 |
| 高等試驗令第七條ノ試驗合格者 | 國語 漢文 歷史 地理 數學 博物 |
| 中學校第四學年修了者及高等學校高等科入學資格試驗合格者 | 博物 |
| 教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀所有者 | 教員免許狀ニ記載シタル學科目 |
| 男子ニシテ小學校本科正教員免許狀所有者 | 英語ヲ除クノ外ノ學科目 |
| 小學校專科正教員免許狀所有者 | 免許狀ニ記載シタル學科目 |

●樺太青年訓練所規程

大正十五年六月十一日
廳令第十七號

改正 昭三年二月廳令四二號、五年二月四一號

樺太青年訓練所規程左ノ通定ム

樺太青年訓練所規程

- 第一條 町村ハ青年ノ心身ヲ鍛練シテ國民タルノ資實ヲ向上セシムルヲ以テ目的トスル青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 町村ハ工場、鑛山、商店等ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ヲ多數ニ使備スル場合ニ限り前項ノ目的ヲ有スル青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 青年訓練所ノ訓練期間ハ四年トス
- 第四條 青年訓練所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ其ノ年三月三十一日ニ於テ十六歳以上十七歳未満ノ男子トス但シ特別ノ事情アル者ハ十七歳以上ニシテ入所スルコトヲ得
- 第五條 青年訓練所ノ入所期ハ毎年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入所セシムルコトヲ得
- 第六條 青年訓練所ノ訓練項目ハ修身及公民科、教練、普通學科、職業科トス
- 第七條 青年訓練所ノ訓練項目中普通學科並職業科ノ科目及其ノ程度ハ高等小學校卒業ノ程度ヲ基準トシ地方ノ情況ニ應シ實際生活ニ適切ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ授クルモノトス
- 第八條 青年訓練所ノ訓練時數ハ四年ヲ通シテ修身及公民科百時、教練

〔樺法〕

〔樺法〕

- 第九條 現ニ學校ニ在學スル者若ハ相當ノ學力アリト認めラレタル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ一部ノ訓練項目ヲ課セサルコトヲ得
- 第十條 現ニ學校ニ在學シ樺太廳長官ニ於テ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認めル課程ヲ修ムル者ハ之ヲ青年訓練所ノ訓練ヲ受クル者ト看做ス
- 第十一條 公立青年訓練所ハ當該町村ノ區域内ニ居住スルモノヲ入所セシムルヲ常例トス
- 第十二條 公立青年訓練所ハ小學校ニ併置スルヲ常例トス
- 第十三條 青年訓練所ノ訓練ハ土地ノ情況ニ應シ適當ナル季節ヲ選ヒテ之ヲ行フコトヲ得
- 第十四條 青年訓練所ヲ設置セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ公立青年訓練所ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立青年訓練所ニ在リテハ其ノ設立者ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十五條 一名 稱
- 第十六條 二位 置
- 第十七條 三 規則
- 第十八條 四 青年訓練ヲ受クル者ノ概數
- 第十九條 五 開設年月日
- 第二十條 六 經費及維持ノ方法
- 第二十一條 前項第一號乃至第三號及設立者ノ變更ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十二條 青年訓練所ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

●青年訓練所訓練要旨

大正十五年六月二十三日
訓令第六十號

內務部 支廳 支廳出張所

青年訓練所訓練要旨左ノ通定ム本要旨ニ依據シ青年訓練所ヲシテ更ニ適切ナル課程ヲ作り以テ訓練ノ實績ヲ收メシムムコトヲ期セラルヘシ

青年訓練所訓練要旨

修身及公民科ハ教育ニ關スル勸語ノ趣旨ニ基キテ道德上ノ思想及情操ヲ涵養シ時代ノ趨勢ニ鑑ミテ國民生活ニ必須ナル心得ヲ授ケ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身及公民科ハ特ニ國家的觀念及立憲ノ本義ヲ明瞭ナラシメ公民トシテノ責務ヲ完カラシムルニ必要ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

- 注意
- 一 修身及公民科ヲ授クル際ニハ青年ノ年輪境遇ニ適應セシメ特ニ實際生活ニ適切ナル事例ヲ引用スヘシ
 - 一 忠良賢哲ノ記念日、國民ノ記念スヘキ日及教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル場合等ニ於テハ之ニ因ミテ適宜教訓スヘシ
 - 一 授業ノ際ニ時事ヲ批議スル等ノコトナカルヘシ

教練ハ心身ヲ鍛練シ堅忍剛毅ノ精神ト規律ヲ重シ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

教練ニ於テハ凡ソ左ノ事項ヲ授クヘシ

各個教練 部隊教練 陣中勤務 旗信號 距離測量 軍事講話等

注意 教練ヲ授クル際ニハ適宜體操ヲ課シ尙競技ヲ加フルコトヲ得

普通學科

普通學科ハ日常必須ノ智能ヲ増進セシムルヲ以テ要旨トス
普通學科ハ國語、數學、歷史、地理、理科等ニ關スル事項ニ就キ適宜之ヲ授クヘシ

- 注意
- 一 國語、數學、理科等ニ關スル事項ハ職業ニ適切ナルモノニ留意シテ之ヲ授クヘシ
 - 一 歷史及地理ハ特ニ修身及公民科トノ聯絡ヲ保チ我カ國體及國勢ヲ知ラシメ國民精神ヲ涵養スルニ必要ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

職業科

職業科ハ職業ニ關スル智能ヲ授ケ兼テ職業ニ對スル趣味ト勤勞ヲ重ニスル習性トヲ養フヲ以テ要旨トス

職業科ハ農業、工業、商業等ノ中ニ就キ土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授クヘシ

注意 職業科ニ於テハ能率増進ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

〔轉法〕

一 職業科ニ於テハ成ルヘク實習ヲ指導シ且見學等ヲ爲サシムヘシ

●樺太公立青年訓練所學科視閱規程

改正 昭五年七月訓令二八二號

內務部 支廳 支廳出張所 町村 青年訓練所

樺太公立青年訓練所學科視閱規程左ノ通定ム

樺太公立青年訓練所學科視閱規程

- 第一條 青年訓練所設置ノ目的ヲ遂行シ之ガ振興ヲ圖ランカ爲本規程ニ依リ青年訓練所ニ於ケル學科ノ視閱ヲ行フ
- 第二條 青年訓練所ニ於ケル學科ノ視閱ハ樺太廳長官ノ命シタル官吏ニ當リ各青年訓練所ニ付毎年一回之ヲ行フ
- 前項ノ官吏ヲ學科視閱官ト稱ス
- 第三條 視閱ノ場所、視閱ノ日割及學科視閱官ノ氏名ハ視閱ノ日ヨリ二十日前ニ關係各支廳長ニ通達ス
- 第四條 學科ノ視閱ニ際シ青年訓練所主事ハ受閱者ノ年次、氏名及年齢ヲ調査トシテ學科視閱官ニ提出スベシ
- 第五條 視閱ハ左ノ要項ニ從ヒ之ヲ行フ
 - 一 訓練ノ趣旨徹底並生徒各自ノ修養狀況
 - 二 生徒ノ入所及出缺席狀況
 - 三 學科試問

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

〔轉法〕

四 所務 五 其他必要ト認ムル事項

第六條 青年訓練所主事ハ視閱前豫メ生徒ノ行狀ニ關シ特ニ實詞、訓戒ヲ與フヘキ者アルトキハ其ノ他參考トナルヘキ事項ト共ニ之ヲ學科視閱官ニ具申スヘシ

第七條 學科視閱官ハ視閱ニ當リ所要ノ教訓ヲ與ヘ生徒平素ノ行狀ヲ考察シ實詞、訓戒及表彰手續ヲ爲スコトヲ得

第八條 學科視閱官學科ノ視閱ヲ了シタルトキハ當該青年訓練所ノ管理者及主事立會ノ上學科指導員ニ對シ所見ヲ開示スヘシ

第九條 學科視閱官學科ノ視閱ヲ了シタルトキハ第五條ノ要項ニ就キ其ノ概況及將來ニ關スル意見ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●視學官及視學學事視察規程

昭和六年十二月十七日
訓令第三百號

內務部 支廳 支廳出張所 町村役場 幼稚園 學校 青年訓練所

改正 昭七年五月訓令二一八號

視學官及視學學事視察規程左ノ通定ム

視學官及視學學事視察規程

第一條 視學官及視學ハ別段ノ規程アルモノノ外本令ニ依リ支廳、支廳

出張所、町村役場、幼稚園、學校及青年訓練所ノ學事ヲ觀察スヘシ

第二條 支廳ノ學事觀察要項左ノ如シ

- 一 學事監督ノ情況
 - 二 就學出席督勵ノ情況
 - 三 教職員ノ身分進退取扱ノ情況
 - 四 教育費ノ情況
 - 五 教育事務ノ情況
 - 六 社會教育施設ノ情況
 - 七 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 前項ノ規定ハ支廳出張所ノ學事觀察ニ付之ヲ準用ス
- 第三條 町村役場ノ學事觀察要項左ノ如シ
- 一 就學出席督勵ノ情況
 - 二 教育費ノ情況
 - 三 教育事務ノ情況
 - 四 學事關係者勤務ノ情況
 - 五 社會教育施設ノ情況
 - 六 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 第四條 幼稚園ノ學事觀察要項左ノ如シ
- 一 設備及衛生ノ情況
 - 二 保育ニ關スル情況
 - 三 保育事務ノ情況
 - 四 職員服務ノ情況
 - 五 其ノ他保育上ノ施設ニ關スル情況

第五條 小學校ノ學事觀察要項左ノ如シ

- 一 御影、勅語謄本、戊申詔書寫本及精神作興詔書寫本等奉安ノ情況
 - 二 設備及衛生ノ情況
 - 三 訓練ニ關スル情況
 - 四 教授ニ關スル情況
 - 五 兒童學業成績
 - 六 教育事務ノ情況
 - 七 職員服務ノ情況
 - 八 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 第六條 中學校及高等女學校ノ學事觀察要項左ノ如シ
- 一 御影、勅語謄本、戊申詔書寫本及精神作興詔書寫本等奉安ノ情況
 - 二 設備及衛生ノ情況
 - 三 訓練ニ關スル情況
 - 四 教授ニ關スル情況
 - 五 生徒學業成績
 - 六 教育事務ノ情況
 - 七 職員服務ノ情況
 - 八 豫算經理ノ情況
 - 九 寄宿舎ニ關スル情況
 - 十 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 前項ノ規定ハ中學校高等女學校若ハ實業學校ニ類スル各種學校及實業補習學校ノ學事觀察ニ付之ヲ準用ス
- 第七條 青年訓練所ノ學事觀察要項左ノ如シ

〔辦法〕

〔辦法〕

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
視學學事觀察規程ハ之ヲ廢止ス

●農業部落教育費補助規程

昭和七年八月二十八日
總令第二十三號

農業部落教育費補助規程左ノ通定ム

第一條 農業部落ニ於ケル公立尋常小學校ノ教育費ニ對シ拓殖上必要アリト認ムルトキハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ本令ニ依リ補助金ヲ交付ス

- 第二條 前條ノ規定ニ依ル補助金ハ左ノ二種トス
 - 一 建築費補助金
 - 二 教育經常費補助金
 - 第三條 建築費補助金ハ校舍及教員住宅ノ新築、増築若ハ改築費ニ對シ之ヲ交付ス
 - 第四條 教育經常費補助金ハ集團殖民地ニ付之ヲ交付ス
- 前項ノ金額ハ建築ニ要シタル費用ノ五割以内トス但シ集團殖民地ニ於ケル校舍及教員住宅ノ新築費ニ對シテハ此ノ制限ニ依ラサルコトアルヘシ
- 前二項ノ校舍建築費ニハ机、腰掛等ノ設備ノ費用ヲ包含ス
- 前項ノ金額ハ集團殖民地内ニ居住シ樺太町村制施行規則第六十五條ノ

出張所、町村役場、幼稚園、學校及青年訓練所ノ學事ヲ觀察スヘシ

第二條 支廳ノ學事觀察要項左ノ如シ

- 一 學事監督ノ情況
 - 二 就學出席督勵ノ情況
 - 三 教職員ノ身分進退取扱ノ情況
 - 四 教育費ノ情況
 - 五 教育事務ノ情況
 - 六 社會教育施設ノ情況
 - 七 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 前項ノ規定ハ支廳出張所ノ學事觀察ニ付之ヲ準用ス
- 第三條 町村役場ノ學事觀察要項左ノ如シ
- 一 就學出席督勵ノ情況
 - 二 教育費ノ情況
 - 三 教育事務ノ情況
 - 四 學事關係者勤務ノ情況
 - 五 社會教育施設ノ情況
 - 六 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 第四條 幼稚園ノ學事觀察要項左ノ如シ
- 一 設備及衛生ノ情況
 - 二 訓練ニ關スル情況
 - 三 生徒訓練成績
 - 四 訓練事務ノ情況
 - 五 職員服務ノ情況
 - 六 其ノ他訓練上ノ施設ニ關スル情況
- 第八條 視學官及視學ハ觀察中左ノ事項ニ就キ當事者ニ指示シ又ハ注意ヲ爲スコトヲ得
- 一 法令ニ抵觸シタル事項
 - 二 應議ノ決定ニ反シタル事項
 - 三 教授訓練及管理ニ關スル事項
 - 四 其ノ他特ニ指命ヲ受ケタル事項
- 第九條 視學官及視學ハ觀察中必要アリト認メタルトキハ日課ヲ變更シテ教授ヲ爲サシメ又ハ生徒兒童ノ學力ヲ試驗スルコトヲ得
- 第十條 視學官及視學ハ觀察中當事者ニ推問シ又ハ教育上ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
- 第十一條 觀察中緊急處理ヲ要スト認メタル事項アルトキハ視學官及樺太廳在勤ノ視學ハ長官ニ、支廳在勤ノ視學ハ支廳長ニ、支廳出張所在勤ノ視學ハ支廳出張所長ニ直ニ其ノ旨具申スヘシ
- 第十二條 第二條ノ規定ハ支廳及支廳出張所在勤ノ視學ニ、第六條第一項ノ規定ハ視學ニ之ヲ適用セス
- 第十三條 本令ハ特命ニ依リ學事ヲ觀察スル官吏ニ之ヲ準用ス

附則

二ノ規定ニ依リ戸別割ヲ賦課セラレサル者ノ子弟タル就學兒童一人ニ付十圓以内トス

第五條 町村ニ於テ建築費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ第一號書式ノ申請書ニ第二號書式ノ調査書ヲ添ヘ、教育經常費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ第三號書式ノ申請書ニ第四號書式ノ調査書ヲ添ヘ詳細理由ヲ具シ毎年四月末日迄ニ樺太廳長官ニ提出スヘシ
已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テハ前項ノ期限ヲ經過シタルモノト雖補助スルコトアルヘシ

第六條 樺太廳長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ申請者ニ對シ前條ニ規定スルモノノ外書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 町村ハ建築費ニ對スル補助ノ許可指令ヲ受ケタルトキハ二箇月以内ニ工事ニ著手シ其ノ旨樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第八條 町村ハ校舍若ハ教員住宅ノ建築工事竣功シタルトキハ其ノ旨届出テ樺太廳長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 町村ニシテ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ建築費ニ對シテハ第五號書式ノ請求書ニ工事決算内課書、工事仕様書、請負契約書寫、建物平面圖及補助許可指令謄本ヲ添ヘ、教育經常費ニ對シテハ第六號書式ノ請求書ニ補助許可指令謄本ヲ添ヘ當該年度二月末日迄ニ各正副二通ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第十條 補助ノ許可ヲ受ケタル町村ニシテ本令若ハ指令條件ニ違反シタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ補助金ヲ減額スルコトアルヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條ノ願書提出期限ハ昭和七年度ニ限り九月末日迄トシ既ニ提出セル申請書ハ本令ニ依リ申請セルモノト看做ス

第一號書式 校舍建築費補助申請書
一 金 圓也
但シ昭和 年 月 日 號指令何小學校(新築)費ニ對スル補助金(改築)
右補助ノ義御詮議相成度別紙調査書相添ヘ此段及申請候也
年 月 日 何那何町村長 氏 名 園

樺太廳長官 殿
第二號書式 調査書
一 校舍建築工事設計及仕様書
一 校舍建築工事設計圖
一 建築費豫算書
一 町村豫算書
一 起工竣功ノ見込時期
一 通學區域内大字別現住戸口及職業別戸數

第三號書式 教育經常費補助申請書
一 金 圓也
但シ昭和 年 月 日 號指令教育經常費補助金
右補助金御交付相成度別紙指令謄本相添ヘ此段及申請候也
年 月 日 何那何町村長 氏 名 園

右補助ノ義御詮議相成度別紙調査書相添ヘ此段及申請候也

年 月 日 何那何町村長 氏 名 園
樺太廳長官 殿
第四號書式 調査書
一 町村現住戸口及就學兒童數
二 集團殖民地現住戸口及就學兒童數
三 樺太町村制施行規則第六十五條ノ二ニ依リ戸別割ヲ賦課セラレサル者ノ數及其ノ子弟タル就學兒童數(保護者氏名、入地年月日、學校名)
四 町村豫算書

第五號書式 校舍建築費補助金請求書
一 金 圓也
但シ昭和 年 月 日 號指令何小學校(新築)費補助金(改築)
右補助金御交付相成度別紙關係書類相添ヘ此段及請求候也
年 月 日 何那何町村長 氏 名 園

樺太廳長官 殿
第六號書式 第十二類 學事 氣象 第一章 學事

教育經常費補助金請求書

一 金 圓也
但シ昭和 年 月 日 號指令教育經常費補助金
右補助金御交付相成度別紙指令謄本相添ヘ此段及申請候也
年 月 日 何那何町村長 氏 名 園

樺太廳長官 殿

●醫學研究員規程

昭和二年九月十四日 廳令第二十八號

醫學研究員規程左ノ通定ム

- 第一條 樺太廳長官ハ樺太廳醫院官制第二條ノ職員(書記ヲ除ク)ニシテ左ノ各號ニ該當スル資格者ニ就キ醫學研究員ヲ命シ醫學ヲ研究セシムルコトヲ得
- 一 引續キ三年以上又ハ醫務補託期間ヲ通シテ五年以上勤務スル者
- 二 身體強健、志操堅實ニシテ勤務ノ成績優良ナル者
- 第二條 醫學研究員ノ研究期間ハ一年ヲ超ヘサル期間ニ於テ樺太廳長官之ヲ定ム但シ特別ノ事由アル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ期間ハ研究地到着ノ日ヨリ之ヲ計算ス研究地ヲ變更シ又ハ研究地ニ以上アルトキハ最初ノ研究地ニ到着シタル日ヨリ之ヲ計算ス

第三條 醫學研究員ニ支給スヘキ旅費ハ最初ノ研究地迄及最終ノ研究地ヨリノ往復旅費ノミトシ滞在期間中ニ於ケル日當、宿泊料ハ之ヲ支給セス

第四條 醫學研究員ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ研究地及研究事項ヲ變更スルコトヲ得ス

第五條 醫學研究員ヲ命セラレタル者ハ七日内ニ樺太廳長官ニ別記様式ノ誓書ヲ提出シ且出發届ヲ提出スヘシ

第六條 醫學研究員ハ自己ノ便宜ニ依リ研究ヲ中止スルコトヲ得ス但シ疾病ニ罹リ研究ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 醫學研究員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ免スルコトアルヘシ

一 樺太廳長官ノ命令ニ違背シタルトキ
二 不都合ノ行爲アリタルトキ
三 研究遂行ノ見込ナキニ至リタルトキ

第八條 醫學研究員ハ歸國ノ日ヨリ其ノ研究期間ノ三倍ニ相當スル期間樺太廳長官ノ指定スル職務ニ従事スル義務アルモノトス但シ樺太廳長官ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認めタルトキハ其ノ義務ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 醫學研究員研究地ニ到着シタルトキ及研究地ヲ離ルルトキハ樺太廳長官ニ其ノ旨届出ツヘシ宿所ヲ定メタルトキ亦同シ

第十條 醫學研究員歸國シタルトキハ七日内ニ歸國届ヲ樺太廳長官ニ差出スヘシ

其ノ職ニ在ル者ニシテ小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
二 身體強健、志操確實ニシテ勤務ノ成績優良ナル者

第二條 醫學研究員ヲ派遣スヘキ學校研究科目及研究期間ハ其ノ都度之ヲ定ム但シ派遣スヘキ學校ハ之ヲ定メサルコトアルヘシ

第三條 醫學研究員タラムトスル者ハ所轄樺太廳支廳長ヲ經由シ第一號書式ノ受驗願書ヲ提出スヘシ但シ樺太廳在勤者ニ在リテハ所屬部長ヲ經由スヘシ

支廳長又ハ部長ニ於テ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ出願者ノ人物ヲ考査シ其ノ勤務成績優良ナリト認ムル者ニ限り其ノ願書ヲ進達スヘシ

第三條ノ二 醫學研究員ハ之ヲ分テ甲種乙種ノ二種トス
甲種 醫學研究員ト稱スルハ高等ノ程度ニ於テ學術技藝ヲ研究スル者ヲ謂ヒ乙種 醫學研究員ト稱スルハ教授ノ實際ニ適切ナル問題ヲ研究スル者ヲ謂フ

第四條 醫學研究員ハ試験ノ上之ヲ選抜ス但シ平素ノ成績ニ依リ試験ニ依ラスシテ選抜スルコトアルヘシ

試驗ハ之ヲ分テ豫備試験及本試験トス豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 豫備試験ハ受驗者本試験ヲ受クルニ相當ナル學識ヲ有スルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第六條 本試験ハ之ヲ分テ筆記(技能科ニアリテハ理論)及口述(技能科ニアリテハ實地)トス研究科目ニ關係アル問題ニ就キ其ノ學力ヲ考試スルモノトス

第七條 醫學研究員ハ自己ノ便宜ニ依リ研究ヲ中止スルコトヲ得ス但シ

出スヘシ
第十一條 醫學研究員ハ歸國後三月内ニ其ノ研究事項ニ關スル成績ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
様式(用紙美濃紙)

今般何地ニ於テ何年(何月)間醫學研究ヲ被命候ニ就テハ研究中並歸國後トモ御規則堅ク遵守可致候仍テ誓書差出候也

年 月 日
醫學研究員
樺太廳長官宛
官職 氏 名印

●學術研究員規程

大正九年十月十九日
廳令第三十九號

改正 大正十一年八月廳令六五號、一三年一〇月三六號

第一條 學術研究員ハ特ニ學術技藝ヲ研究セシムル爲左ノ資格ヲ具備スル者ニ就キ樺太廳長官之ヲ命ス
一 三年以上樺太廳管内ニ於テ小學校教育又ハ教育事務ニ従事シ現ニ

〔補法〕

〔補法〕

疾病ニ罹リ研究ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ
第八條 醫學研究員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 樺太廳長官ノ命令ニ違反シタルトキ
二 不都合ノ行爲アリタルトキ
三 成業ノ目途ナキニ至リタルトキ

第九條 醫學研究員ハ歸國ノ日ヨリ其ノ派遣期間ノ二倍ニ相當スル期間樺太廳長官ノ指定スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

第十條 醫學研究員ヲ命セラレタル者ハ七日以内ニ第二號書式ノ誓書ヲ差出シ且速ニ出發期日ヲ届出ツヘシ

第十一條 醫學研究員研究地ニ到着シタルトキ及研究期間満了シ研究地ヲ離ルルトキハ速ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十二條 醫學研究員ハ歸國後三月以内ニ其ノ研究事項ニ關スル研究成績ヲ報告スヘシ

第十三條 醫學研究員ハ研究地ニ於ケル宿所ヲ指定シテ届出ツヘシ
學術研究員他ノ事由ニ依リ旅行セムトスル時ハ旅行先及滞在期間ヲ届出テ常ニ其ノ所在地ヲ明ニスヘシ

第十四條 醫學研究員歸國シタルトキハ七日以内ニ歸國届ヲ差出スヘシ
第一號書式(用紙半紙) 願 書
甲種(又ハ乙種) 學術研究員志願ニ付御選抜相成度此段相願候也
年 月 日
長官宛
勤務學校(官衙)
官職 氏 名印

醫學依託生心得

- 第一條 依託生ハ素行ヲ慎ミ健康ニ注意シ専心學業ニ精勵スヘシ
- 第二條 依託生ハ身分其ノ他本籍、住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ速滞ナク樺太廳長官ニ届出ツヘシ但シ身分ニ異動ヲ生シタルトキハ戶籍謄本ヲ添付スヘシ依託生ハ保證人ノ本籍、住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ速滞ヲ以テ其ノ旨樺太廳長官ニ届出ツヘシ
- 第三條 依託生ハ一月以上私事旅行ヲ爲サントスルトキハ旅行先及事由ヲ具シ樺太廳長官ニ届出ツヘシ
- 第四條 依託生ハ疾病其ノ他ノ爲一月以上缺席又ハ休學シ若ハ停學處分ヲ受ケタルトキハ其ノ旨樺太廳長官ニ届出ツヘシ
- 第五條 依託生徵兵検査ヲ受ケタルトキハ其ノ結果ヲ速滞ナク樺太廳長官ニ届出ツヘシ

樺太廳中等學校教員依託養成規程

大正十年十月二日 廳令第三十八號

- 第一條 樺太廳中等學校教員依託養成規程
- 第二條 樺太廳中等學校教員養成ノ爲樺太廳長官ノ適當ト認ムル學校ニ依託學生ヲ置キ當該學校在學生中ヨリ之ヲ公募ス
- 第三條 依託學生ヲ置クハ其ノ程度之ヲ定ム
- 第四條 依託學生タルトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ戶籍謄本及履歴書ヲ添付シ當該學校長ヲ經テ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第五條 依託學生ハ其ノ志願者ニ就キ志操、學力、性及身體ヲ考査シ之ヲ選拔ス

- 第五條 樺太廳長官依託學生ヲ選拔シタルトキハ學校長ヲ經テ之ヲ本人ニ達シ且之ヲ公示ス
- 第六條 依託學生ハ保證人二人ヲ定メ連署ノ上第二號書式ノ誓約書ヲ差出スヘシ但シ本人未成年ナルトキハ法定代理人連署ヲ要ス
- 第七條 保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ相當財産ヲ有シ保證ノ責ニ任シ得ヘキ市町村長ノ證明アル者ナルコトヲ要ス
- 第八條 保證人死去シ若ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ之ヲ定メ連署ヲ以テ届出ツヘシ
- 第九條 依託學生ニハ左ノ學資及被服費ヲ給與ス
 - 一 學資 月額 三十五圓
 - 二 被服費 年額 百七十五圓以内
- 第十條 學資ハ毎月二十五日迄ニ其ノ月分ヲ給與ス
- 第十一條 被服費ハ毎學年ノ始ニ其ノ學年分ヲ給與ス但シ學年ノ中途ニ於テ依託學生ヲ命セラレタル者ニ對シテハ其ノ際之ヲ支給ス
- 第十二條 依託學生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ依託學生ヲ免ス
 - 一 品行不良、學業懈怠又ハ規則違反等ノ故ヲ以テ當該學校長ニ於テ退學處分ヲ爲シタル者
 - 二 成績不良ニシテ成業ノ見込ナキ者
 - 三 傷疾又ハ疾病ニ罹リ治療ノ見込ナキ者
- 第十三條 前項各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ給與シタル學資被服費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム但シ前項第二號、第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ全部

〔補法〕

樺太廳長官宛

第二號書式

三錢收 入印紙 誓約書

今般樺太廳中等學校教員依託養成規程ニ依リ依託學生御指命相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ修業致スヘキハ勿論卒業ノ上ハ相當期間御指定ノ職務ニ從事スヘク萬一御規程ニ違反致候場合ハ保證人連署ヲ以テ學資被服費等償還可致仍テ保證人連署誓約候也

年 月 日

樺太廳長官宛

第一號書式

本籍 現住所 依託學生 氏 名印

本籍 現住所 保證人 氏 名印

本籍 現住所 保證人 氏 名印

又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

- 第十條 依託學生ハ正當ノ事由ナクシテ給費ヲ辭シ又ハ退學スルコトヲ得ス
- 第十一條 前項規定ニ違反シタルトキハ既ニ給與シタル學資被服費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 依託學生ハ卒業後其ノ學資ノ給與ヲ受ケタル期間ト同一期間樺太廳長官ノ指定スル職務ニ從事スル義務ヲ負フ
- 第十三條 就職義務年限中禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ懲戒免官トナリタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ在學中給與シタル學資被服費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ償還義務ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ
- 第十四條 就職前若ハ在職中ニ於テ現役兵ニ服シタルトキハ其ノ間前條第一項ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス疾病ノ爲就職シ難キトキ亦同シ
- 第十五條 附則
- 第十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十七條 第一號書式
- 第十八條 依託學生採用願
- 第十九條 樺太廳中等學校教員依託學生志願ニ付御認許被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ可相守候仍テ戶籍謄本、履歴書相添ヘ此段奉願候也
- 第二十條 本籍 現住所 氏 名印
- 第二十一條 年 月 日
- 第二十二條 第十二類 學事 氣象 第二章 學事

遞信官吏練習所依託生規程

大正十一年四月八日
告示第五十七號

改正 大正四年三月告示三七號、昭和二年九月一六二號

遞信官吏練習所依託生規程

第一章 總則

第一條 遞信官吏練習所依託生(以下單ニ依テ依託シ選信事業ニ必要ナル特種ノ學藝技術ヲ練習セシムルモノトス)

第二條 依託生ノ練習科別ハ第一部行政科、第二部行政科、技術科、專修科及技術補習科ノ五種トス

第三條 依託生在學中ノ取締ニ關シテハ總テ遞信官吏練習所長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 入學

第四條 依託生ハ現ニ樺太廳管内通信官署ニ奉職スル職員其ノ他一般志願者ヨリ試験ノ上之ヲ選拔ス其ノ科目及程度ハ遞信官吏練習所規則ヲ準用ス但シ專修科及技術補習科ニ對シテハ現ニ樺太廳管内通信官署ニ奉職スル者ニ限ル

第五條 依託生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ第二條第二項ニ依ル各規程ノ資格ヲ具フル者ニ限ル

第六條 依託生志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書並ニ醫

師ノ健康診斷書ヲ添ヘ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第七條 依託生トシテ選拔ノ通知ヲ受ケタル者ハ速ニ身元保證人ヲ定メ第三號書式ノ誓約書ヲ樺太廳ニ提出スヘシ

第八條 身元保證人ハ二名トシ相當資産ヲ有スル者又ハ樺太廳管内ニ於ケル判任官五級俸以上ノ官吏タルヲ要ス但シ前段ノ場合ニ於テハ保證ノ責ニ任シ得ヘキ市町村長ノ證明アル者ナルコトヲ要ス

第九條 身元保證人死亡シ又ハ前條ノ資格喪失シタルトキハ更ニ身元保證人ヲ定メ第四號書式ノ身元保證人變更願ヲ提出スヘシ

第十條 依託生ハ樺太廳無給通信員トシテ入學ヲ命ス但シ現ニ樺太廳通信官署ニ在職スル者ハ現官職ノ儘入學ヲ命スルコトアルヘシ

第三章 給與

第十一條 第一部行政科、第二部行政科及技術科依託生ニハ在學中修業費用トシテ日額金一圓五十錢ヲ支給ス

第十二條 依託生ニハ左ノ場合ニ於テハ樺太廳職員內國旅費規程ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ第二號ノ場合ハ旅費ヲ減額スルコトアルヘシ

第十三條 依託生ニハ選信官吏練習所所定ノ制服、制帽、靴及練習用ノ器具、書籍ヲ給與又ハ貸與スルコトアルヘシ

第四章 義務

一 入學又ハ復歸ノ爲旅行ヲ命シタルトキ

二 實修又ハ卒業試験ノ爲メ旅行ヲ命シタルトキ

〔補法〕

現住所

何局勤務

官職

氏

生年月日

名

樺太廳長官宛 第二號書式

履歷書

原籍

現住所

何

生年月日

某

學業

一、大正何年何月何日 何學校入學何學專修又ハ修業

一、大正何年何月何日 何學校(卒業證書)寫添付ヲ要ス

官職

一、大正何年何月何日 通信事務員ヲ命ス

但シ日給金何錢給與

一、大正何年何月何日 任樺太廳通信書記補

但月俸何圓給與

一、大正何年何月何日 何課勤務ヲ命ス

賞罰

一、大正何年何月何日 事務格別勉勵ニ付慰勞トシテ何圓給與ス

樺太廳

第十四條 依託生ハ練習終了後滿五年間樺太廳通信官署ニ在職スル義務アルモノトス但シ休職中ノ期間ハ此ノ年限ニ算入セズ

第十五條 依託生在學中又ハ義務年限中左記各號ノ一ニ該當スルトキハ在學中給與シタル俸給料ニ相當スル金額並ニ第十一條ノ規定ニヨリ給與シタル修業費用ヲ一時ニ納付スル義務アルモノトス但シ事情ニ依リ其ノ分納ヲ許可シ又ハ其ノ全部若クハ一部ノ納付ヲ免除スルコトアルヘシ

- 一 退學ヲ命シ又ハ許可シタルトキ
- 二 疾病又ハ自己ノ便宜ニヨリ退官又ハ退職シタルトキ
- 三 兵役ニ服スル爲メ休職退官又ハ退職ヲ命セラレタル場合ニ於テ其服役滿期後三月以内ニ疾病又ハ自己ノ便宜ニヨリ樺太廳管内通信官署ニ奉職セサルトキ但シ服役期間ハ義務年限中ニ算入セズ
- 四 刑ノ宣告又ハ懲戒處分ニヨリ免官又ハ免職セラレタルトキ
- 五 樺太廳通信官署以外ニ轉官又ハ轉職シタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

遞信官吏練習所依託生志願書

私儀

依託生トシテ何科志願ニ付試験ノ上入學許可相成度履歷書相添此段願上候也

年月日

原籍

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

一、大正何年何月何日 何々ニ付證實ス
右之通相違無之候也

第三號書式

三錢 印紙 誓約書

原籍 何
族籍 何某子弟
現住所 官職 何
生年月日 某

今般依託生トシテ選信官吏練習所何科へ入學許可相成候ニ就テハ御規
則堅ク相守リ在學中ハ專心勉勵可致ハ勿論萬一不得已事故ニヨリ中途
退學又ハ義務年限中退職シタル場合ハ身元保證人連帶ヲ以テ選信官吏
練習所依託生規程第十五條ノ金額上納ノ責ニ任スヘク候仍テ身元保證
人連署誓約書提出候也
大正 年 月 日 右 何 某

原籍 何
現住所 官職 何
身元保證人 何
生年月日 某

官職名

身元保證人 何
生年月日 某

原籍 何
現住所 官職名

身元保證人 何
生年月日 某

第四號書式

三錢 印紙 身元保證人變更届

原籍 何
現住所 官職

今般誓約書連帶身元保證人何某死亡又ハ何々ニ付更ニ前記ノ者ヲ身元
保證人ト相定メ候間及御届候也
年 月 日 (元選信官吏練習所何科依託生) 某
(何局勤務) 何 某

私儀前書何某ノ身元保證人ト相成候ニ付テハ本人連帶ヲ以テ前保證人
ノ義務ヲ繼承シ其ノ責ニ任シ可申候也

【編法】

年 月 日

原籍 何
現住所 官職

身元保證人 何
生年月日 某

樺太廳長官宛

鐵道局教習所依託生規程

大正十一年十月二十七日
廳訓令第九十二號

鐵道局教習所依託生規程

- 第一條 鐵道局教習所依託生(以下單ニ依託生ト稱ス)ハ札幌鐵道局教習所ニ依託シ鐵道業務ニ須要ナル學術技能ヲ學習セシムルモノトス
- 第二條 依託生ノ學習科別ハ鐵道局教習所專修部中左記ノ七科トシ臨時之ヲ定ム
 - 一、職員車掌科 一、檢車科 一、電信科 一、信號操車科 一、機關手科 一、電車科 一、機關助手科
- 第三條 依託生在學中ノ取締ニ關シテハ總テ鐵道局教習所長ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條 依託生ハ志願者ノ中ヨリ試験ノ上之ヲ選拔ス其ノ科目及程度ハ

第十二類 學事 氣象 第一章 學事

【編法】

鐵道局教習所規程中入學試験ニ關スル規程ヲ準用ス

- 依託生志願者ハ現ニ樺太廳鐵道事務所ニ奉職スル職員ニシテ三月以上勤續シ鐵道局教習所規程ノ定ムル資格ヲ具フル者ニ限ル
- 第五條 依託生志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書並醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ鐵道事務所長ヲ經由シ樺太廳長官ニ提出スヘシ
- 第六條 依託生トシテ選拔ノ通知ヲ受ケタルモノハ速ニ第三號書式ノ誓約書ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ
- 第七條 依託生ハ現職ノ儘トシ入學中現職相當ノ給料ヲ支給ス
- 第八條 依託生ニハ在學中修業費用トシテ別ニ定ムル金額ヲ支給ス
- 第九條 依託生ニハ左ノ場合ニ限り樺太廳職員內國旅費規程ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給ス
 - 一、入學又ハ復歸ノ爲旅行ヲ命シタルトキ
 - 二、實習又ハ卒業試験等ノ爲旅行ヲ命シタルトキ
- 第十條 依託生ニハ鐵道局教習所所定ノ制服、制帽、靴及學習用ノ器具、書籍ヲ給與又ハ貸與シ若ハ之ニ相當スル金額ヲ給與スルコトアルヘシ
- 第十一條 依託生ハ卒業後左ノ期間樺太廳鐵道事務所ニ奉職スル義務アルモノトス
 - 一、修業期間四月ノ者ハ義務年限一年
 - 二、修業期間六月ノ者ハ同一年半
 - 三、修業期間八月ノ者ハ同二年
- 第十二條 依託生ヲ命セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ依託生ヲ辭スルコトヲ得ス
- 第十三條 依託生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ依託生ヲ免ス

- 一、退學處分ヲ受ケタルトキ
 - 二、免官免職退官退職又ハ轉官轉職シタルトキ
 - 三、依託生タルニ不適當ナリト認メタルトキ
 - 四、鐵道事務所ニ於テ必要アルトキ
- 第十四條 依託生在學中又ハ義務年限中左記各號ノ一ニ該當スルトキハ在學中給與シタル給料並修業費用ニ相當スル金額ヲ一時ニ返納スル義務アルモノトス但シ事情ニ依リ其ノ全部若ハ一部ノ返納ヲ免除スルコトアルヘシ

- 一、退學ヲ命シ又ハ許可シタルトキ
- 二、疾病又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官又ハ退職シタルトキ
- 三、兵役ニ服スル爲メ休職、退官又ハ退職ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ服役滿期後義務年限ヲ終ヘスシテ疾病又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官又ハ退職シタルトキ但シ服役期間ハ義務年限中ニ算入セス
- 四、刑ノ宣告、又ハ懲戒處分ニ依リ免官又ハ免除セラレタルトキ
- 五、樺太廳鐵道事務所以外ニ轉官又ハ轉職シタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前現ニ依託生トシテ派遣中ノ者ニモ本令ヲ適用ス

第一號書式

鐵道局教習所依託生志願書

私儀

鐵道局教習所依託生トシテ何科志願ニ付試験ノ上入學許可相成度履歴書相添ヘ此段相願候也

十二年 月 日

原籍 某
現住所 何
勤務所 何
官職 氏
生年月日 某

樺太廳長官宛

第二號書式 履歴書

原籍 某
現住所 何
生年月日 某

學業 何
一、何年何月何日 何々學校卒業
二、何年何月何日 何々ヲ命ス
三、何年何月何日 何々ヲ命ス
但シ日給金何錢給與
一、何年何月何日 何々勤務ヲ命ス
二、何年何月何日 何々ノ爲何々ヲ受ク
右ノ通相違無之候

年 月 日

〔補法〕

〔補法〕

第三號書式

誓約書

三 收 入 紙

原籍 某
現住所 何

官職 何

生年月日 某

今般依託生トシテ鐵道局教習所何科へ入學許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ在學中ハ専心勉勵可致ハ勿論卒業ノ上ハ鐵道局教習所依託生規程ノ定ムル期間内ハ御指定ノ通就職可致萬一御規程ニ違反致候場合ハ御命令通辨償ノ責ニ任スヘク候仍テ此段誓約候也

樺太廳長官宛

右 何 某

第二章 氣象

●天氣豫報及暴風警報規程

大正七年十月九日
告示第百十五號

改正 大正八年八月告示一五號、一一年一月二三號

天氣豫報及暴風警報規程

- 第一條 天氣豫報トハ翌日ニ於ケル樺太廳管内ノ天氣ヲ豫告スルモノニシテ左ノ區分ニ依リ樺太廳觀測所之ヲ發ス但シ觀測所支所所在地ニ於ケル天氣豫報ハ同支所之ヲ發ス
- 一 東海岸南部 長濱郡、富内郡、大泊郡、留多加郡、豐原郡、榮濱郡
- 二 東海岸北部 元泊郡、新岡郡、敷香郡、散江郡
- 三 西海岸南部 本斗郡、真岡郡、野田郡、泊居郡
- 四 西海岸北部 久春内郡、鶴城郡、名好郡
- 第二條 天氣豫報ハ毎日午後五時以前ニ之ヲ發ス但シ天候急變ノ場合ニハ翌日午前六時以前ニ於テ追報ヲ發スルコトアルヘシ
- 第三條 天氣豫報ハ風、晴、曇、雨、雪及氣溫劇變ニ就キ之ヲ發ス
- 第四條 暴風警報トハ樺太島附近ニ荒模様アルヲ豫告スルモノニシテ樺太廳觀測所之ヲ發ス但シ必要ト認ムル場合ハ觀測所支所所在地ニ於ケル暴風警報ハ同支所之ヲ發ス
- 第五條 暴風警報ハ之ヲ分チテ左ノ三種トス
- 一、風強カラムトスル虞アルトキ發スルモノ
- 二、風雨ノ強カラムトスル虞アルトキ發スルモノ

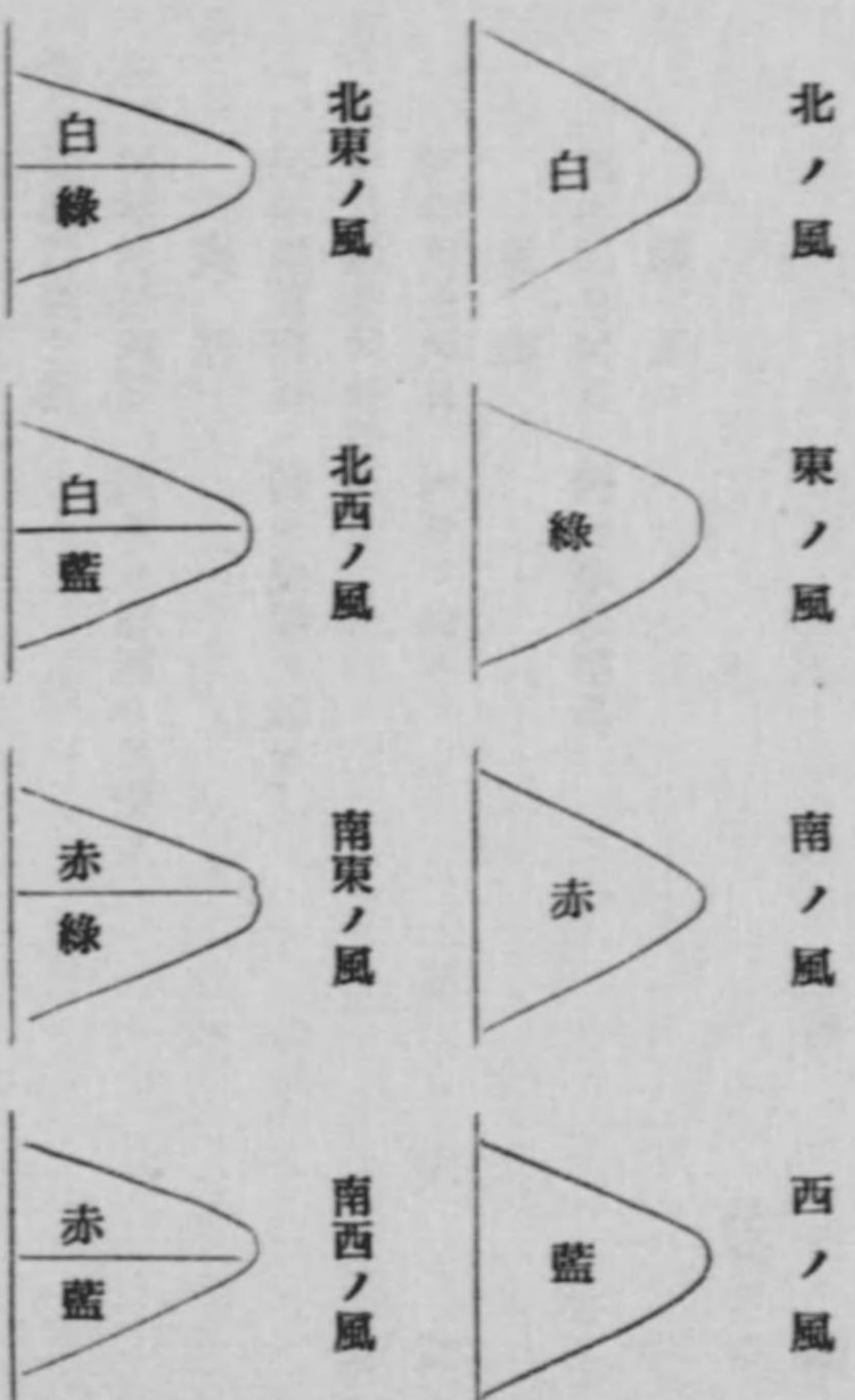
- 三、暴風雨ノ虞アルトキ發スルモノ
- 第六條 天候平穩ニ復セムトスルトキハ解警報ヲ發ス

●天氣豫報及暴風警報信號標規程

大正七年十月九日
告示第百十六號

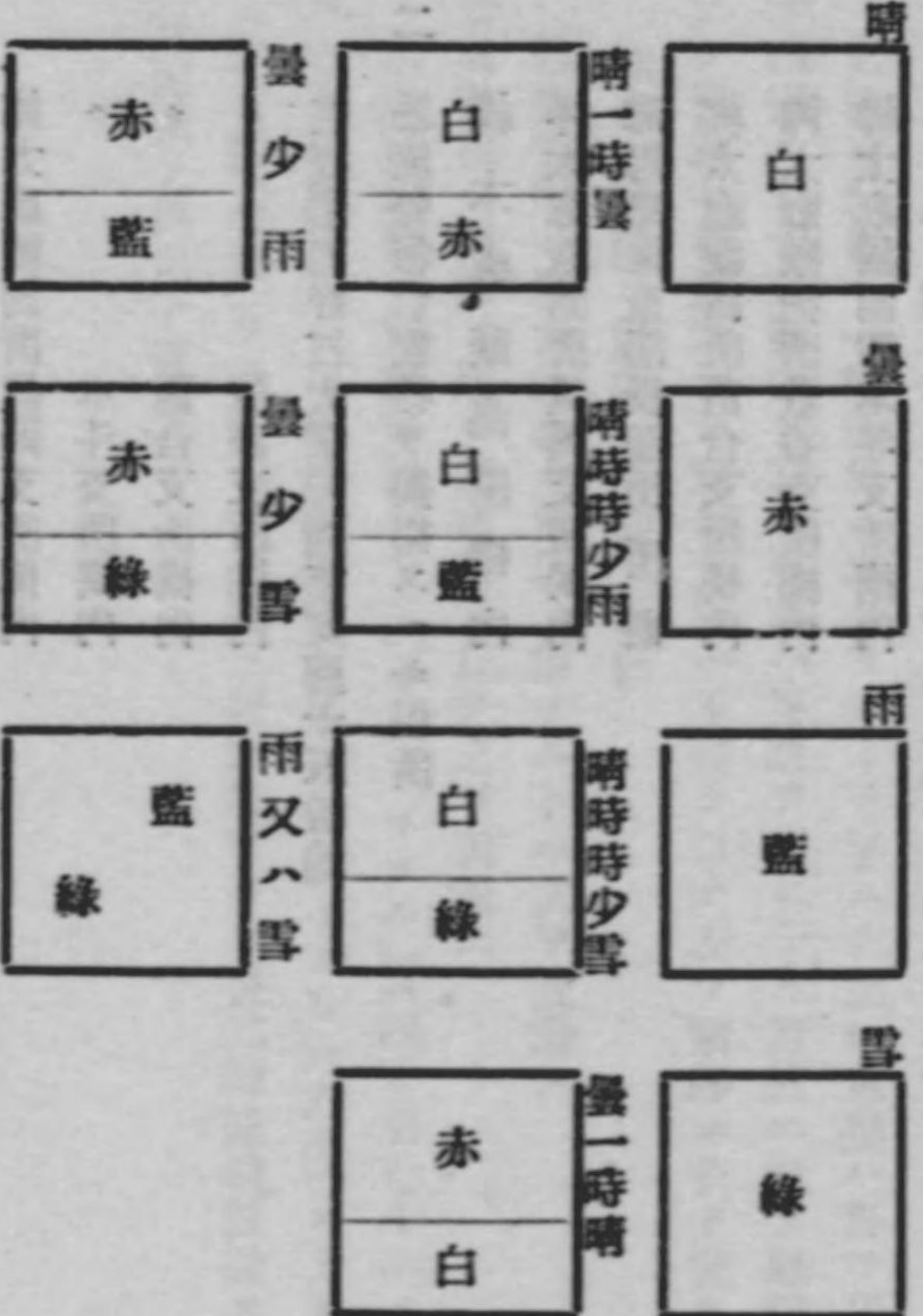
天氣豫報及暴風警報信號標規程

- 第一條 天氣豫報信號標ヲ分チテ左ノ三種トス
- 一、風向ハ三角旗ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ



〔繪法〕

一、晴、曇、雨、雪ハ方旗ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ



一、氣溫ノ劇變ハ長旗ヲ以テ之ヲ示ス其ノ分類左ノ如シ

氣溫劇昇

氣溫劇降



- 第二條 豫報ヲ前後數段ニ分ツトキハ信號標ハ其ノ順序ニ依リ連揚シ信號標ナキ豫報用語ニ對シテハ近似ノ信號標ヲ掲タルモノトス
- 第三條 天氣豫報信號標ハ毎日日没迄之ヲ掲揚スルモノトス
- 第四條 暴風警報信號標ヲ分チテ赤球、赤圓筒、赤圓錐ノ三種トシ夜間

〔繪法〕

ハ紅燈一箇ヲ以テ球ニ紅燈二箇ヲ以テ圓筒ニ紅燈三箇ヲ以テ圓錐ニ代用ス其分類左ノ如シ

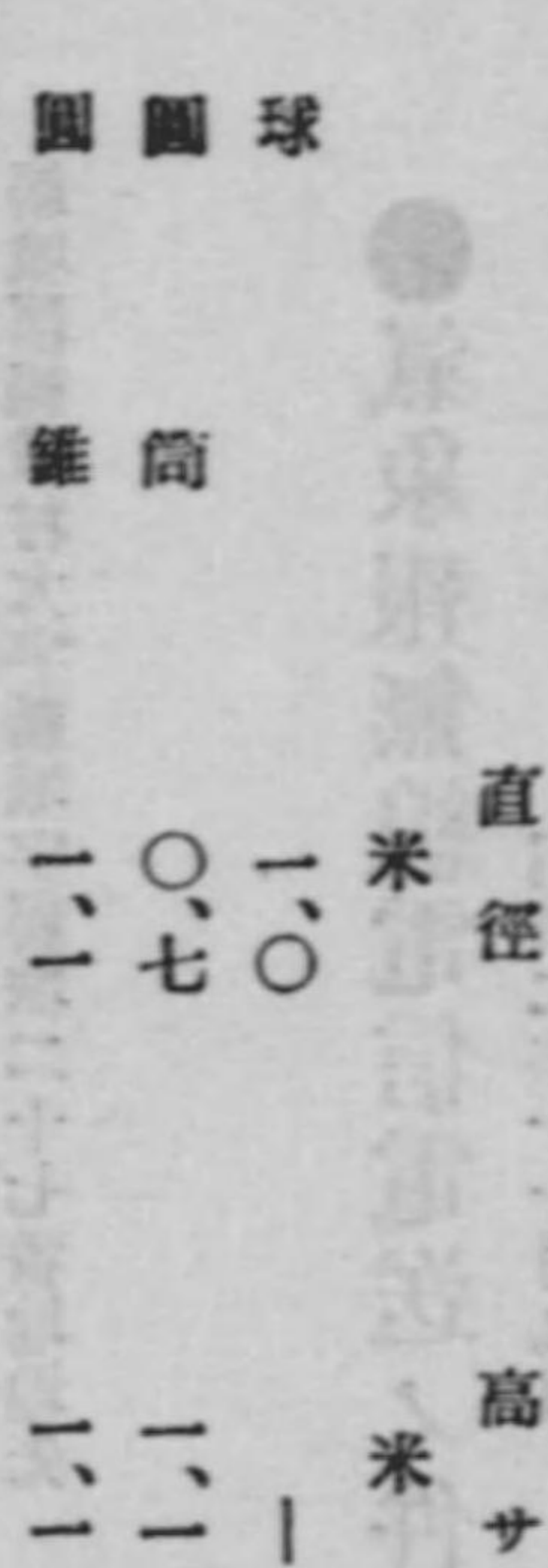
夜間信號

夜間信號

解警報



第五條 暴風警報信號標ノ大サハ左ノ割合ニ據ルモノトス但シ球ノ直径ハ三尺以上トス



- 第六條 暴風警報信號標ハ警戒中ニ之ヲ掲揚ス
- 第七條 天氣豫報信號標及暴風警報信號標ヲ掲揚スヘキ場所ハ別ニ之ヲ定ム

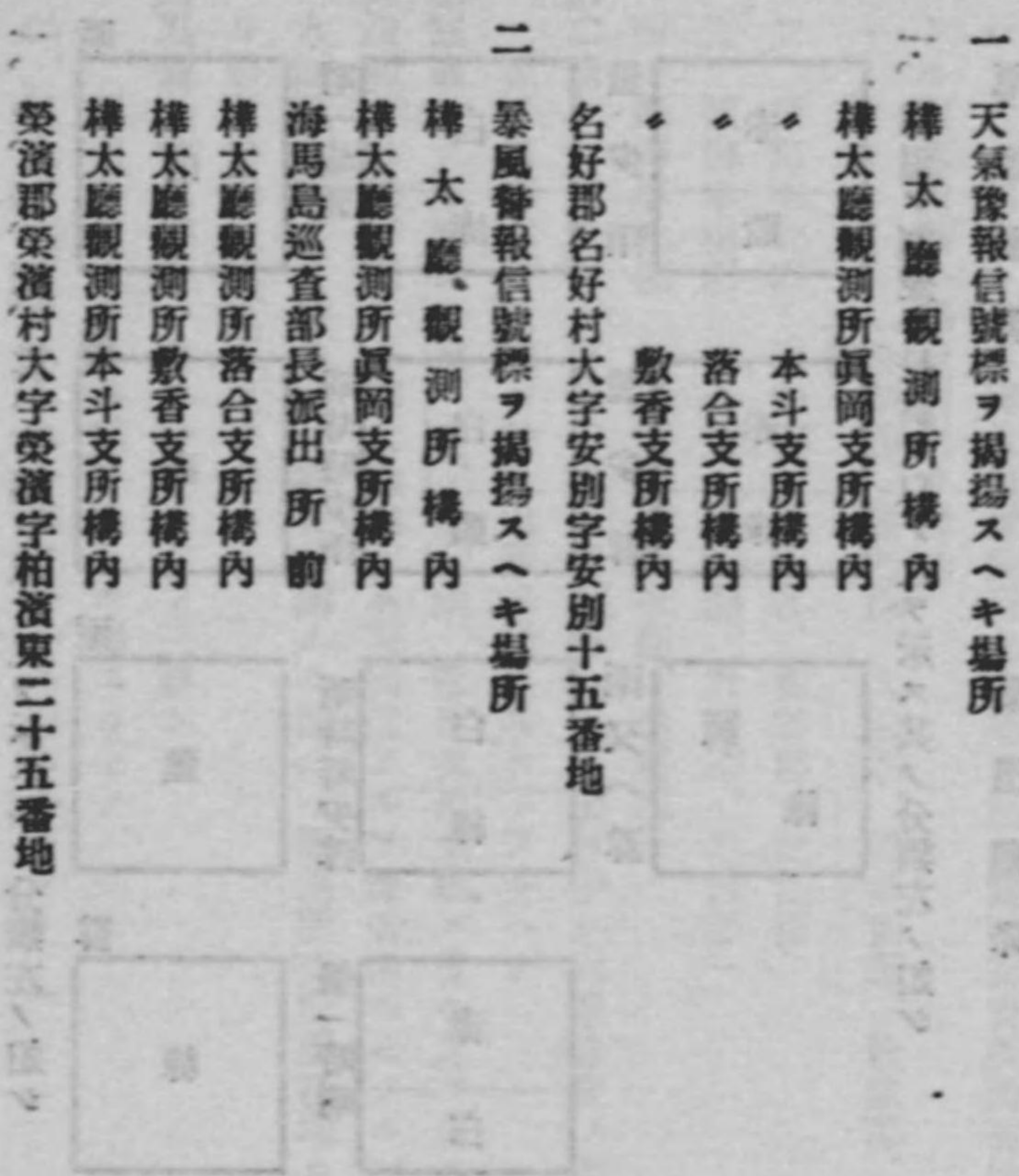
●天氣豫報信號標及暴風警報信號

標ヲ掲揚スヘキ場所

大正七年十月九日
告示第百十七號

改正 大九年七月告示八七號、一二年一八八號、一〇年七月二六號、一二年二月二七號、九月一七二號、一二月二三五號、一二年四月六四號、昭四年一〇月二〇號

天氣豫報信號標及暴風警報信號標ヲ掲揚スヘキ場所左ノ如シ



元泊郡元泊村大字元泊字元泊百二十九番地ノ一

棒太廳 泊居 支廳構内

野田郡野田町大字野田町字濱町二丁目二十番地地先

名好郡名好村大字安別字安別十五番地

鶴城郡鶴城村大字鶴城字鶴城二十七番地地先

●氣象報無線電信電送ノ件

昭和二年十一月九日
告示第百一號

改正 昭六年一〇月告示二〇九號

昭和二年十一月十日ヨリ大泊郵便局無線電信分室ニ於テ棒太廳觀測所ヨリ發スル氣象實況報及暴風警報ヲ左ノ方法ニ依リ放送ス、
 大正十三年二月棒太廳告示第十五號ハ昭和二年十一月九日限り之ヲ廢止ス

一 氣象實況報ハ一日三回左ノ時刻ニ放送ス

第一回 午前八時二十五分

第二回 午後二時二十五分

第三回 午後八時二十五分

二 氣象實況報ハ午前六時(第一回)、正午(第二回)及午後六時(第三回)ニ於ケル左ノ箇所ノ觀測成績ヲ報スルモノトス但シ氣象電報未著ノ箇所ハ之ヲ省略ス

大泊 (OTOMARI) 本斗 (HONTOP) 眞岡 (MAOKA) 落合

〔棒法〕

〔棒法〕

(COTIAD) 敷香(SIKKAY) 安別(ANBEETU)

三 氣象實況報ハ一箇所毎ニ地名ヲローマ字ニテ記シ氣壓ハ軒ヲ用ヒ數字四箇ニテ十分數迄ヲ記シ風向ハ英語ヲ用ヒ十六方位ニ依リ略字ヲ以テシ風速ハ毎秒米ニテ記シ天氣ハ英語ヲ以テ左ノ順序ニ依リ記ス

地名 氣壓 風向 風速 天氣

四 暴風警報ハ棒太近海ニ暴風ノ虞アルトキ之ヲ放送ス

暴風警報ハ英語ヲ用ヒ普通文ヲ以テ之ヲ記載ス

五 氣象實況報ハ持續電波七十二「キロサイタル」(四千七百七十「メートル」)及暴風警報ハ可聽持續電波五百「キロサイタル」(六百「メートル」)ノ周波數(波長)ヲ以テ「CQ」ヲ三回反覆シタル後二回連續放送ス
 (實況報ノ例以下省略)

●報時信號ニ關スル件

昭和九年三月三十一日
告示第四十八號

棒太廳觀測所廳舎屋上ニ「モーターサイレン」ヲ設備シ昭和九年四月一日ヨリ左記方式ニ依リ報時信號ヲ開始ス

大正十五年十二月棒太廳告示第百三十九號(丁字型報時電燈信號標)

ハ昭和九年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

記

吹鳴開始 午前十一時五十九分三十秒

吹鳴停止 正午

第十二類 學事 氣象 第二章 氣象

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明

○ 樺太ニ在校又ハ在職スル一年現役兵タルヘキ者ノ身體検査期日等ニ關スル件〔大二三、陸令一二〕……………七七

○ 陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件〔大一一、勅一〇三〕……………七八

○ 海軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件〔大一一、勅一〇四〕……………七八

○ 徴兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査手續〔大一一、訓令二〇八〕……………七九

○ 徴發令中町村長ノ職務ニ關スル件〔明四〇、廳訓一四五〕……………八一

○ 陸軍召集及馬匹徴發事務終了報告方ノ件〔大一一、訓令二〇九〕……………八一

○ 軍需工業動員法〔大七、法三八〕……………八一

○ 軍需工業動員法第十六條ノ規定ニ依ル職務執行ノ證票ニ關スル件〔大七、閣令五〕……………八三

第三章 國籍

○ 國籍法〔明三三、法六六〕……………八五

○ 樺太「アイヌ」人ノ定籍ニ關スル件〔昭七、司令四七〕……………八七

○ 樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱並樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル件〔大一一、閣令七〕……………八八

○ 國籍法施行規則〔大一一、內令二六〕……………八八

○ 國籍法第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依リ外國ヲ指定スルノ件〔大二三、勅二六二〕……………九〇

○ 國籍喪失者ノ權利ニ關スル件〔明三三、法九四〕……………九〇

○ 外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件〔明三一、法二二〕……………九〇

○ 樺太ニ本籍又ハ住所ヲ有スル者ニシテ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サムトスル者出願方〔大一一、閣令六〕……………九〇

○ 犯罪人名簿等整備ニ關スル件〔昭二、訓令三七二〕……………九一

○ 戶口調査規程〔昭七、訓二二八〕……………九一

○ 土人戶口届出規則〔大一一、廳令三五〕……………九一

○ 土人戶口届出規則取扱手續〔大一一、廳訓六一〕……………九二

第四章 證明

○ 印鑑證明規則〔大一一、廳令二〇〕……………九三

○ 印鑑證明規則取扱手續〔大一一、廳訓三三〕……………九四

〔樺太〕

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明

第一章 社寺

● 樺太神社創立官幣大社ニ列セラ

ル

明治四十三年八月十七日
內閣告示第七號

樺太神社
樺太豐原町

大國 魂命
祭神 大己貴命 一座
少彥名命

右神社ヲ創立シ官幣大社ニ列セラレ候旨 仰出サル

● 官幣大社樺太神社徽章

明治四十四年五月十七日
告示第四十號

官幣大社樺太神社徽章左ノ通相定ム

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明 第一章 社寺

〔樺太〕



● 官幣大社樺太神社鎮坐式及例祭

鎮坐式 明治四十四年八月七日
內閣告示第七號

例祭 每年八月二十三日

官幣大社樺太神社主典ノ定員及 出仕ノ採用ニ關スル件

明治四十四年四月一日
閣令第八號

改正 大正九年五月閣令六號
官幣大社樺太神社主典ノ定員及出仕ノ採用ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 樺太神社主典ノ定員ハ一人トス

前項定員ノ外名譽職タル主典一人ヲ置クコトヲ得

第二條 樺太神社ニ出仕ヲ置キ主典ノ職務ヲ補助セシムルコトヲ得
出仕ハ雇員ヲ以テ之ニ充ツ宮司之ヲ命免ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官幣大社樺太神社神職俸給規則

明治四十四年四月一日
閣令第七號

改正 大正九年一〇月閣令一號、一二年三月一號、昭六年六月拓務會令二號
官幣大社樺太神社神職俸給規則左ノ通定ム

官幣大社樺太神社神職俸給規則

第一條 官幣大社樺太神社神職ノ俸給ハ別表ニ依ル

第二條 官幣大社樺太神社神職ニシテ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職

官	年	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸
司	年	二千七百七十圓	二千四百四十圓	二千二百五十圓	二千八百二十圓	二千六百五十圓	二千四百七十圓	二千二百五十圓	二千一百二十圓	一千九百五十圓	一千七百七十圓	一千五百五十圓
主典	月	九百五十圓	八百五十圓	七百五十圓	六百五十圓	五百五十圓	四百五十圓	三百五十圓	二百五十圓	二百圓	一百五十圓	一百圓

官幣大社樺太神社神職ノ加俸ニ 關スル件

大正十五年三月十日
訓令第二十七號

官幣大社樺太神社神職ノ加俸ニ關スル件左ノ通相定メ大正十五年四月分ヨリ之ヲ適用ス

官幣大社樺太神社神職ノ加俸ニ關シテハ大正十四年四月内閣訓令第一號及大正十一年九月樺太廳訓令第八十六號ノ規定ヲ準用ス

官幣大社樺太神社職員旅費規則

明治四十四年四月二十二日
閣令第九號

改正 大正九年一〇月閣令二號
官幣大社樺太神社職員旅費規則左ノ通定ム

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明 第一章 社寺

シ功績顯著ナル者ニハ特ニ宮司ニ在リテハ年額四百五十圓以内ノ加俸ヲ、福宜及主典ニ在リテハ月額三十五圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第一條ノ三 神職死亡シタルトキハ在職最終年俸ノ三分ノ一又ハ月俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族トハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第一條ノ四 宮司、福宜、主典ニハ加俸ヲ支給ス

宮司ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五以内トシ福宜、主典ノ加俸ハ月俸ノ十分ノ八以内トシ其ノ額ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條 宮司ノ俸給及加俸ハ高等官俸給、福宜及主典ノ俸給及加俸ハ判任官俸給支給ノ例ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 名譽職タル官幣大社樺太神社神職ニハ俸給定額内ニ於テ報酬ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ報酬支給ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正九年閣令第十一號)
本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

〔樺法〕

〔樺法〕

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明 第一章 社寺

第六條 神職及雇員樺太外ノ地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ當分ノ内支度料ヲ支給ス

第七條 移轉料及支度料ノ額ハ別表第三表ノ範圍内ニ於テ樺太廳長官之ヲ指定ス

第八條 神職樺太ニ於ケル勤續二年以上ニシテ退職ト爲リ三十日以内ニ樺太ヲ出發歸郷スルトキハ其ノ原籍地迄別表第一表ニ依リ前職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ懲戒處分又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 雇員勤續五年以上ニシテ社務ノ都合ニ依リ解雇ト爲リ三十日以内ニ樺太ヲ出發歸郷スルトキハ前條ノ例ニ準シ歸郷旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十條 神職在職中死亡シタルトキハ勤續年數ニ拘ラス第八條ノ例ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ支給ス

第十一條 雇員在職中死亡シタルトキハ前條ノ例ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額以内ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第十二條 樺太廳長官ハ旅費ノ定額ヲ減少シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十三條 本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ内國旅費規則ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

第四

(第二表)

區分	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料
區分	車馬賃一里付	日當一日	宿泊料一夜付	食卓料一夜付
區分	一圓五十錢	六圓	九圓	二圓五十錢
主典	一圓二十錢	三圓五十錢	六圓	二圓
雇員	九十錢	二圓五十錢	四圓五十錢	一圓二十錢
備人	七十錢	二圓	三圓五十錢	八十錢

(第三表)

區分	移轉料	支度料
區分	移轉料	支度料
區分	百五十圓以内	二百圓以内
備人	五十圓以内	五十圓以内

(第五表)

區分	移轉料	支度料
區分	移轉料	支度料
區分	百五十圓以内	二百圓以内
備人	五十圓以内	五十圓以内

官幣大社樺太神社職員樺太内旅費減額並移轉料支給ノ件

大正十二年五月十七日訓令第八十七號

官幣大社樺太神社 内務部

官幣大社樺太神社職員樺太内ヲ旅行スル場合ノ旅費ハ當分ノ内別表第一ニ移轉料ハ別表第二ニ依リ支給ス

(別表第一)

區分	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料
區分	車馬賃一里付	日當一日	宿泊料一夜付	食卓料一夜付
區分	一圓五十錢	五圓	七圓	二圓五十錢
主典	七十五錢	三圓	五圓	二圓
雇員	六十錢	二圓	四圓	一圓五十錢
備人	四十五錢	一圓二十錢	三圓	九十錢

(別表第二甲)

區分	陸路	汽路	海路
區分	陸路一里付	汽路一哩付	海路一海里付
區分	一圓五十錢	二十錢	三十錢
主典	一圓	十五錢	二十錢
雇員	八十錢	十錢	十五錢

(別表第二乙)

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明 第一章 社寺

官幣大社樺太神社神職奉務規律

明治四十四年四月一日 内閣訓令第一號

官幣大社樺太神社神職

官幣大社樺太神社神職奉務規律左ノ通定ム

官幣大社樺太神社神職奉務規律

第一條 神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ素行ヲ正シ以テ其ノ本務ヲ盡スヘシ

第二條 祭典ハ國家尊倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 新年祭、新嘗祭、例祭其ノ他官祭ノ典則ハ非常ノ事故アルニ非サレハ成規ノ時間ヲ伸縮スヘカラス

第四條 公衆ノ求ニ應シ神符等ヲ授クルハ妨ナシト雖苟モ食汚ノ所爲ア

(樺法)

(樺法)

備考 路程ノ計算ニ付テハ陸路一里ハ二哩、一海里ハ一哩トシ各汽車路ニ概算ス

外轉	内轉	外轉	内轉	外轉	内轉
ノリ	ヨ	外	内	外	内
料	料	料	料	料	料
雇員	主典	備人	雇員	主典	備人
四十五圓	九十圓	七十圓	三十五圓	三十圓	十五圓

ルヘカラス

第五條 神社所蔵ノ寶物、什器、古文書類等ハ散逸セサル様嚴重ニ監守スヘシ

第六條 社殿及境内ハ常に清潔ナラシムヘシ

官幣大社樺太神社處務規程

明治四十四年四月一日
内閣訓令第二號

官幣大社樺太神社

官幣大社樺太神社處務規程左ノ通定ム

官幣大社樺太神社處務規程

第一條 官幣大社樺太神社ノ社務ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條 社務ハ宮司ニ於テ各其ノ擔任者ヲ定メ之ヲ處分セシムヘシ

第三條 神社ニ到達シタル文書ニシテ處分ヲ要スルモノハ各其ノ擔任者ニ於テ速ニ處分ノ案ヲ具シ宮司ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行シ處分ヲ要セサルモノハ宮司ノ査閱ニ供スヘシ

第四條 令達其ノ他例規トナルヘキ文書ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後類別編纂シ永久之ヲ保存スヘシ

第五條 前項以外ノ文書ハ適宜編纂シ必要ノ期間之ヲ保存スヘシ

第六條 社務所ニハ左ノ簿冊及圖面ヲ備フヘシ
一 祭神記

二 神社財産臺帳

三 境内及建物圖

四 寶物及貴重書畫什器類目錄

五 祭器具目錄

六 藏書目錄

七 文書受發簿

八 寄附金品受領簿

九 神符及守札簿

十日誌

宮司ハ前項ノ外樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ會計ニ關スル諸帳簿ヲ設ケ神社ノ收支及金品ノ出納ニ關スル事項ヲ登記スヘシ

第六條 金品ノ獻納アリタルトキハ之ヲ受領スルコトヲ得但シ用途ヲ指定シタル金品ハ其ノ用途ニ供用シ得ル場合ニ限り之ヲ受領スルコトヲ得

第七條 獻納ニ係ル金品ヲ受領シタルトキハ毎月其ノ明細書ヲ調製シ翌月五日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第八條 獻納ニ係ル樹木及草花等ハ境内適當ノ場所ニ植付クヘシ

第九條 社殿其ノ他ノ改築、増築又ハ修繕ヲ要スルトキハ工費概算書ヲ添ヘ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ竹木花卉ノ植付若ハ伐採又ハ庭園ノ修築ヲ要スルトキ亦同シ

第十條 不用物品ノ賣却ヲ要スルトキハ其ノ品目及見積價格等ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ消耗品ニ屬シ價格二圓ヲ超エサルモノハ適宜處分スルコトヲ得

〔樺法〕

〔樺法〕

ハ樺太廳長官及宮司ニ、其ノ他ハ宮司ニ届出ツヘシ

第十一條 宮司、禰宜及主典ノ除服出仕ハ樺太廳長官、其ノ他ノ除服出仕ハ宮司ノ之ヲ命スヘシ

第十二條 職員轉地療養、墓參歸省其ノ他私事ノ爲旅行ヲ要スルトキハ其ノ旅行先及日數等ヲ具シ宮司、禰宜及主典ハ樺太廳長官、其ノ他ハ宮司ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 職員死亡シタルトキハ宮司ヨリ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十四條 宮司死亡シタルトキハ禰宜ヨリ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第十五條 前項ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十六條 神社ニ風火災又ハ盜難アリタルトキハ宮司ヨリ直ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十七條 前項ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ヨリ其ノ願末ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十八條 本規程ニ定ムルモノノ外神社ノ處務上必要ナル事項ハ宮司ノ之ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

官幣大社樺太神社會計規則

明治四十四年四月一日
閣令第六號

改正 大正一〇年三月閣令一號、昭和四年六月拓務省令一號

官幣大社樺太神社會計規則左ノ通定ム

官幣大社樺太神社會計規則

第九條 社印其ノ他重要ナル印章ハ金櫃ニ收メ鎖鑰ヲ施スヘシ

第十條 神殿、倉庫及金櫃等ノ鍵ハ一定ノ容器ニ收メ封印ヲ施スヘシ但シ宮司自ラ保管スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 宮司交替シタルトキハ社務引繼書ヲ調製シ一切ノ事項ヲ其ノ後任者ニ引繼クヘシ

第十二條 宮司死亡シタルトキハ後任者ノ著任ヲ俟テ禰宜ニ於テ前項ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十三條 宮司交替シタル場合ニ於テ未タ後任者ノ任命ナキトキハ禰宜ニ對シ其ノ引繼ヲ爲スヘシ後任者ノ著任ヲ俟テ之ヲ進ナキトキ亦同シ

第十四條 前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル禰宜ハ後任宮司ニ對シ更ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 土地、建物、金品及有價證券ノ引繼ハ各其ノ帳簿及目錄ト對照シ樺太廳長官ノ派遣シタル官吏ノ立會ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

第十六條 社務ノ引繼ヲ了シタルトキハ連署ヲ以テ其ノ受渡書ヲ調製シ立會官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

第十七條 社務引繼ノ際金品ノ不足其ノ他ノ事故アリタルトキハ前項ノ受渡書ニ其ノ願末ヲ記載スヘシ

第十八條 社務ノ引繼ヲ受ケタル宮司又ハ禰宜ハ其ノ受渡書ノ謄本ヲ調製シ運送ナク樺太廳長官ニ進達スヘシ

第十九條 社務引繼ノ終了ハ樺太廳長官ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十條 職員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ宮司ハ樺太廳長官ニ其ノ他ハ宮司ニ届出ツヘシ

第二十一條 職員忌服ヲ受ケタルトキハ宮司ハ樺太廳長官ニ、禰宜及主典

第十三類 社寺 兵事 國籍 證明 第一章 社寺

- 第一條 官幣大社神太神社會計ハ本令ニ依ル
- 第二條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第三條 各年度所屬ノ收入及支出ハ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ完結スヘシ
- 第四條 左ニ掲タル諸收納ヲ神社ノ收入トス
 - 一 國庫ヨリノ交付金
 - 二 奉錢
 - 三 寄附金
 - 四 神社ニ屬スル土地物件ヨリ生スル收入
 - 五 神社ニ屬スル現金又ハ有價證券ノ利子
 - 六 其ノ他ノ雜收入
- 第五條 左ニ掲タル經費ヲ神社ノ支出トス
 - 一 祭典ニ要スル諸費
 - 二 宮司以下ノ俸給、旅費其ノ他ノ給與
 - 三 土地建物及附屬工作物ノ建設維持及保存ニ要スル費用
 - 四 什器實物ノ備付維持及保存ニ要スル費用
 - 五 社務費
- 第六條 宮司ハ毎年度豫メ收入支出ノ豫算書ヲ調製シ神太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ追加又ハ更正ヲ要スルトキ亦同シ
- 第七條 豫算ハ款項目ニ區分シ其ノ算出ノ基礎ヲ示スヘシ
- 第八條 豫算各款ノ金額ハ他ノ用途ニ流用スルコトヲ得ス
- 第九條 各項ノ金額ハ神太廳長官ノ認可ヲ得テ之ヲ他ノ用途ニ流用スルコトヲ得
- 第十條 宮司ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用スルコトヲ得ス

〔神法〕

- 第十一條 宮司ハ正當ナル債主又ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ經費ヲ支出スルコトヲ得ス
- 第十二條 過誤拂ト爲リタル金額ハ當該年度内ニ限り經費ノ定額ニ戻入スルコトヲ得
- 第十三條 宮司ハ毎月收支計算書ヲ調製シ證書類ヲ添附シ翌月五日迄ニ神太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
- 第十四條 宮司ハ毎年度收支決算書ニ通リ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ神太廳長官ハ前項ノ收支決算書ヲ審査シ七月三十一日迄ニ其ノ一通ヲ拓務大臣ニ進達スヘシ
- 第十五條 毎年度ノ剩餘金ハ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ
- 第十六條 基金ハ國債若ハ地方債證券ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部郵便官署若ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルヘシ
- 第十七條 基金ハ神社維持ノ爲ニ已ムヲ得サル場合ノ外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第十八條 神社維持ノ爲ニ已ムヲ得サルニ因リ基金ヲ支出セムトスルトキハ其ノ補填方法ヲ定メ神太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十九條 宮司ハ神社ニ屬スル現金及有價證券ノ出納保管ニ付一切ノ責任ニ任スヘシ
- 第二十條 宮司ハ自ラ事務ヲ執ラサルノ故ヲ以テ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ第十九條ノ規定ニ依リ定メタル代理人ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十一條 神太廳長官ハ宮司ノ故意又ハ怠慢ニ因リ神社ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テ

〔神法〕

明治四十四年八月八日神太廳訓令第十六號官幣大社神太神社會計規則施行細則

- 第一條 官幣大社神太神社會計規則施行細則
- 第二條 規則第十二條ニ依リ提出スル收支決算書ニハ基金明細書ヲ添付スヘシ
- 第三條 基金明細書ハ各其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ現金及有價證券ニ付テハ其ノ管理方法ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第四條 現金ハ其ノ收納シタル當日又ハ翌日郵便官署若ハ確實ナル銀行ニ預入ルヘシ但シ差拾圓未滿ノ現金ハ仕拂資金トシテ直接之ヲ保管スルコトヲ得
- 第五條 寄附金ハ總テ之ヲ當該年度ノ收入ニ組入ルヘシ但シ用途ヲ指定シタル寄附金ハ直ニ其ノ用途ニ充ツルコトヲ得
- 第六條 過誤拂ト爲リタル金額ニシテ年度經過後受入レタルモノハ總テ之ヲ當該年度ノ收入ニ組入ルヘシ
- 第七條 本則ニ定ムルモノノ外神社ノ會計事務取扱上必要ナル手續ハ宮司ノ之ヲ定メ神太廳長官ニ報告スヘシ
- 第八條 神社ニ於テ設備スル帳簿及計表類ハ別記ノ様式ニ依ルヘシ

官幣大社神太神社會計規則施行細則

大正四年八月十日 訓令第二十號

改正 大正四年四月訓令第六〇號、一三年六月三十四號

(第一號様式)

大正「何」年度神太神社會計收入支出豫算

第十三類 社寺 兵部 國書 證明 第一章 社寺

收入

項 目	款 目	節 目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増△減	備 考
						(備考ニハ算出ノ基 礎ヲ記載スヘシ)
第一 款	神 社	一 國庫交付金				
		二 神饌幣帛料				
		三 社 入 金				
二 雜 收 入	一 賽物其他收入	一 神符及守札料				
		二 神饌及初穂料				
二 雜 收 入	二 雜 收 入	三 祈 禱 料				
		四 賽 錢				
		一 預金利子				
		二 物品拂下代				
		三 社地貸付料				
		四 寄 附 金				
六 恩 給 法 納 金	六 恩 給 法 納 金	五 雜 入				
		六 恩 給 法 納 金				

支出

〔總法〕

第一 款	神 社	費 目	節 目
一 社 費	一 祭 典 費	一 祭 典 費	一 神 饌 費
			二 祭 器 費
			三 雜 用 品 費
			四 備 用 料
			一 俸 給 及 階 給
二 社 務 費	二 社 務 費	二 社 務 費	二 雜 用 品 費
			三 雜 用 品 費
			四 備 用 料
			五 賞 與 給 料
			二 雜 用 品 費
三 社 務 費	三 社 務 費	三 社 務 費	三 雜 用 品 費
			四 備 用 料
			五 賞 與 給 料
			六 通 信 運 搬 費
			七 脂 燭 費
四 旅 費	四 旅 費	四 旅 費	八 雜 費
			一 內 國 旅 費
			二 雜 用 品 費
			三 雜 用 品 費
			二 種 苗 費
五 社 地 費	五 社 地 費	五 社 地 費	三 雜 用 品 費
			四 備 用 料
			五 賞 與 給 料
			六 通 信 運 搬 費
			七 脂 燭 費

〔總法〕

支	一 營 繕 費	六 寄 贈 金	三 雜 費
	二 何々新營費	一 皇典研究所寄贈金	一 皇典研究所寄贈金
出	二 何々修繕費	二 全國神職會寄贈金	二 全國神職會寄贈金
	七 恩給法納金	一 恩給法納金	一 恩給法納金
一 豫備金	二 豫備金	二 豫備金	二 豫備金
合 計	合 計	合 計	合 計

備考

決算ハ本様式ニ準シ豫算トノ比較増減ヲ示シ尙其ノ事由ヲ備考ニ記載シ末尾ニ基金ニ編入シタル剩餘金額及其ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

(第二號様式)

大正何年度基金現金明細書

受	區	分	金	額
前 年 度 寄 附 金				

拂	計	利 子
何々公債證書額面	何程	買入
何々年度收入	ニ	繰入

〔簿法〕

在現	現 金
何々	預 金
計	金 額

備考

有價證券及不動産ノ明細書ハ本様式ニ準シ種類ノ異ナル毎ニ區分記載スヘシ

(第三號様式)

現金出納簿

年月日	摘要	受	拂	現金	預金	残
		圓	圓	圓	圓	圓

備考

一 本簿ニハ基金以外ノ現金ノ出納ヲ登記スヘシ但シ郵便官署若ハ銀行ニ預入シ又ハ拂戻シタル金額ハ「残」ノ欄ニ登記整理スヘシ
二 毎月ノ終リニ月計及累計ヲ付スヘシ

(第四號様式)

收入簿

年月日	摘要	受	拂	現金	預金	残
		圓	圓	圓	圓	圓

第十三類 社寺 兵部 國籍 證明 第一章 社寺

年月日	摘要	金	額
		圓	圓

備考

一 本簿ハ款項目毎ニ口座ヲ設ケ整理シ目毎ニ日計ヲ付シ其ノ金額ヲ項ニ項ノ金額ヲ款ニ順次記載スヘシ
二 各口座毎ニ月計及累計ヲ付スヘシ

(第五號様式)

支出簿

年月日	摘要	支出額	豫算残額
		圓	圓

備考

第四號様式收入簿ノ例ニ準シ記帳整理スヘシ

(第六號様式)

基金現金出納簿

年月日	摘要	受	拂	現金	預金	残
		圓	圓	圓	圓	圓